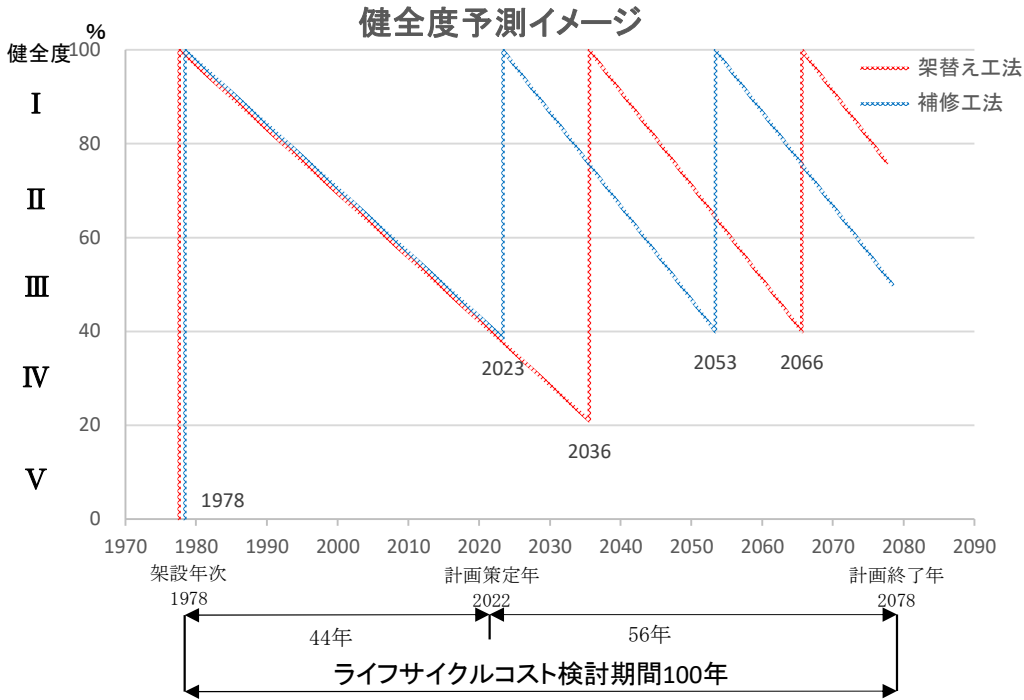


橋梁番号	226
橋梁名称	黒沢橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	A
最厳劣化、必要対策概要	主桁ひびわれ多数 床版錆汁含む遊離石灰
架設年次	1978
経過年数	44
橋長	31.8
幅員	9.5
径間数	2
路線名称	1-23号線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間RCT桁橋
橋材	RC橋
下部工	逆T式橋台、T型橋脚
河川名	一級河川 黒沢川

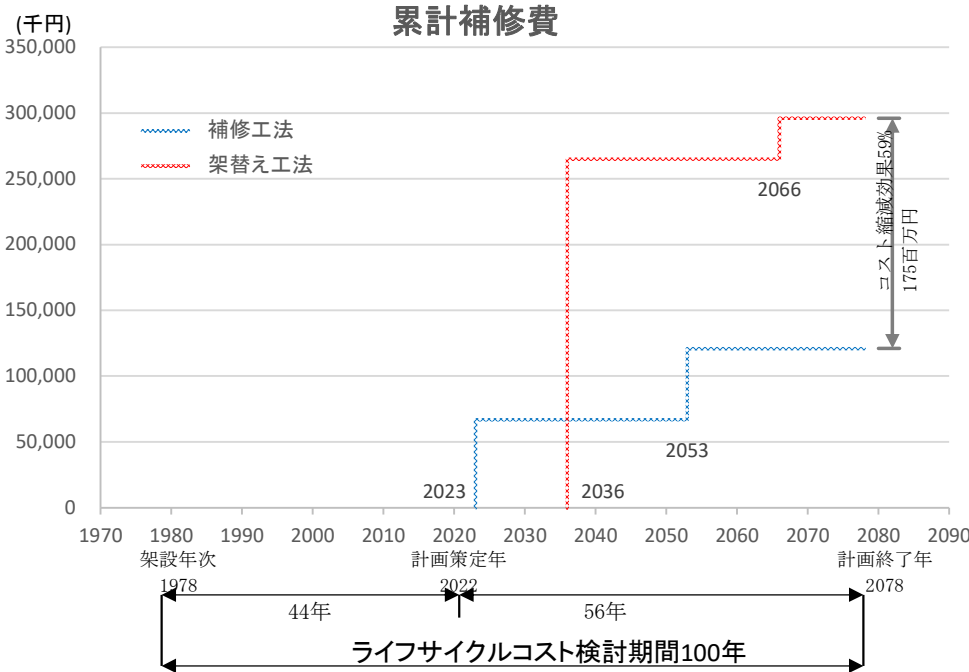
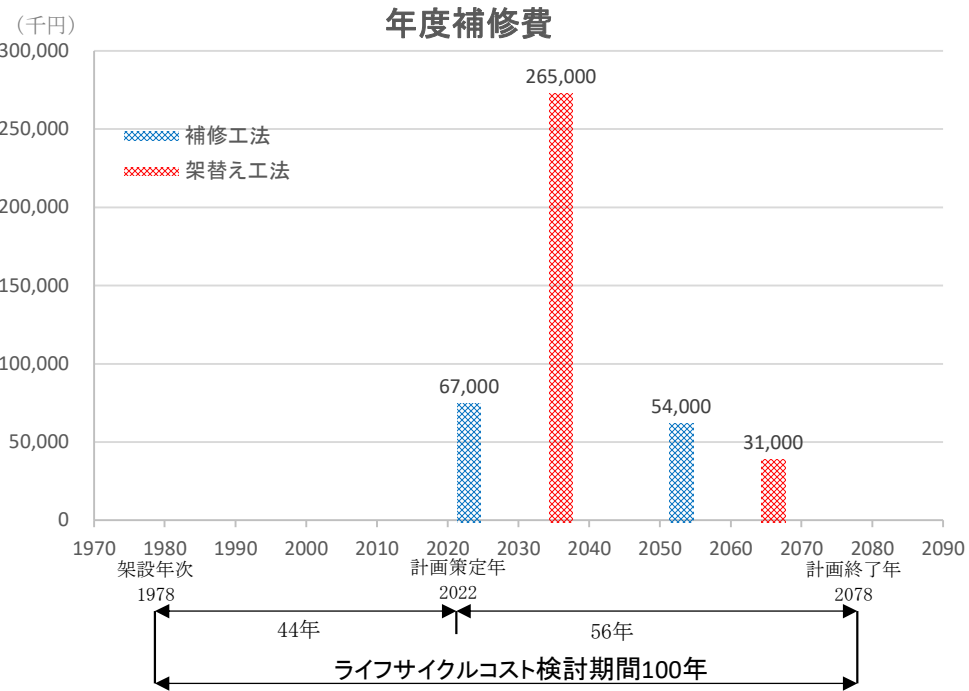


○補修工法ライフサイクルコスト

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2023	2053		2078	合 計
						数量	補修費	補修費			
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	23.5	4,700	4,700			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	290	4,350	4,350			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	290	2,610	2,610			
7	ひび割れ注工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	320	3,200				
8	ひび割れ充填工	エポキシ樹脂充填	40	8	m	4	32				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m ²	678	4,746	4,746			
6	塗装工	RC-3(ケレン込)	30	5	m ²	2	10	10			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	2,200	m ³	1.1	2,420				
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	2	20	960			
36	足場工	吊足場		11	m ²	303	3,333	3,333			
201	直接工事費	合計		1	式	1	25,421	20,709			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	67,000	54,000			121,000

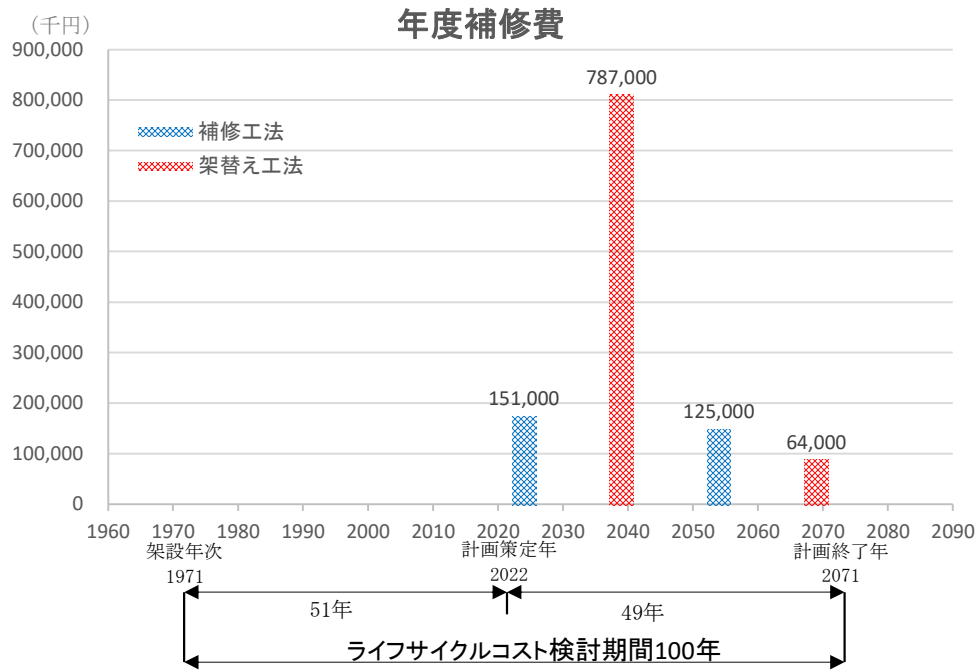
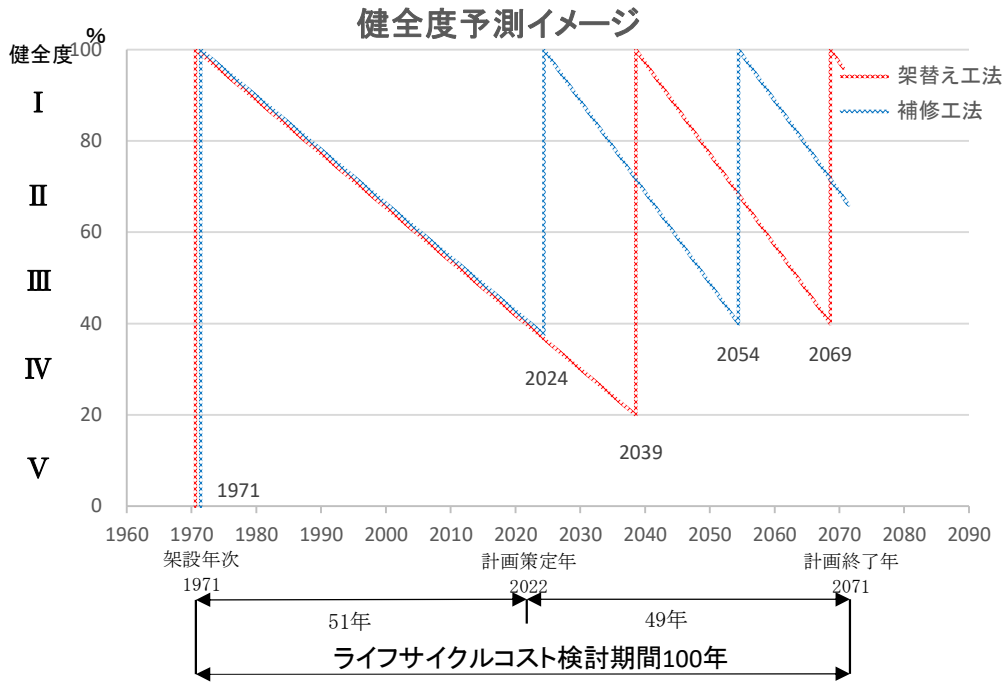
○架替え工法ライフサイクルコスト

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2036	2066		2078	合 計
						数量	架替費	補修費			
102	PCﾌﾟﾚﾝｼｮｰ桁(L=15～22m)	A=31.8×9.5	50	220	m ²	302.1	66,462				
111	橋台・橋脚	V=6×9.5×2×3	50	50	m ³	342	17,100				
117	既設橋梁取壊し工	V=6×9.5×2×3		30	m ³	342	10,260				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	160	4,800				
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	23.5		4,700			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	290		4,350			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	290		2,610			
34	水替え工	小規模河川		3,000	式	1	3,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	101,622	11,660			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	265,000	31,000			296,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が59%のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	203
橋梁名称	本郷橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	主桁ひびわれ・鉄筋路露出、横桁・床板のひびわれ多数、ゲルバーヒンジ部支承機能障害
架設年次	1971
経過年数	51
橋長	135.2
幅員	6.5
径間数	5
路線名称	大深山本郷線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	5径間単純RCゲルバー橋
橋材	RC橋
下部工	重力式橋台、T型橋脚
河川名	一級河川 千曲川

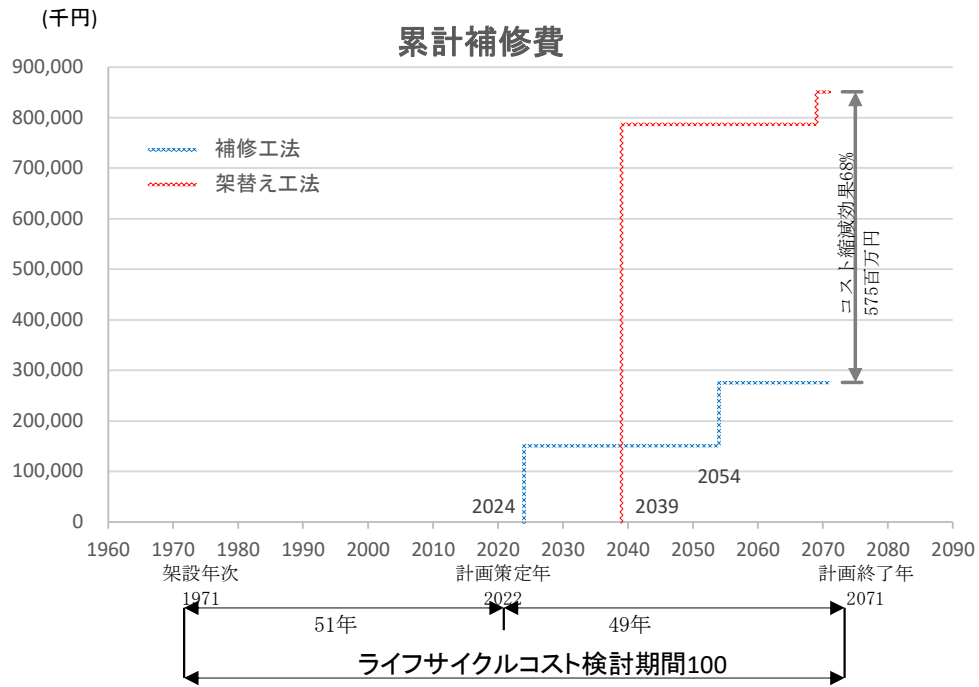


○補修工法ライフサイクルコスト

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	補修費単位：千円				
						計画策定年	補修年度			計画終了年
						2022 数量	2024 補修費	2054 補修費		2071 合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	40	8,000	8,000		
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	686	10,290	10,290		
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	686	6,174	6,174		
7	ひび割れ注工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	900	9,000			
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m ²	1920	13,440	13,440		
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m ³	0.3	1,200			
6	塗装工	RC-3(ケレン込)	30	5	m ²	33	165	165		
36	足場工	吊足場		11	m ²	879	9,669	9,669		
201	直接工事費	合計		1	式	1	57,938	47,738		
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	151,000	125,000		276,000

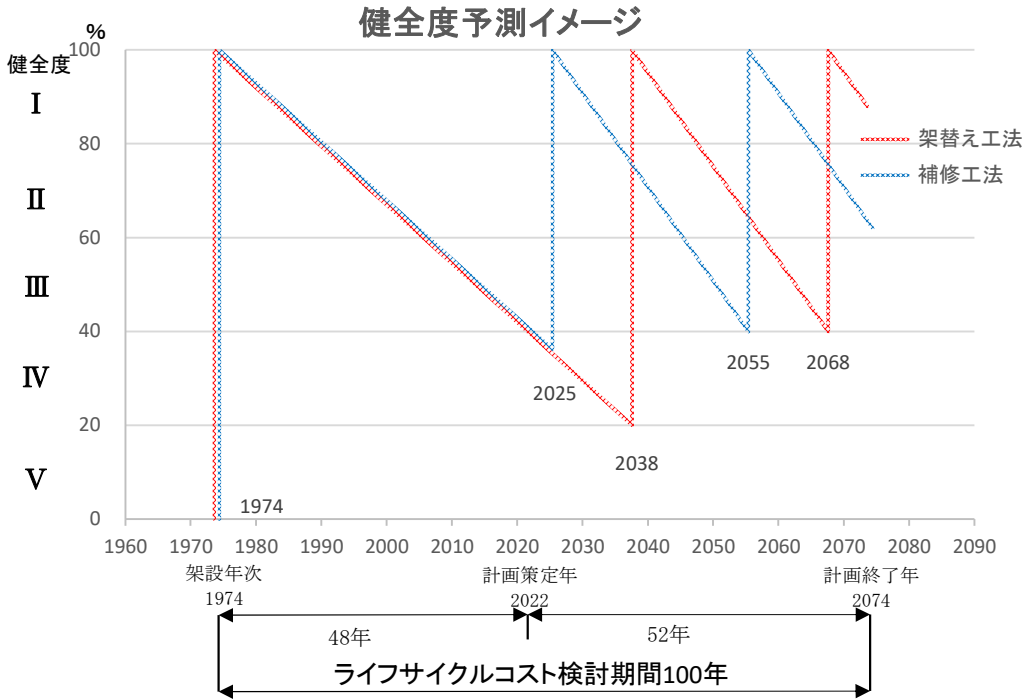
○架替え工法ライフサイクルコスト

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	補修費単位：千円				
						計画策定年	架替年度	補修年度		計画終了年
						2022 数量	2039 架替費	2069 補修費		2071 合 計
105	PCボートT桁(L=20～30m)	A=135.2×6.5	50	290	m ²	878.8	254,852			
111	橋台	V=5×10.0×2×2	50	50	m ³	200	10,000			
111	橋脚	V=5×6.5×2×4	50	50	m ³	260	13,000			
117	既設橋梁取壊し工	V=5×10.0×2×2、V=5×6.5×2×4		30	m ³	460	13,800			
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	160	4,800			
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	40		8,000		
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	686		10,290		
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	686		6,174		
32	水替え工	大規模河川		6,000	式	1	6,000			
201	直接工事費	合計		1	式	1	302,452	24,464		
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	787,000	64,000		851,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 68% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	401
橋梁名称	横沢橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	鋼床板つらら状遊離石灰 鋼製支承腐食
架設年次	1974(旧橋) 1996(拡幅部)
経過年数	48
橋長	67.4
幅員	11.75
径間数	3
路線名称	水生線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	3径間鋼鈑桁橋(非合成)
橋材	鋼橋
下部工	逆T式橋台、T型橋脚
河川名	一級河川 千曲川

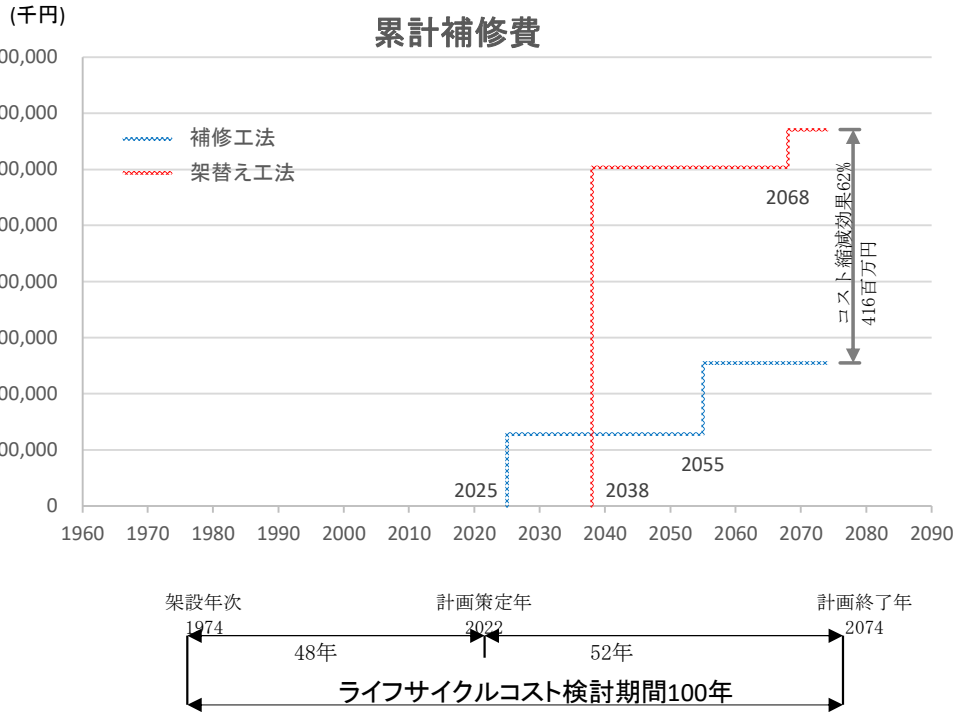
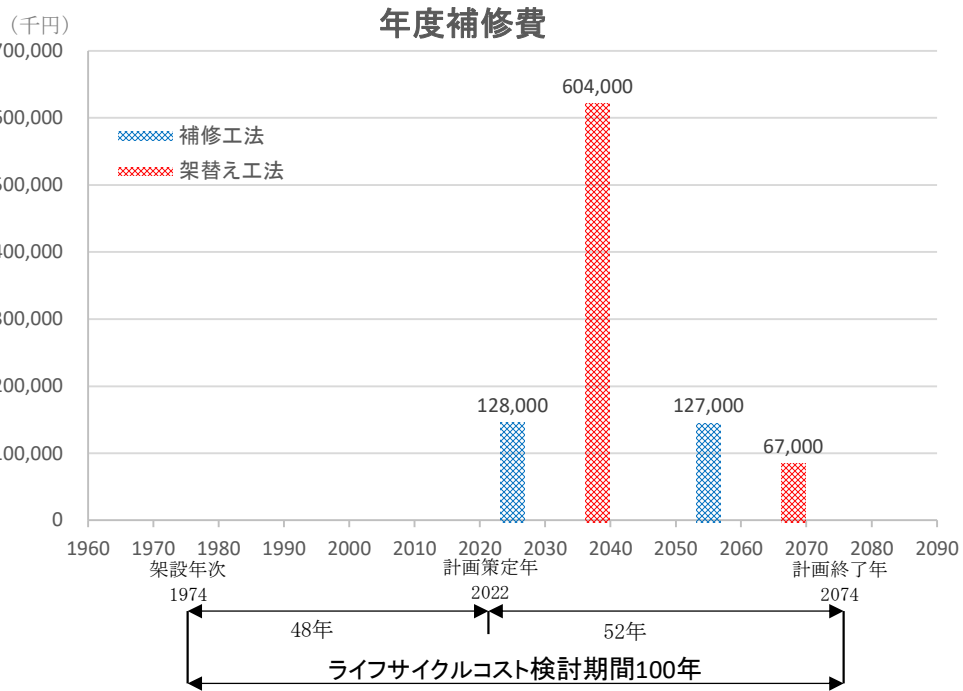


○補修工法ライフサイクルコスト

		細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年	補修費単位：千円
						2022	2025	2055			2074	
						数量	補修費	補修費			合 計	
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	43.0	8,600	8,600				
45	縦目地取替工	撤去・新設	40	170	m	67.4	11,458	11,458				
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	700	10,500	10,500				
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	700	6,300	6,300				
6	塗装工	RC-3(ケレン込)	30	5	m2	136	680	680				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	360	2,520	2,520				
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.1	400					
36	足場工	吊足場		11	m2	792	8,712	8,712				
201	直接工事費	合計		1	式	1	49,170	48,770				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	128,000	127,000			255,000	

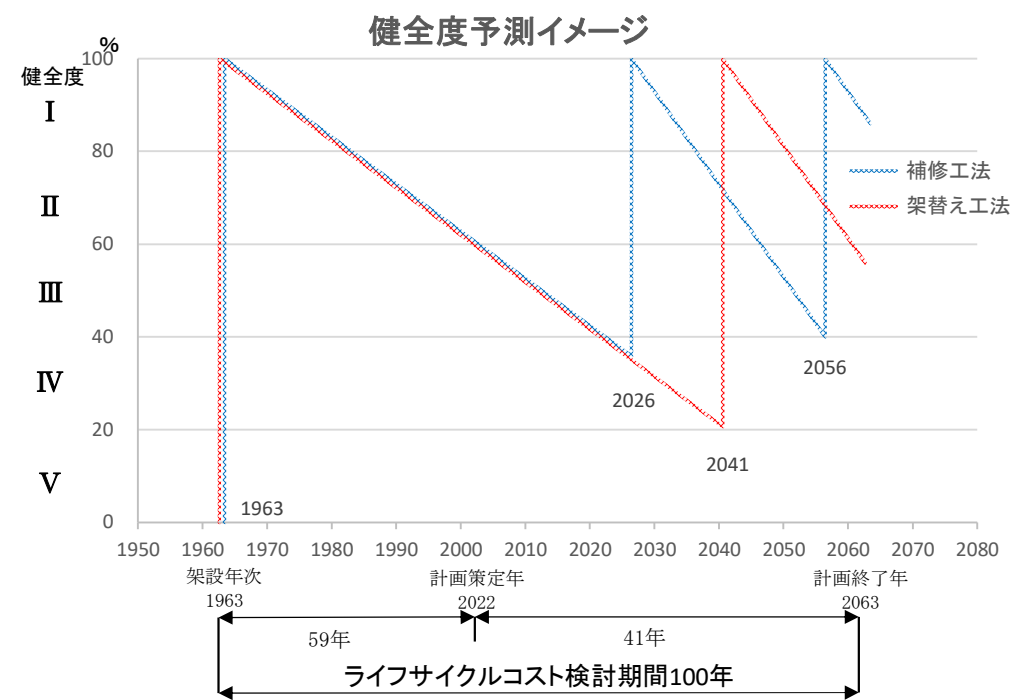
○架替え工法ライフサイクルコスト

		概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度		計画終了年	補修費単位：千円
						2022	2038	2068		2074	
						数量	架替費	補修費		合 計	
102	PCプレテンボロー桁(L=15～22m)	A=67.4×11.75	50	220	m2	791.95	174,229				
111	橋台・橋脚	V=6×11.75×2×4	50	50	m3	564	28,200				
117	既設橋梁取壊し工	V=6×11.75×2×4		30	m3	564	16,920				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	220	6,600				
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	43		8,600			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	700		10,500			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	700		6,300			
32	水替え工	大規模河川	0	6,000	式	1	6,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	231,949	25,400			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	604,000	67,000		671,000	



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 62% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	808
橋梁名称	大日沢橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A.+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	主桁、横桁、床版のひびわれ、綫鋼板蓋床版腐食
架設年次	1963(旧橋) 1984(拡幅部)
経過年数	59
橋長	18.6
幅員	9.8
径間数	1
路線名称	秋山川端下線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間PCT桁、RCT桁橋
橋材	RC・PC橋
下部工	逆T式橋台
河川名	普通河川 大日沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

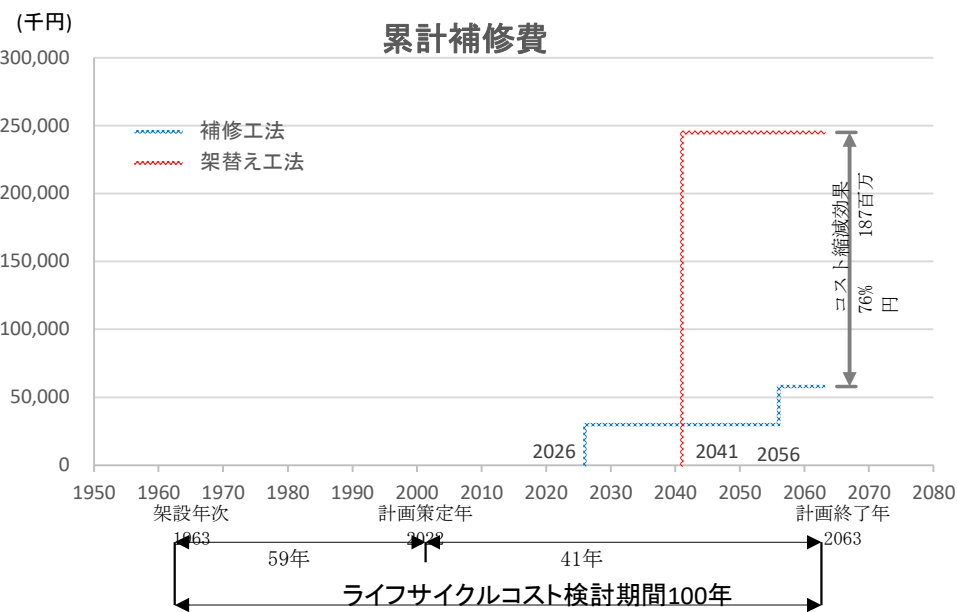
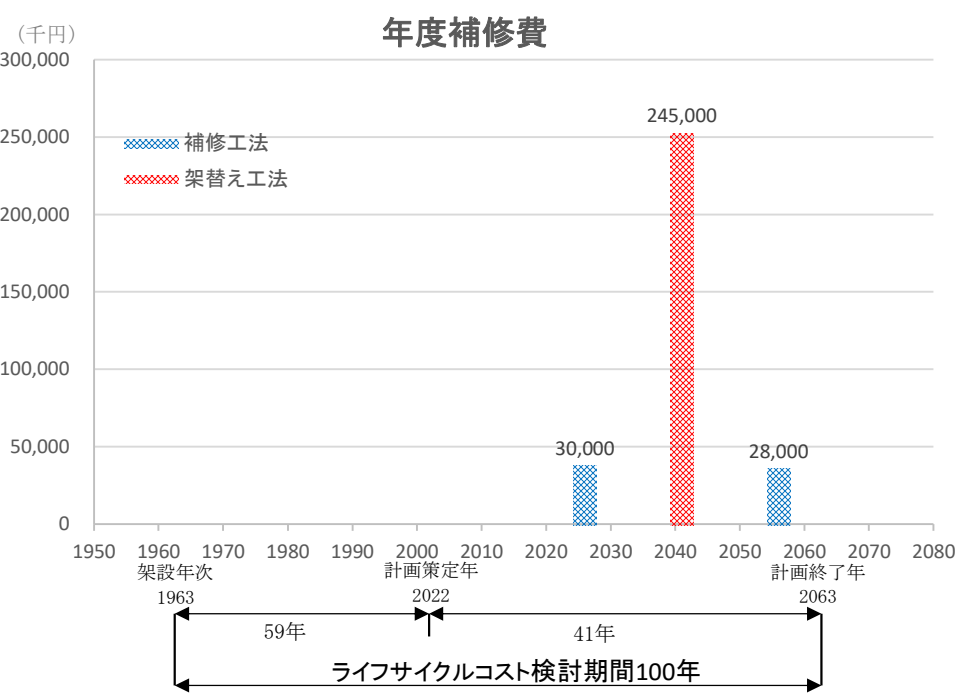
	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2026	2056			2063
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	15	3,000	3,000			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	140	2,100	2,100			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	140	1,260	1,260			
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	338	2,366	2,366			
6	塗装工	RC-3(ケレン込)	30	5	m2	3.3	17				
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.1	400				
44	鋼床板取替工	C0蓋W1.0m	50	10	枚	19	190				
36	足場工	吊足場		11	m2	183	2,013	2,013			
201	直接工事費	合計		1	式	1	11,346	10,739			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	30,000	28,000			58,000

補修費単位：千円

○架替え工法ライフサイクルコスト

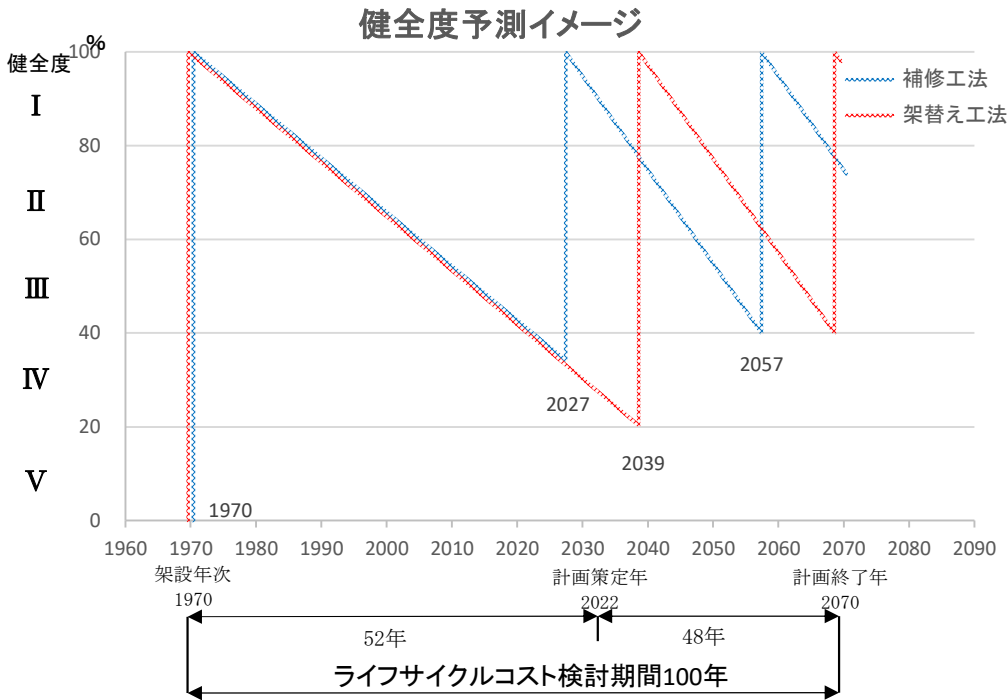
	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2041				2063
						数量	架替費				合 計
102	PCプレテンボ－桁(L=15～22m)	A=18.6×9.8	50	220	m2	182.28	40,102				
111	橋台・橋脚	V=10×9.8×3×2	50	50	m3	588	29,400				
117	既設橋梁取壊し工	V=10×9.8×3×2		30	m3	588	17,640				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	160	4,800				
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	93,942				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	245,000				245,000

補修費単位：千円



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 76% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	803
橋梁名称	境橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	主桁・横桁・床版・橋台ひびわれ、遊離石灰
架設年次	1970(旧橋) 1982(拡幅部)
経過年数	52
橋長	8.4
幅員	9.0
径間数	1
路線名称	秋山川端下線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間RCT桁、RCスラブ(床版)橋
橋材	RC橋
下部工	重力式橋台
河川名	普通河川 岩石沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

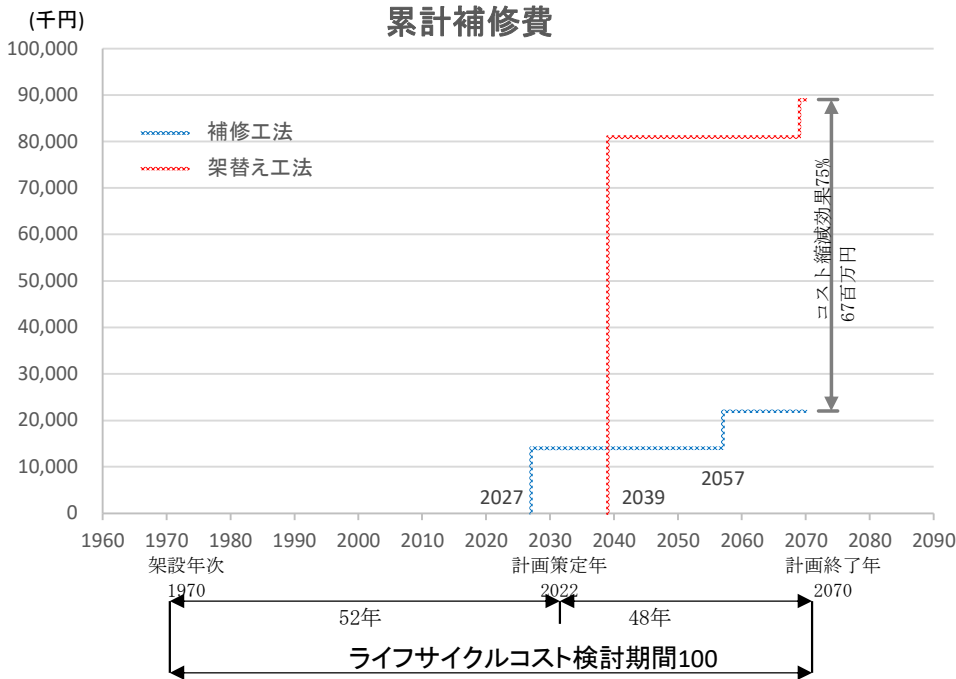
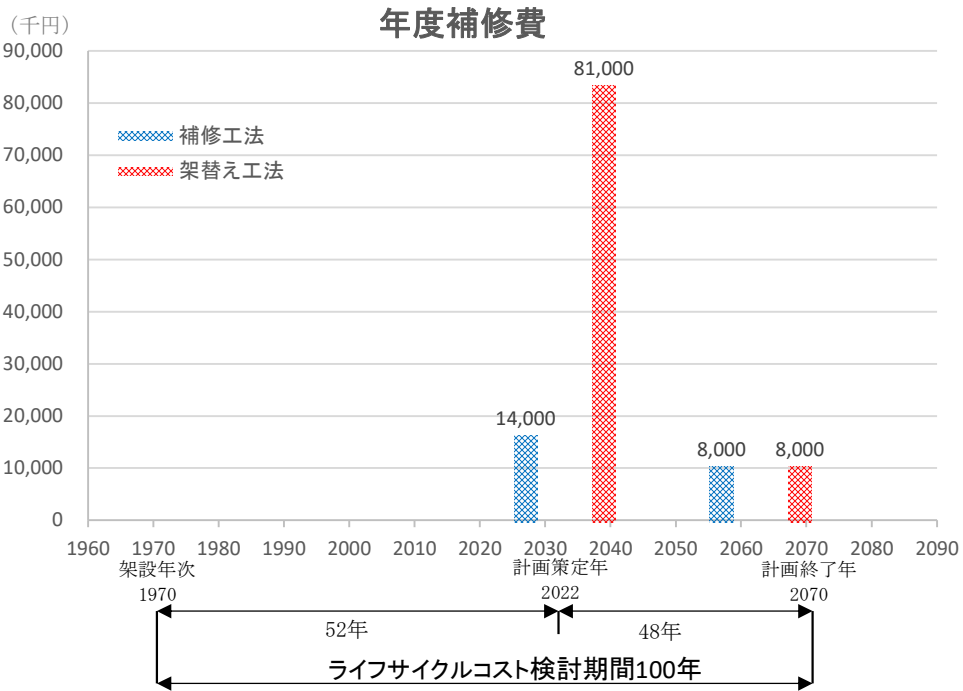
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2027	2057			2070
						数量	補修費	補修費			合 計
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	16.0	1,120	1,120			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	68	1,020	1,020			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	68	612	612			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.1	400				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	103	721				
7	ひび割れ注入工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	4	40				
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600				
36	足場工	吊足場		11	m2	76	836				
201	直接工事費	合計		1	式	1	5,349	2,752			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	14,000	8,000			22,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

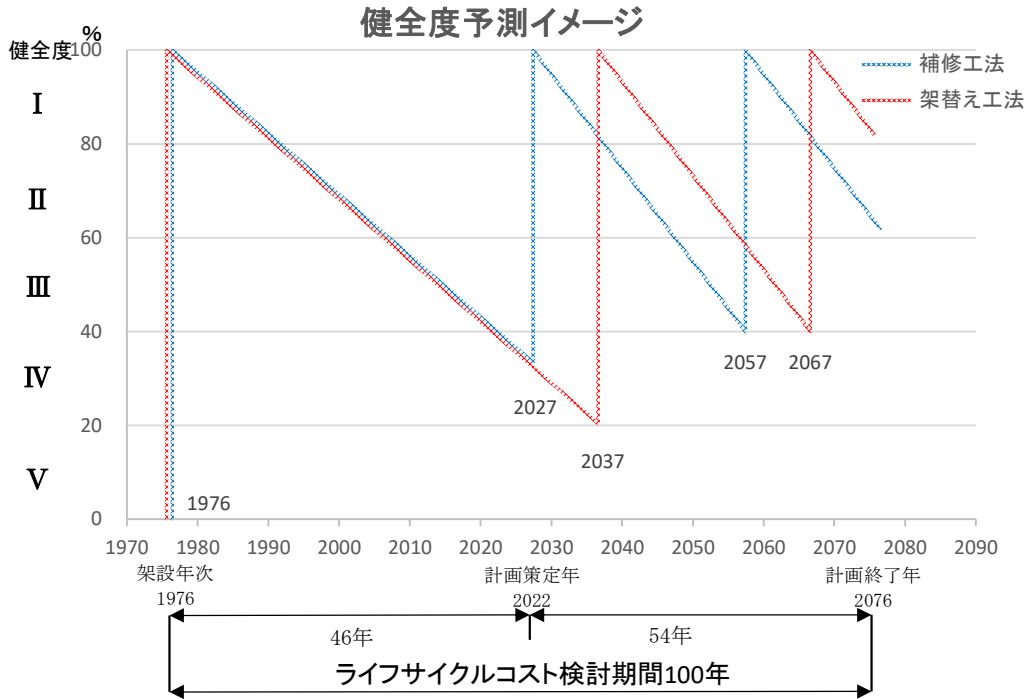
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2039	2069			2070
						数量	架替費				合 計
101	PCﾌﾟﾚﾝﾎｰｰ桁(L=5～14m)	A=8.4×9.0	50	200	m2	75.6	15,120				
111	橋台・橋脚	V=4×9.0×2×2	50	50	m3	144	7,200				
117	既設橋梁取壊し工	V=4×9.0×2×2		30	m3	144	4,320				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	16		1,120			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	68		1,020			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	68		612			
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	80	2,400				
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	31,040	2,752			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	81,000	8,000			89,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 75% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	812
橋梁名称	小十石橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	主桁ひびわれ、遊離石灰
架設年次	1976(旧橋) 1989(拡幅部)
経過年数	46
橋長	12.7
幅員	8.3
径間数	1
路線名称	秋山川端下線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間PCスラブ、RC中空床版橋
橋材	RC・PC橋
下部工	逆T式橋台
河川名	普通河川 小十石沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

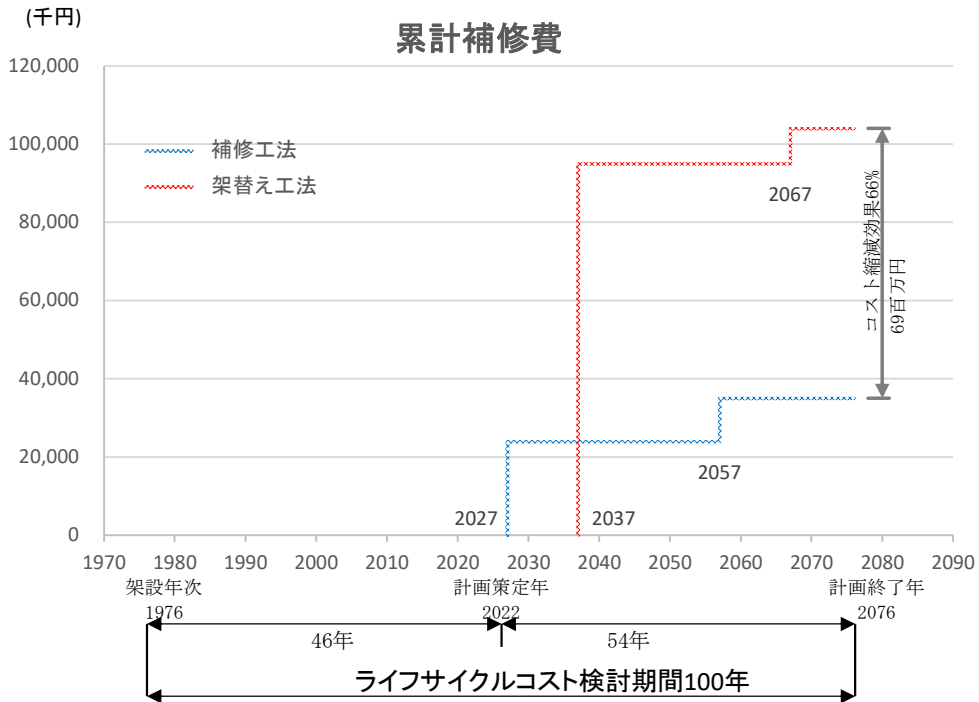
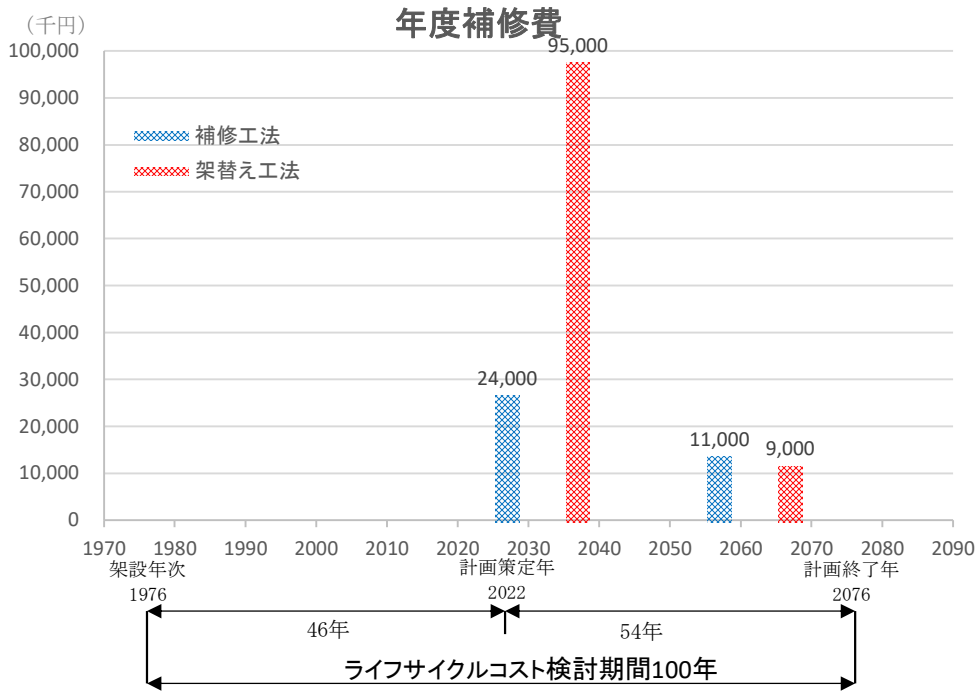
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2027	2057			2076
						数量	補修費	補修費			合 計
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	14.1	987	987			
46	縦目地取替工	埋設型	30	70	m	12.7	889	889			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	90	1,350	1,350			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	90	810	810			
6	塗装工	RC-3(ケレン込)	30	5	m2	0.7	4	4			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.7	2,800				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	134	938				
36	足場工	吊足場		11	m2	106	1,166				
							0				
201	直接工事費	合計		1	式	1	8,944	4,040			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	24,000	11,000			35,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

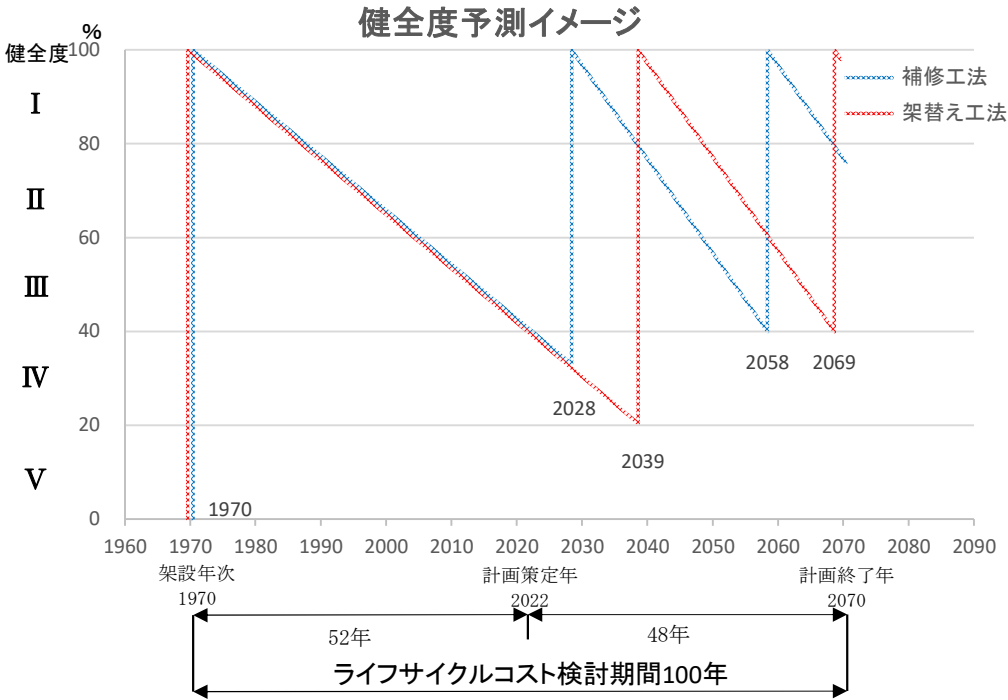
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度		計画終了年
						2022	2037	2067		2076
						数量	架替費	補修費		合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=12.7×8.3	50	200	m2	105.4	21,080			
111	橋台・橋脚	V=5×8.3×2×2	50	50	m3	166	8,300			
117	既設橋梁取壊し工	V=5×8.3×2×2		30	m3	166	4,980			
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	14.1		987		
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	90		1,350		
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	90		810		
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000			
201	直接工事費	合計		1	式	1	36,360	3,147		
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	95,000	9,000		104,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が 66% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	402
橋梁名称	水生橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	A2橋台貫通ひびわれ、変形
架設年次	1970
経過年数	52
橋長	3.3
幅員	4.5
径間数	1
路線名称	水生線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間RCスラブ(床版)橋
橋材	RC橋
下部工	重力式橋台・石積護岸
河川名	普通河川 水生川



○補修工法ライフサイクルコスト

補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2028	2058		応急工事	2070
						数量	補修費	補修費		補修費	合 計
2	伸縮装置取替工	シーリング縦目地	30	50	m	3.3	165	165		165	
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	14		210			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	14	126	126		126	
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	3	90			90	
108	BOX-C (B3.0×H1.5)	土工含む	50	350	m	1.5	525			525	
117	既設橋梁取壊し工	隣接護岸含む		30	m3	6	180			180	
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	15		105			
201	直接工事費	合計		1	式	1	1,086	606		1,086	
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	3,000	2,000		3,000	5,000

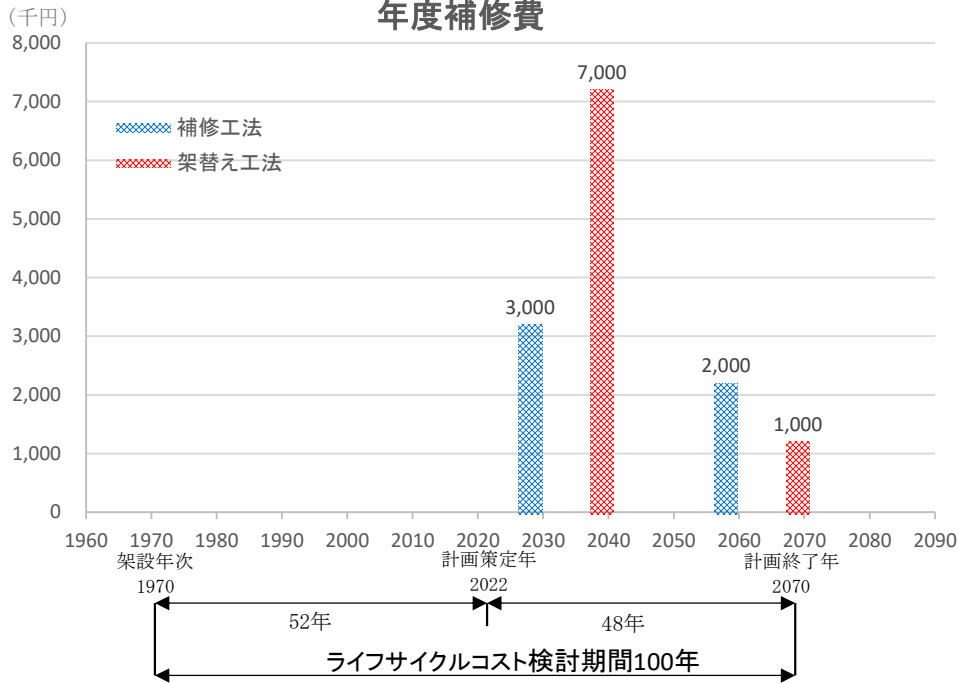
(参考値)

○架替え工法ライフサイクルコスト

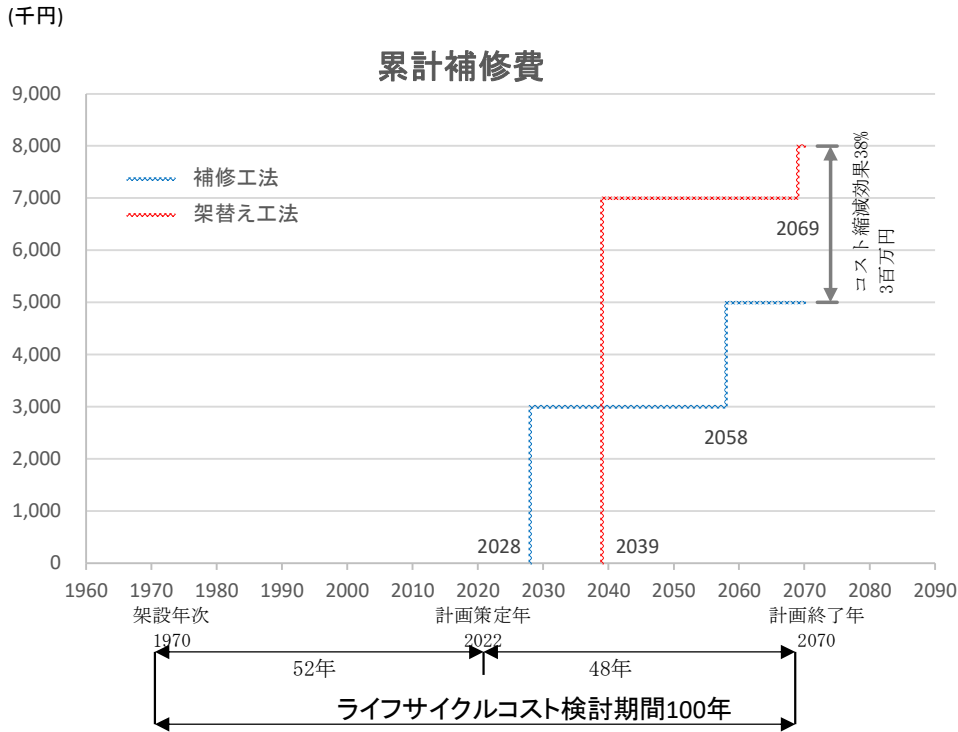
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022 数量	2039 架替費	2069 補修費			2070 合 計
108	BOX-C (B3.0×H1.5)	土工含む	50	350	m	5	1,750				
117	既設橋梁取壊し工	隣接護岸含む		30	m3	20	600				
111	橋台・橋脚	既設護岸	50	50	m3	3	150				
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	14		126			
201	直接工事費	合計		1	式	1	2,500	126			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	7,000	1,000			8,000

年度補修費

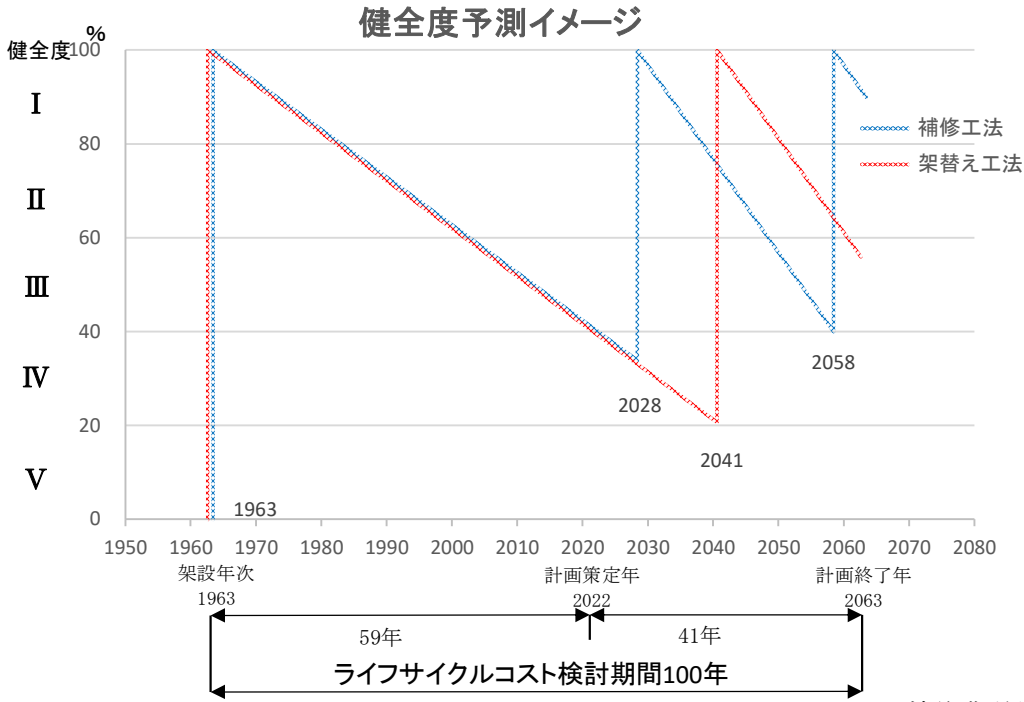


累計補修費



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が 38% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	502
橋梁名称	下木戸橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	主桁・横桁・床版・橋台ひびわれ
架設年次	1963
経過年数	59
橋長	53.5
幅員	6.8
径間数	2
路線名称	1－13号線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	2径間PCT桁橋
橋材	PC橋
下部工	逆T式橋台、壁式橋脚
河川名	一級河川 千曲川

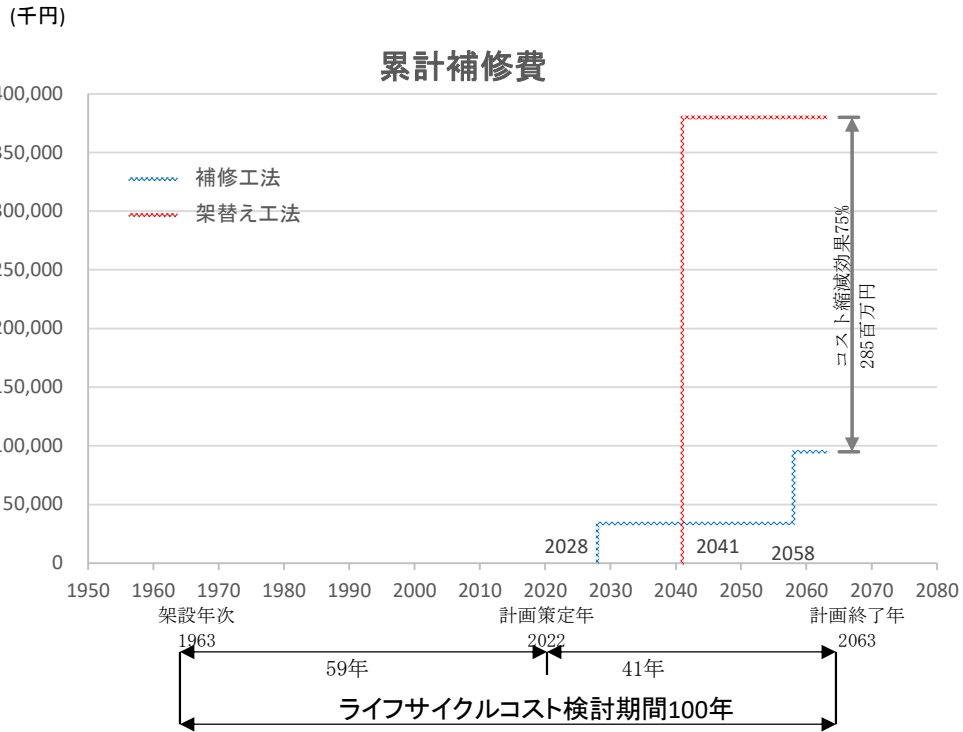
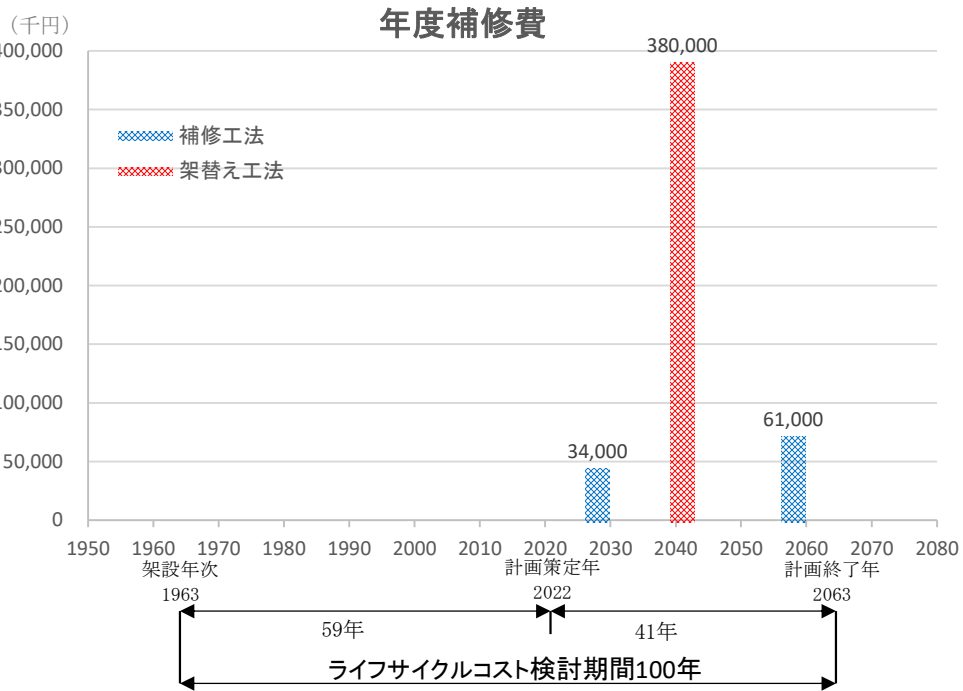


○補修工法ライフサイクルコスト

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2028	2058			2063
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	21		4,200			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	333		4,995			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	333		2,997			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m ³	0.4	1,600				
7	ひび割れ注工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	25	250				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m ²	984	6,888	6,888			
36	足場工	吊足場		11	m ²	375	4,125	4,125			
201	直接工事費	合計		1	式	1	12,863	23,205			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	34,000	61,000			95,000

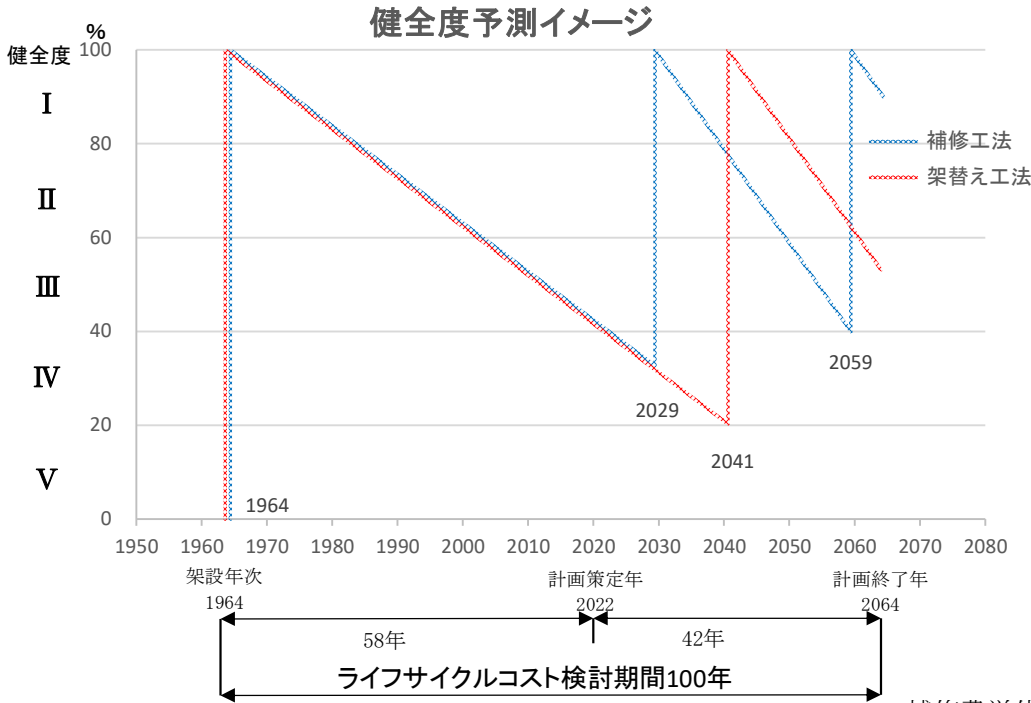
○架替え工法ライフサイクルコスト

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2041				2063
						数量	架替費				合 計
105	PCボート桁(L=20～30m)	A=53.5×6.8	50	290	m ²	363.8	105,502				
111	橋台・橋脚	V=6×6.8×3×3	50	50	m ³	367	18,350				
117	既設橋梁取壊し工	V=6×6.8×3×3		30	m ³	367	11,010				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	170	5,100				
32	水替え工	大規模河川		6,000	式	1	6,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	145,962				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	380,000				380,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 75% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	607
橋梁名称	五郎山橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B+
最厳劣化、必要対策概要	橋台洗掘、接続護岸の抜け落ち、主桁ひびわれ
架設年次	1964
経過年数	58
橋長	5.2
幅員	4.0
径間数	1
路線名称	6006号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	1径間RCスラブ(床版)橋
橋材	RC橋
下部工	重力式橋台
河川名	普通河川 しほこり沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

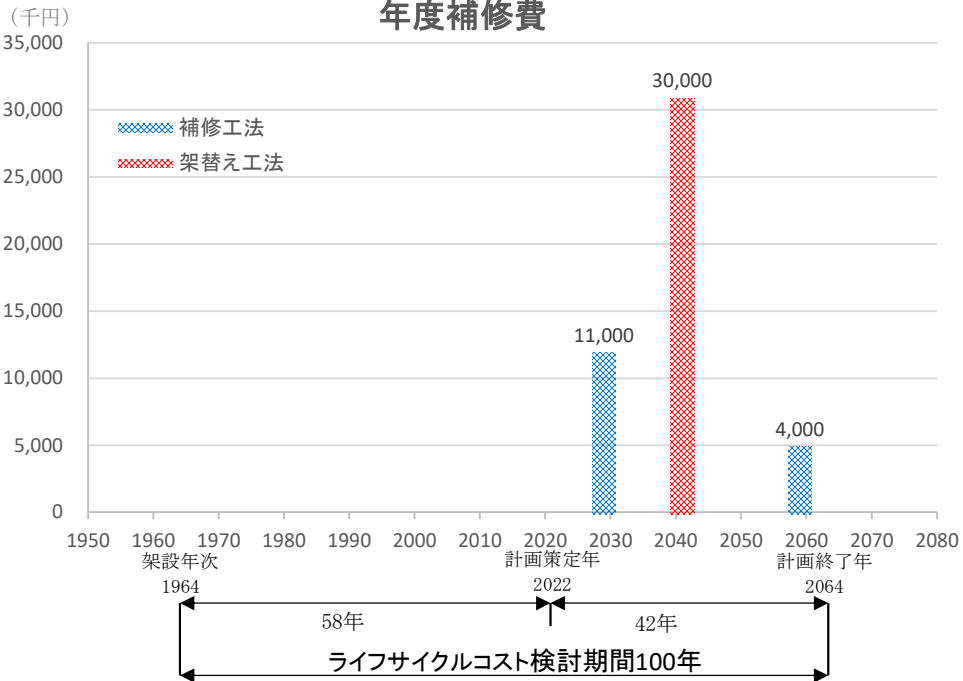
	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2029	2059	応急工事	2064	合 計
						数量	補修費	補修費	補修費	補修費	
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	7.2	504	504			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	19	285	285			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	19	171	171			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m ³	0.2	800		800		
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m ²	22	154	154			
28	根継工	現場打ち	50	40	m ³	8	320		320		
26	護床工	カゴマット	40	13	m ²	20	260		260		
36	足場工	吊足場		11	m ²	21	231	231	231		
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	12	360		360		
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000		1,000		
201	直接工事費	合計		1	式	1	4,085	1,345	2,971		
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	11,000	4,000	8,000		15,000

(参考値)

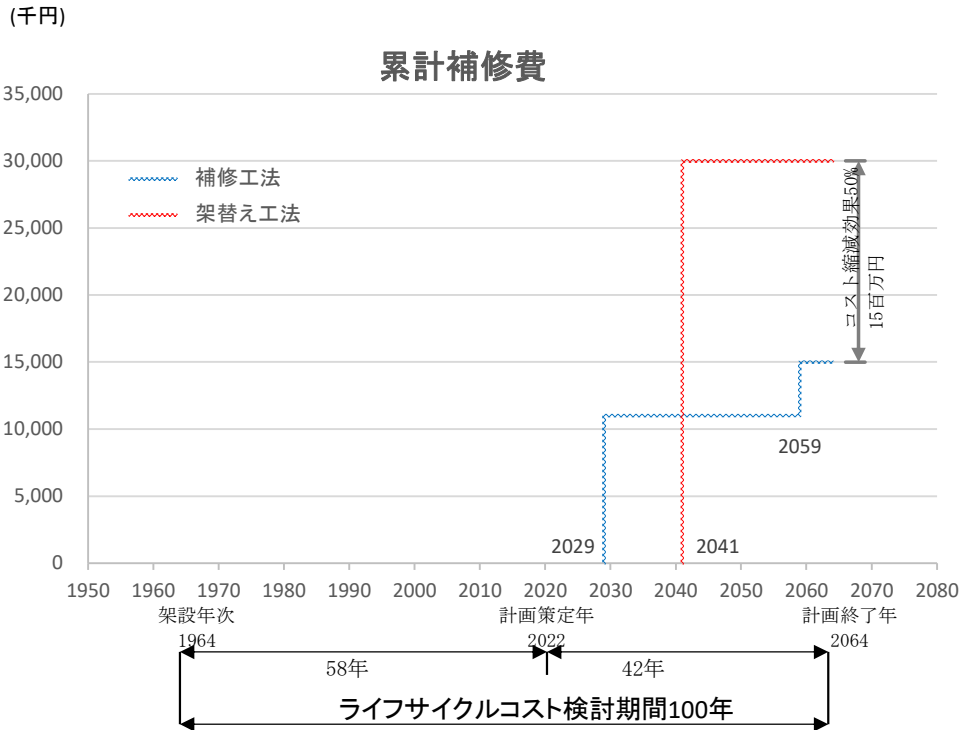
○架替え工法ライフサイクルコスト

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度				計画終了年
						2022	2041					2064
						数量	架替費					合 計
104	RC床板橋(L=4～6m)	A=5.2×4.0	50	130	m ²	20.8	2,704					
111	橋台・橋脚	V=4×4.0×2×2	50	50	m ³	64	3,200					
117	既設橋梁取壊し工	V=4×4.0×2×2		30	m ³	64	1,920					
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	80	2,400					
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000					
201	直接工事費	合計		1	式	1	11,224					
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	30,000					30,000

年度補修費

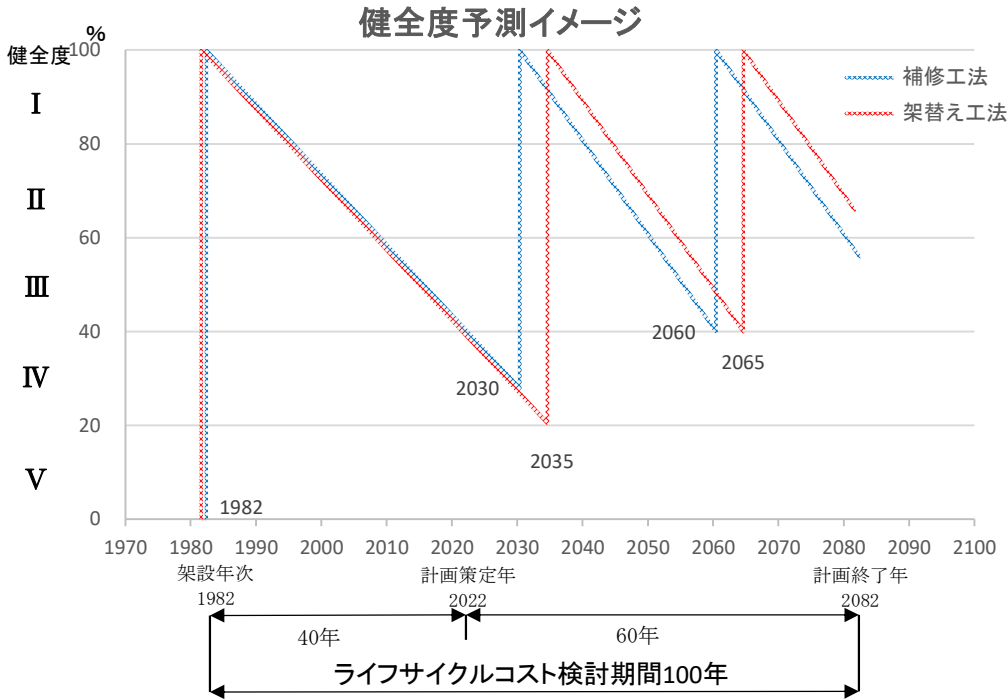


累計補修費



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 50% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	316
橋梁名称	南沢1号橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	主桁、床版、排水装置腐食
架設年次	1982
経過年数	40
橋長	12.4
幅員	4.1
径間数	1
路線名称	3006号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	重力式橋台
河川名	一級河川 黒沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

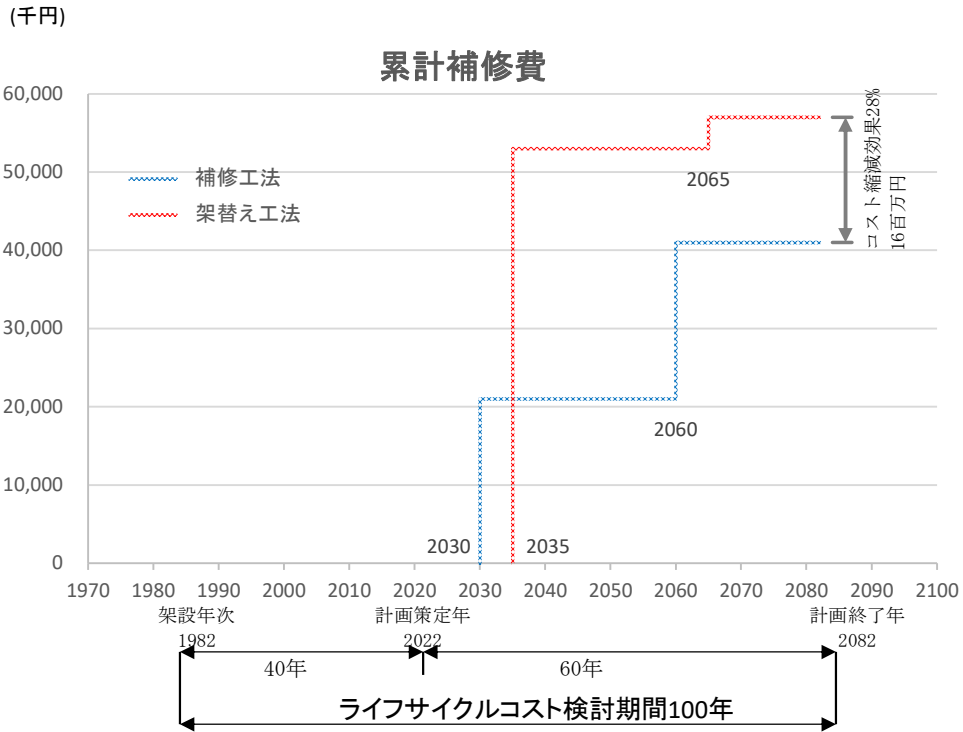
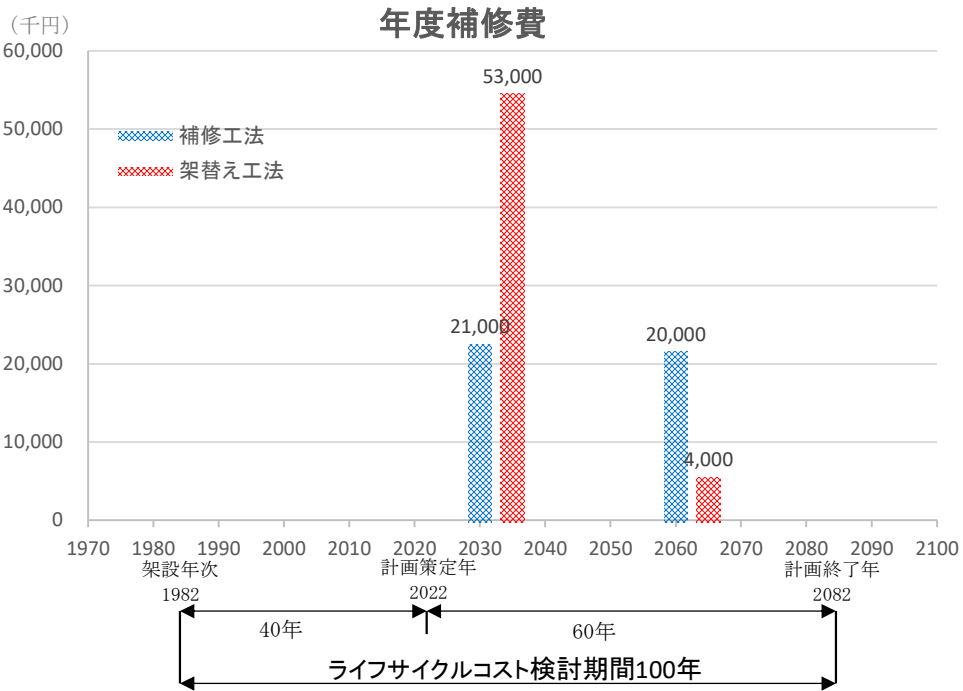
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2030	2060			2082
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	6.6	1,320	1,320			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	41	615	615			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	41	369	369			
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m ²	133	2,660	2,660			
7	ひび割れ注工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	1	10				
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600				
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	25		250			
36	足場工	吊足場		11	m ²	51	561	561			
39	環境対策費(小)	RC-1防護対策		1,800	式	1	1,800	1,800			
201	直接工事費	合計		1	式	1	7,935	7,575			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	21,000	20,000			41,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

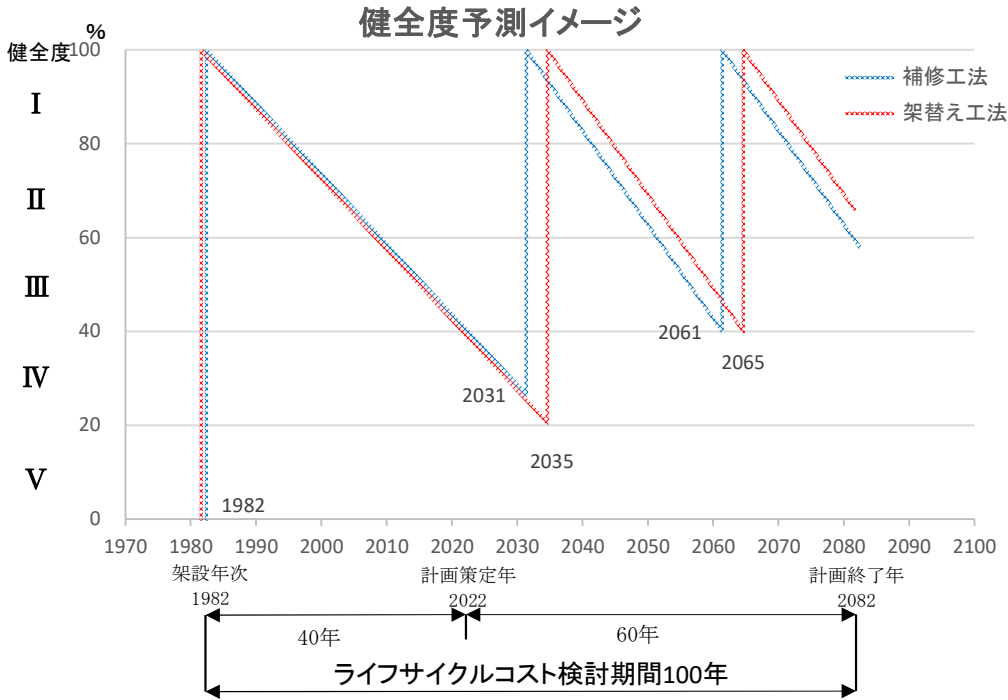
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2035	2065			2082
						数量	架替費	補修費			合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=12.4×4.1	50	200	m ²	50.8	10,160				
111	橋台・橋脚	V=5×4.1×2×2	50	50	m ³	82	4,100				
117	既設橋梁取壊し工	V=5×4.1×2×2	0	30	m ³	82	2,460				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	85	2,550				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	6.6		462			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	41		615			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	41		369			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	20,270	1,446			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	53,000	4,000			57,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が28%のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	317
橋梁名称	南沢2号橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	主桁、床版、排水装置腐食 A2橋台剥離
架設年次	1982
経過年数	40
橋長	12.0
幅員	4.1
径間数	1
路線名称	3277号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	重力式橋台
河川名	一級河川 黒沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

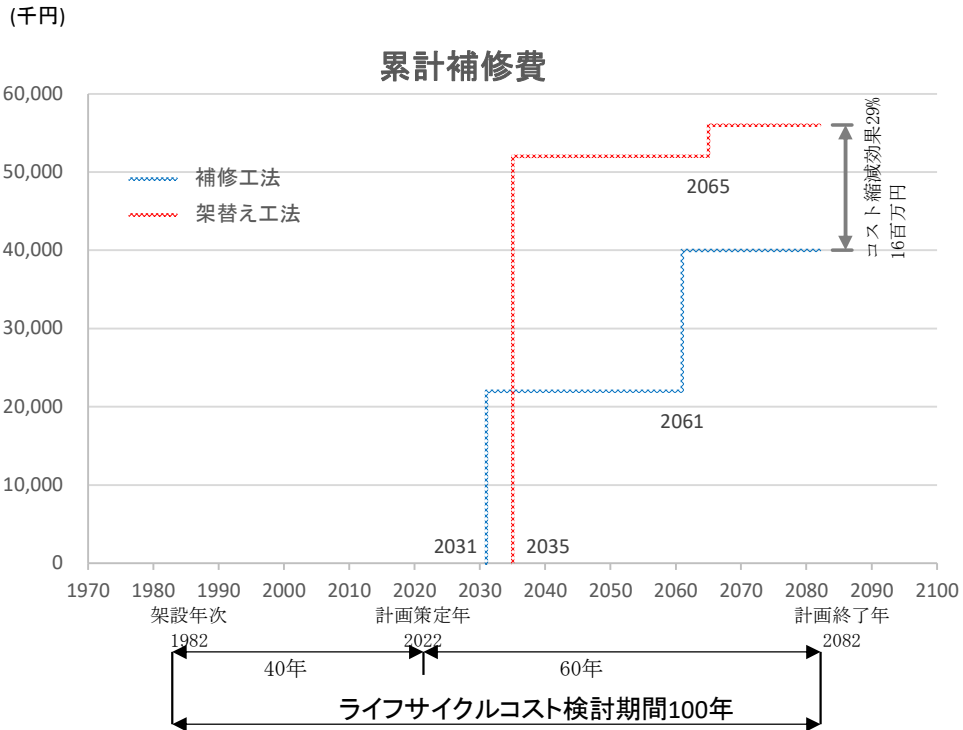
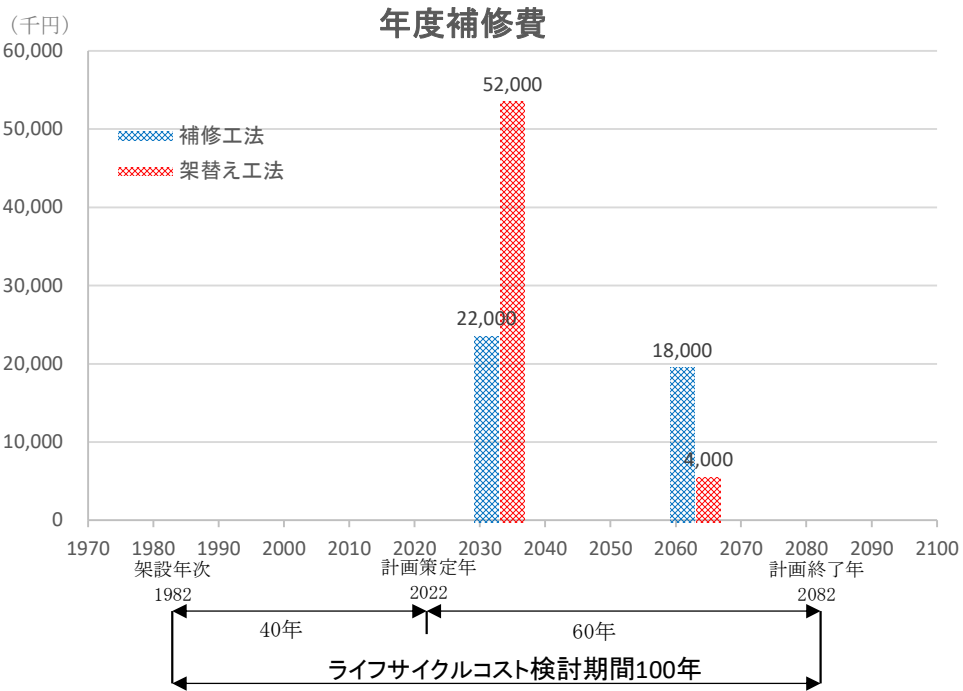
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2031	2061			2082
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	6.5	1,300	1,300			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	39	585	585			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	39	351	351			
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m2	131	2,620	2,620			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.1	400				
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600				
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	24		240			
36	足場工	吊足場		11	m2	50	550				
39	環境対策費(小)	RC-1防護対策		1,800	式	1	1,800	1,800			
201	直接工事費	合計		1	式	1	8,206	6,896			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	22,000	18,000			40,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

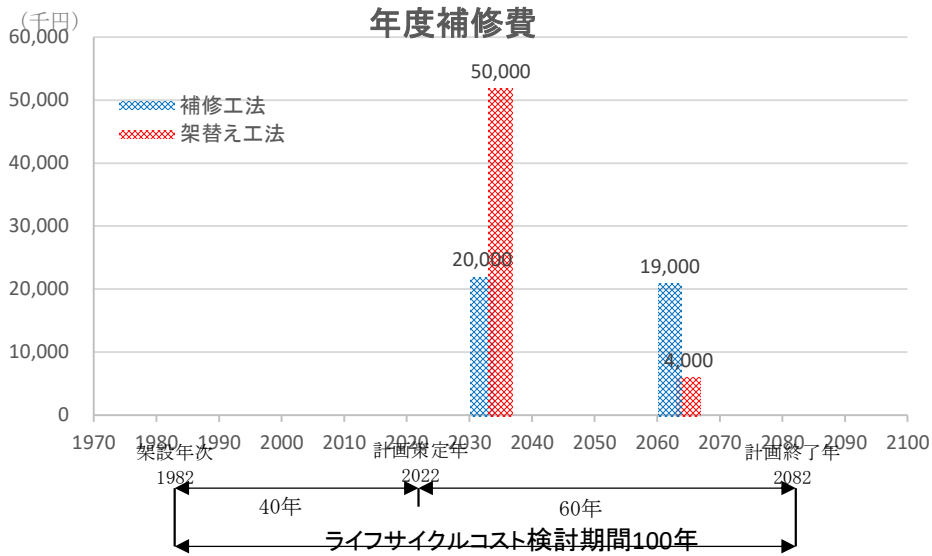
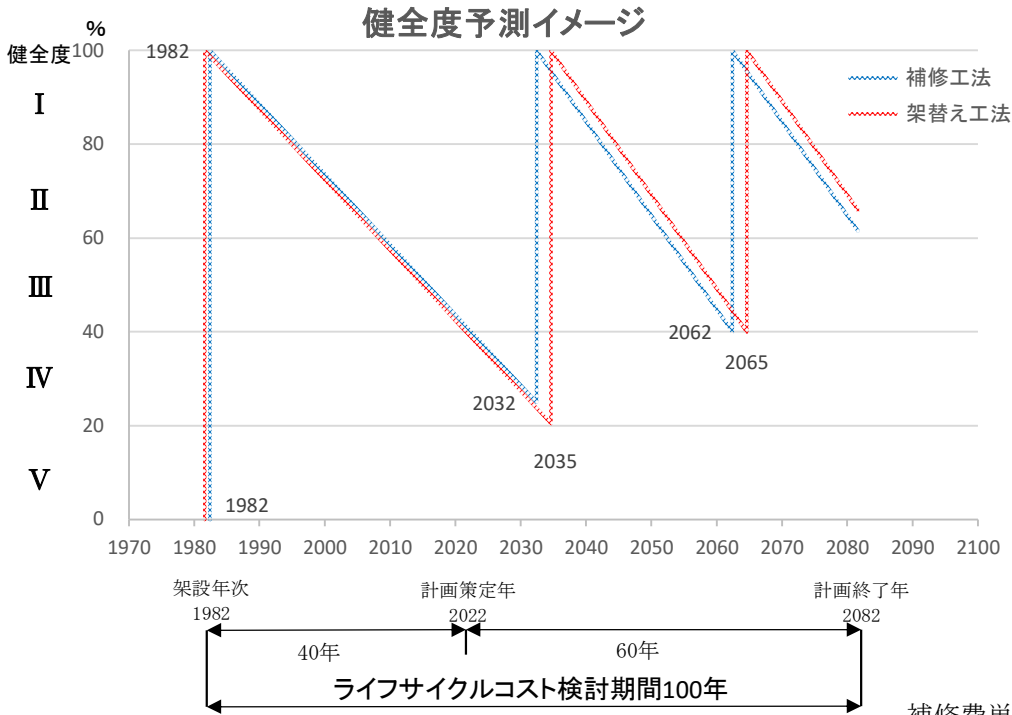
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2035	2065			2082
						数量	架替費	補修費			合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=12.0×4.1	50	200	m2	49.2	9,840				
111	橋台・橋脚	V=5×4.1×2×2	50	50	m3	82	4,100				
117	既設橋梁取壊し工	V=5×4.1×2×2		30	m3	82	2,460				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	85	2,550				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	6.5		455			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	39		585			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	39		351			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	19,950	1,391			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	52,000	4,000			56,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 29% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	318
橋梁名称	南沢3号橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	主桁、床版、排水装置腐食
架設年次	1982
経過年数	40
橋長	11.0
幅員	4.1
径間数	1
路線名称	3277号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	重力式橋台
河川名	一級河川 黒沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

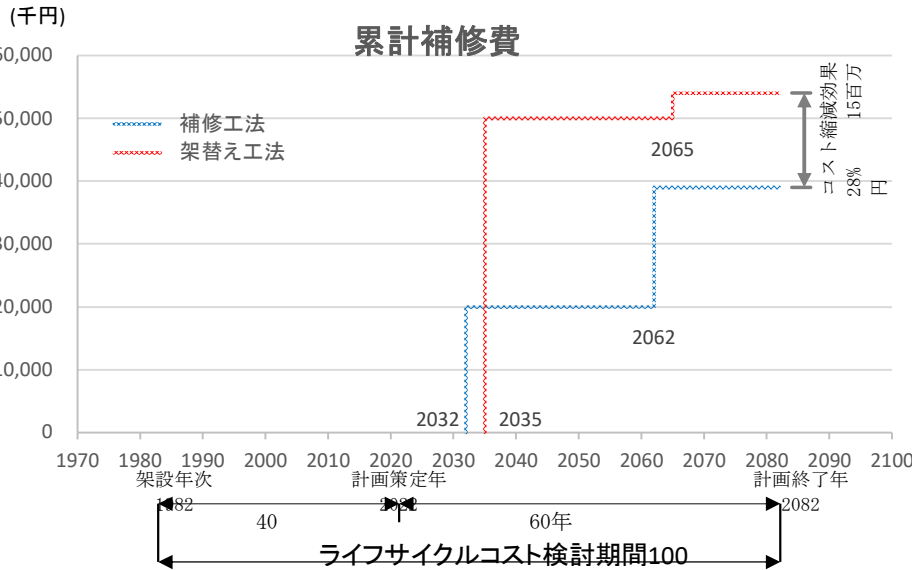
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2032	2062			2082
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	6.6	1,320	1,320			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	36	540	540			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	36	324	324			
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m ²	120	2,400	2,400			
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600				
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	22		220			
36	足場工	吊足場		11	m ²	46	506	506			
39	環境対策費(小)	RC-1防護対策		1,800	式	1	1,800	1,800			
201	直接工事費	合計		1	式	1	7,490	7,110			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	20,000	19,000			39,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

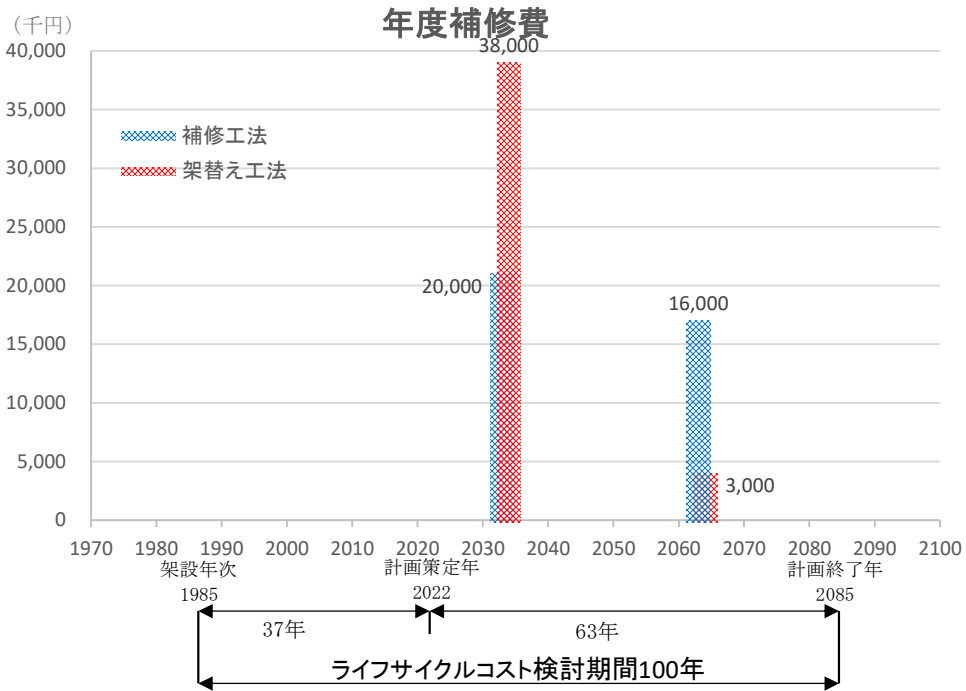
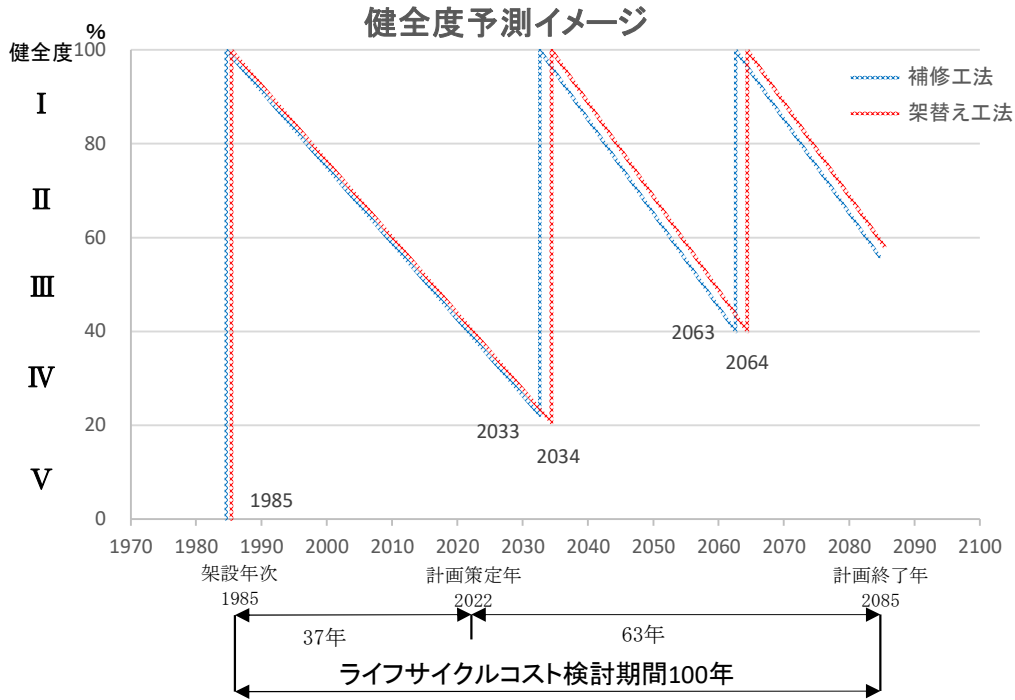
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2035	2065			2082
						数量	架替費	補修費			合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=11.0×4.1	50	200	m ²	45.1	9,020				
111	橋台・橋脚	V=5×4.1×2×2	50	50	m ³	82	4,100				
117	既設橋梁取壊し工	V=5×4.1×2×2		30	m ³	82	2,460				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	85	2,550				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	6		420			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	36		540			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	36		324			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	19,130	1,284			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	50,000	4,000			54,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が 28% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	322
橋梁名称	ニツ橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	主桁、床版、排水装置腐食 支承部土砂堆積 防護柵欠損
架設年次	1985
経過年数	37
橋長	8.3
幅員	4.1
径間数	1
路線名称	3006号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	重力式橋台
河川名	普通河川 古道川

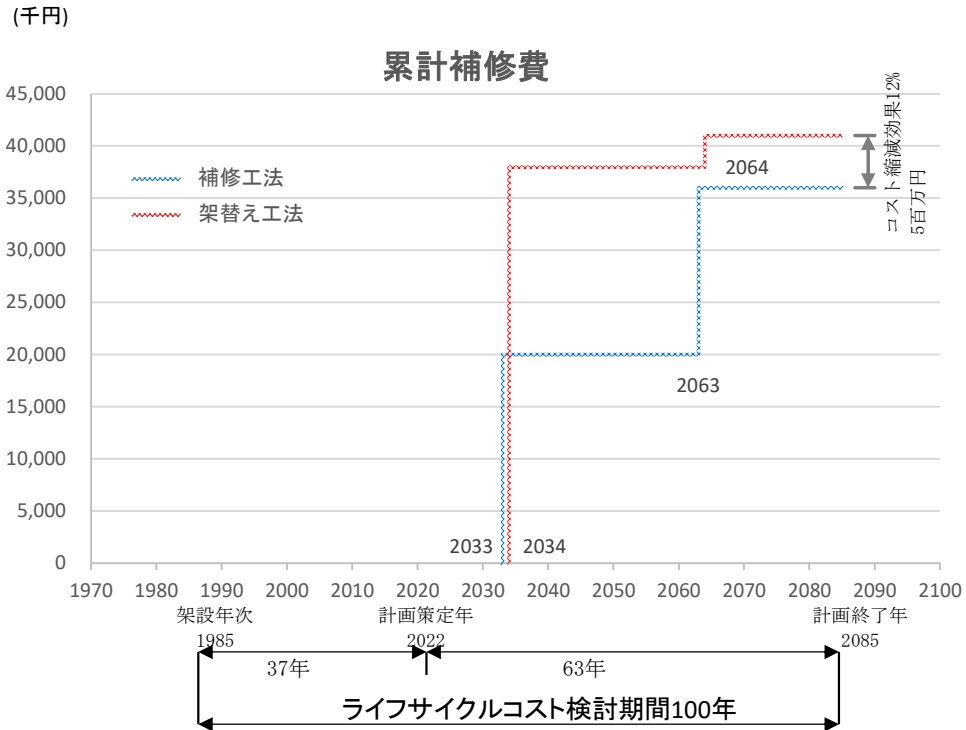


○補修工法ライフサイクルコスト

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2033	2063			2085
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	6.5	1,300	1,300			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	27	405	405			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	27	243	243			
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m ²	93	1,860	1,860			
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600				
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	17	170				
113	L型擁壁工	H=3.0m	50	80	m	8	640				
36	足場工	吊足場		11	m ²	35	385	385			
39	環境対策費(小)	RC-1防護対策		1,800	式	1	1,800	1,800			
201	直接工事費	合計		1	式	1	7,403	5,993			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	20,000	16,000			36,000

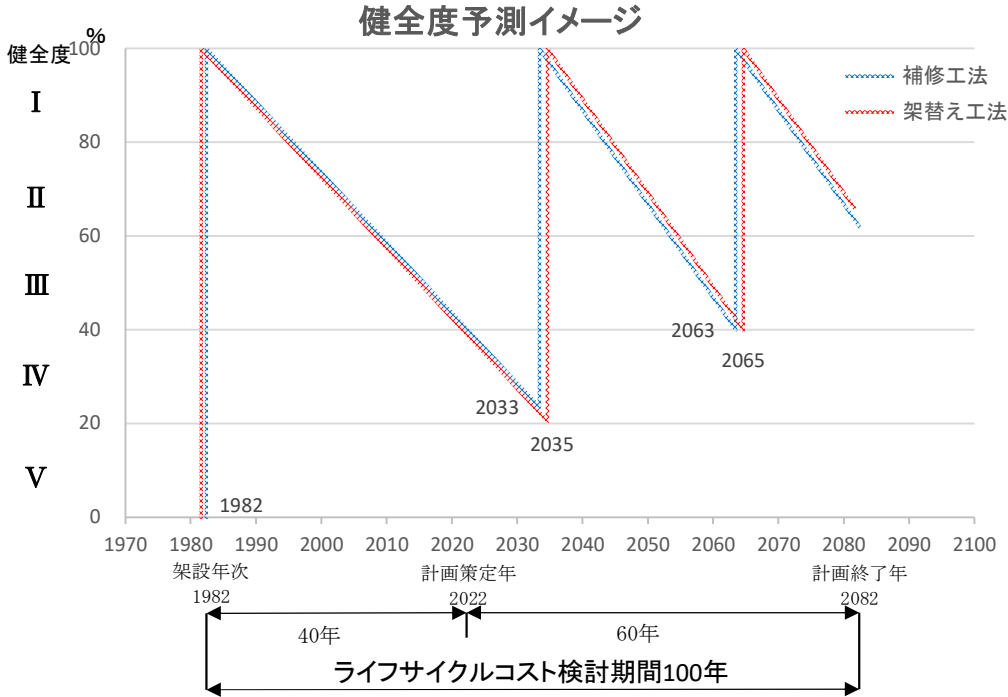
○架替え工法ライフサイクルコスト

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2034	2064			2085
						数量	架替費	補修費			合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=8.0×4.2	50	200	m ²	34	6,800				
111	橋台・橋脚	V=3×4.1×2×2	50	50	m ³	49	2,450				
117	既設橋梁取壊し工	V=3×4.1×2×2		30	m ³	49	1,470				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	85	2,550				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	6.5		455			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	27		405			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	27		243			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	14,270	1,103			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	38,000	3,000			41,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 12% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	323
橋梁名称	夕陽あたり橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	主桁、床版、排水装置、支 承部腐食
架設年次	1982
経過年数	40
橋長	5.9
幅員	4.0
径間数	1
路線名称	3311号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	重力式橋台
河川名	普通河川 夕陽あたり沢



○補修工法ライフサイクルコスト

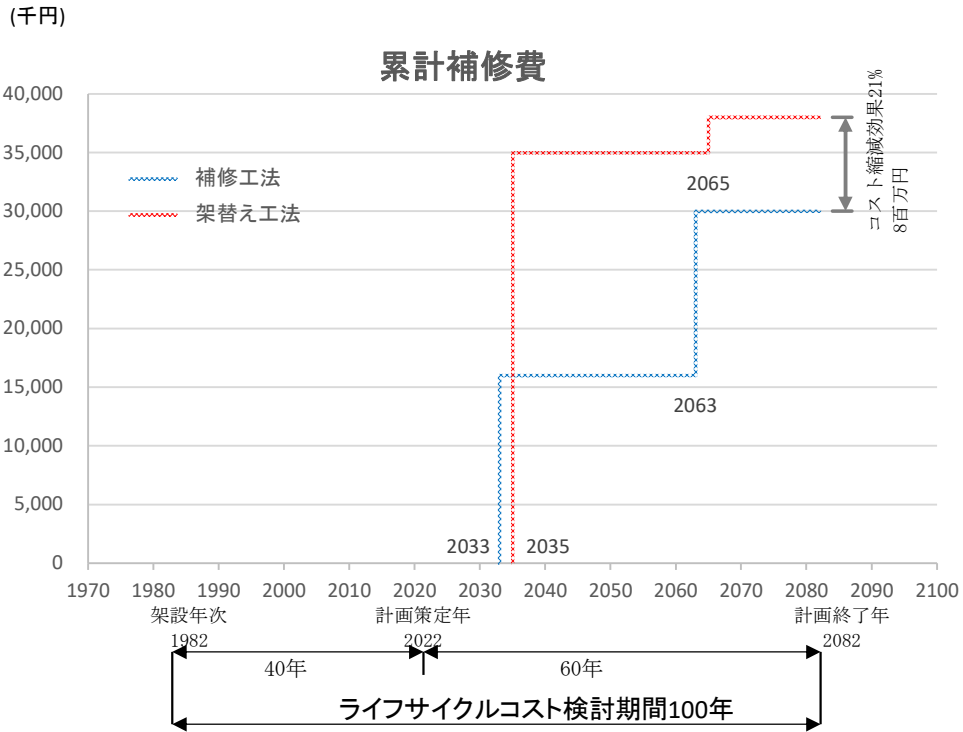
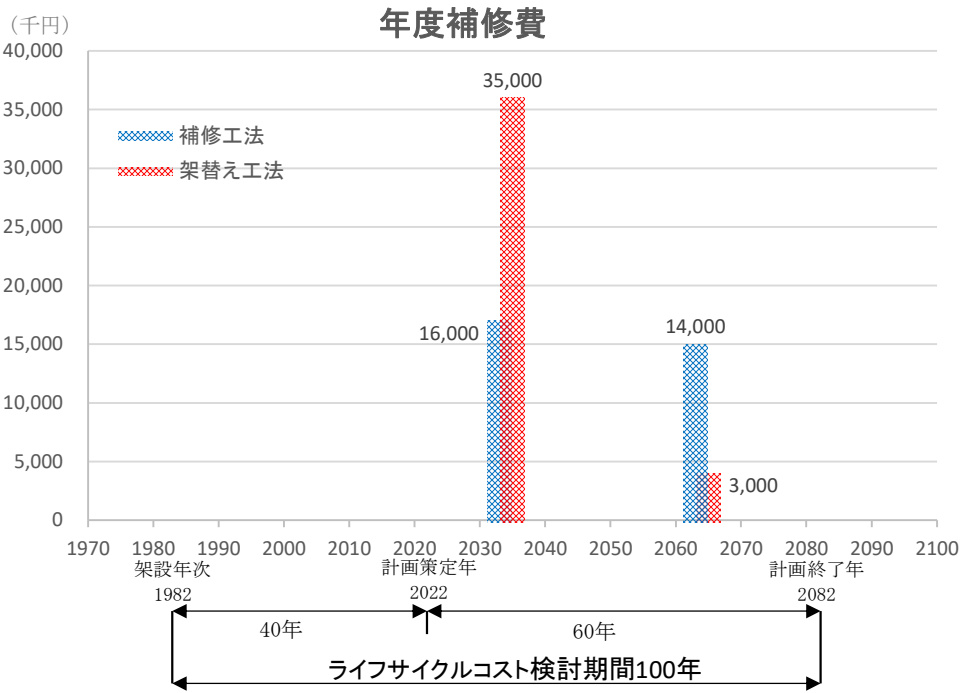
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2033	2063			2082
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	6.6	1,320	1,320			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	20	300	300			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	20	180	180			
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m ²	62	1,240	1,240			
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	2	300				
7	ひび割れ注入工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	1	10				
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m ³	0.1	400				
36	足場工	吊足場		11	m ²	24	264	264			
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	12		120			
39	環境対策費(小)	RC-1防護対策		1,800	式	1	1,800	1,800			
201	直接工事費	合計		1	式	1	5,814	5,224			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	16,000	14,000			30,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

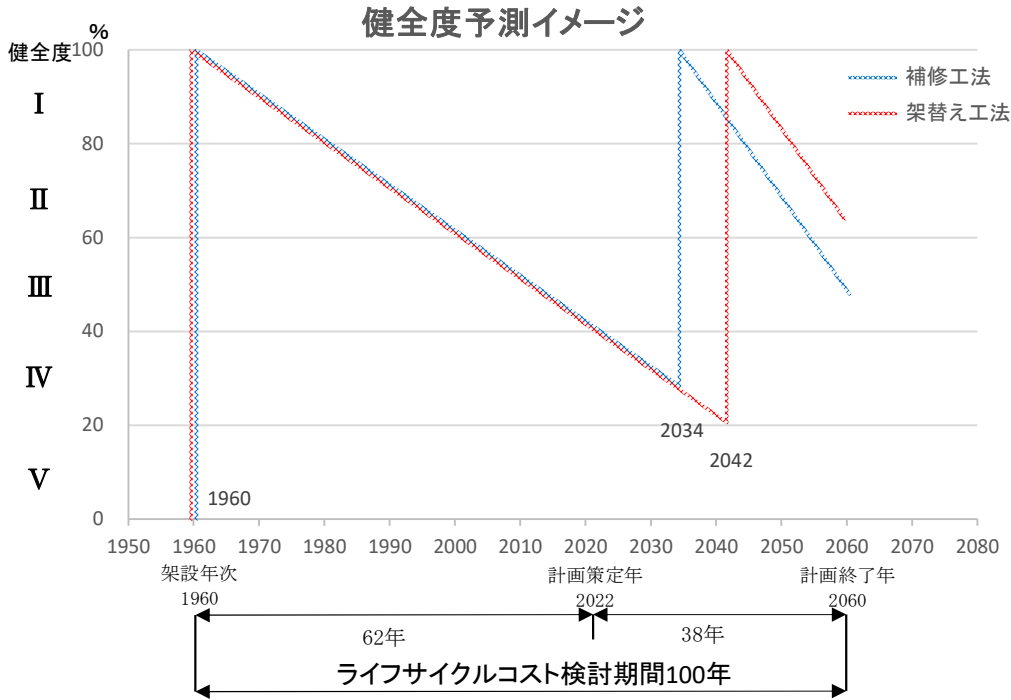
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2035	2065			2082
						数量	架替費	補修費			合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=5.9×4.0	50	200	m ²	23.6	4,720				
111	橋台・橋脚	V=4×4.0×2×2	50	50	m ³	64	3,200				
117	既設橋梁取壊し工	V=4×4.0×2×2		30	m ³	64	1,920				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m ²	84	2,520				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	6.6		462			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	20		300			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	20		180			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	13,360	942			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	35,000	3,000			38,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が 21% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	313
橋梁名称	詰堀橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	石積護岸橋台の間地石および間詰コン抜け
架設年次	1960
経過年数	62
橋長	3.5
幅員	3.6
径間数	1
路線名称	西畑詰堀線
道路種別	2級村道
上部工構造形式	単径間RCスラブ(床版)橋
橋材	RC橋
下部工	石積護岸
河川名	普通河川 名称不明



○補修工法ライフサイクルコスト

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2034			応急工事	2060
						数量	補修費			補修費	合 計
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	12	180				
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	12	108				
17	地覆補修工	コンクリート打替え	50	40	m	3.5	140			100	
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.1	400				
111	橋台・橋脚	間詰め補修	50	50	m3	2	100			100	
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	13	91				
35	水替え工	沢河川		500	式	1	500			500	
201	直接工事費	合計		1	式	1	1,519			700	
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	4,000			2,000	4,000

補修費単位：千円

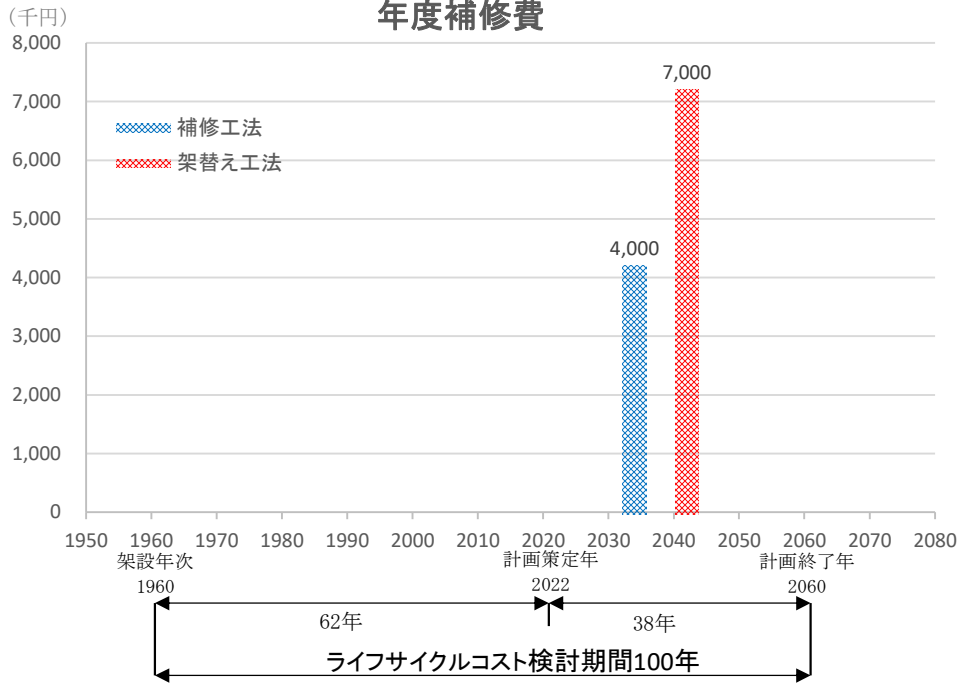
(参考値)

○架替え工法ライフサイクルコスト

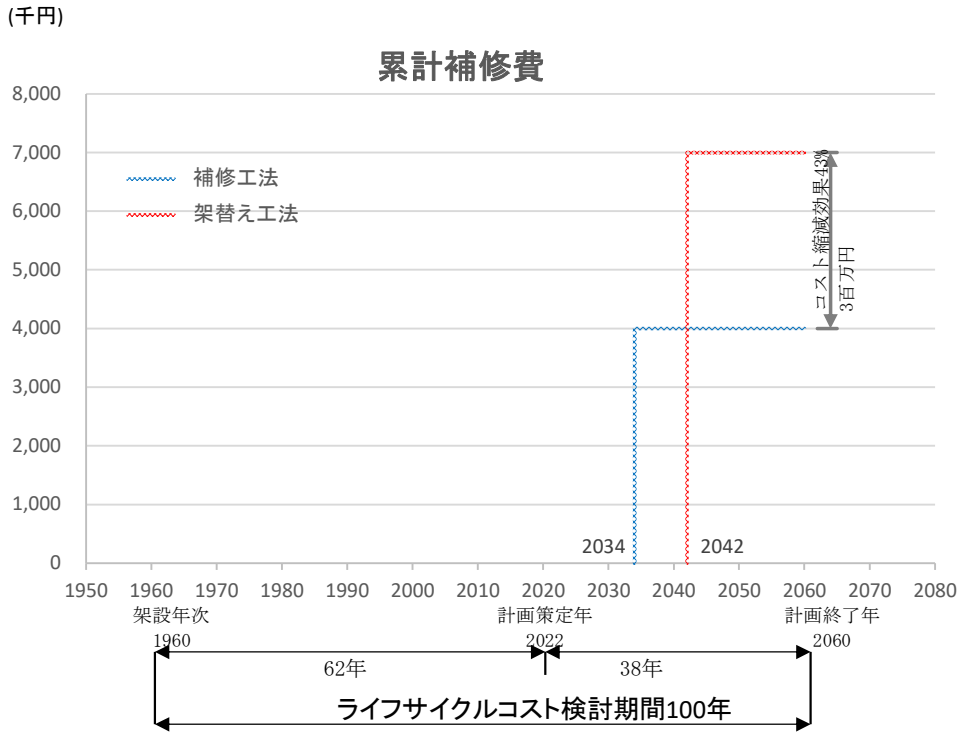
	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度				計画終了年
						2022	2042					2060
						数量	架替費					合 計
109	BOX-C(B3.5×H2.0)	土工含む	50	400	m	4	1,600					
117	既設橋梁取壊し工	隣接護岸含む		30	m3	6	180					
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	8	240					
35	水替え工	沢河川		500	式	1	500					
201	直接工事費	合計		1	式	1	2,520					
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	7,000					7,000

補修費単位：千円

年度補修費

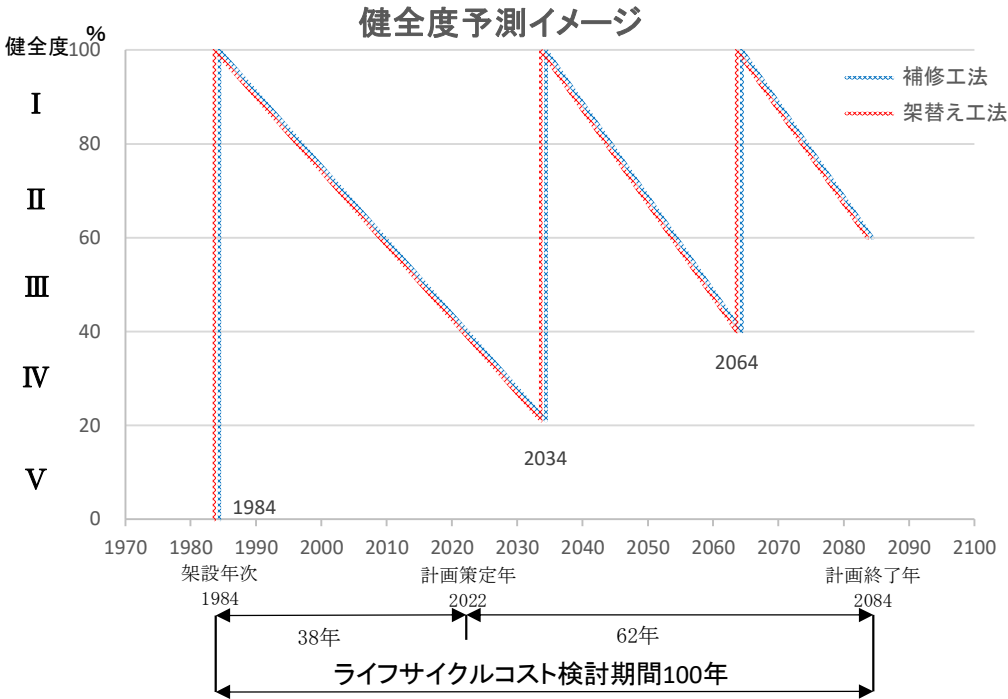


累計補修費



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 43% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	707
橋梁名称	千駄木橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B
最厳劣化、必要対策概要	橋台洗掘、主桁・床版剥離・鉄筋露出
架設年次	1984(旧橋) 2005(拡幅部)
経過年数	38
橋長	7.7
幅員	8.3
径間数	1
路線名称	梓山十文字線
道路種別	2級村道
上部工構造形式	単径間RCT桁橋
橋材	RC橋
下部工	石積護岸
河川名	普通河川 千駄木沢川



○補修工法ライフサイクルコスト

補修費単位：千円

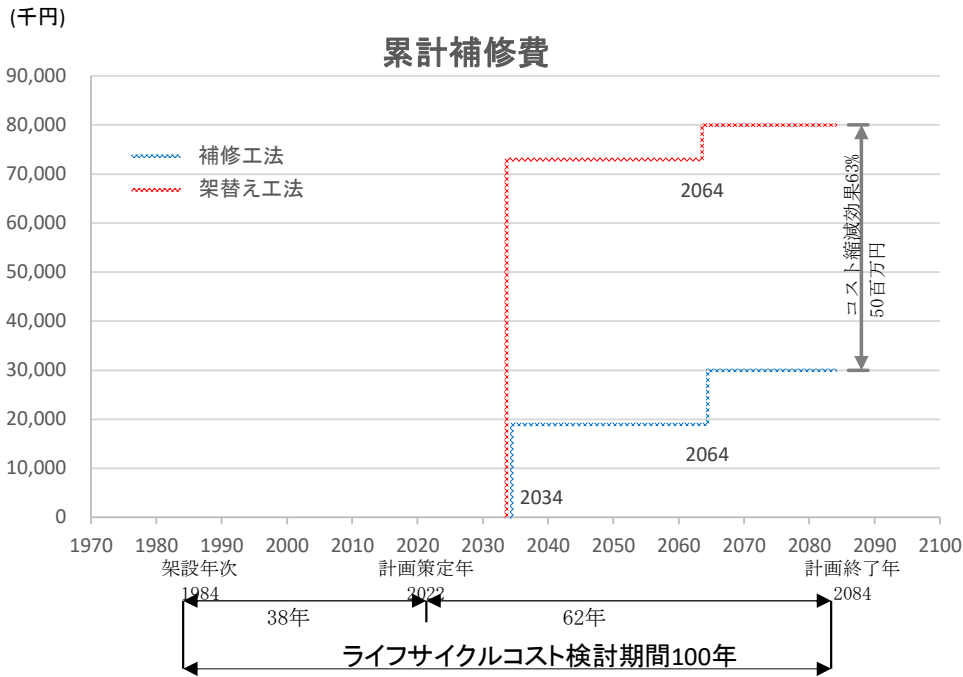
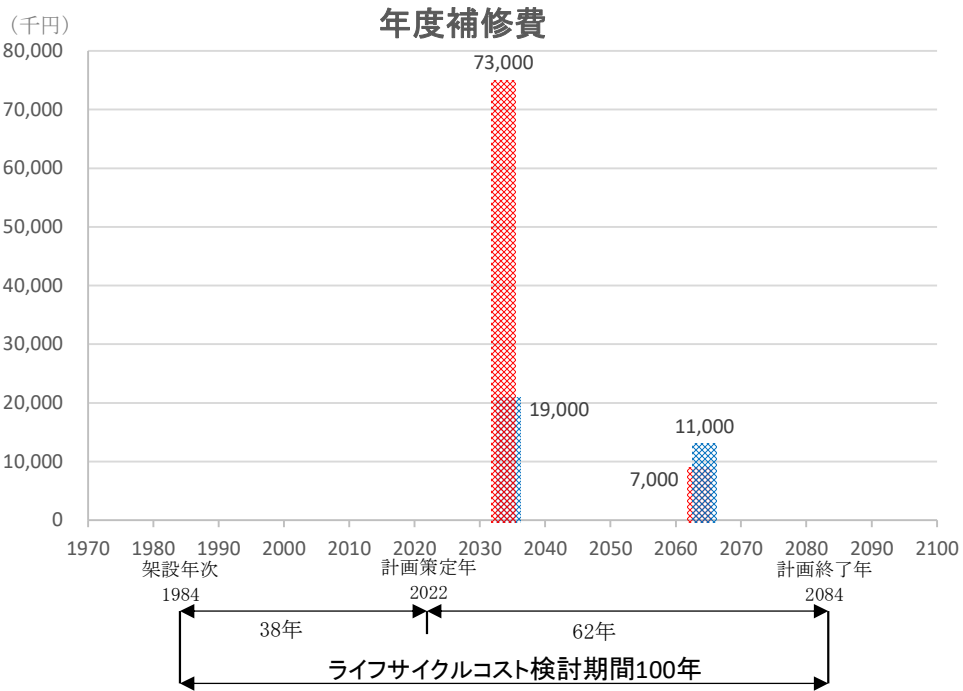
	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2034	2064		応急工事	2084
						数量	補修費	補修費		補修費	合 計
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	14.6	1,022	1,022			
46	縦目地取替工	埋設型	30	70	m	5.7	399	399			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	55	825	825			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	55	495	495			
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.2	800				
7	ひび割れ注入工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	1	10				
8	ひび割れ充填工	エポキシ樹脂充填	40	8	m	2	16				
28	根継工	現場打ち	50	40	m3	25	1,000			1,000	
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	88		616			
36	足場工	吊足場		11	m2	64	704	704			
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000			2,000	
201	直接工事費	合計		1	式	1	7,271	4,061		3,000	
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	19,000	11,000		8,000	30,000

(参考値)

○架替え工法ライフサイクルコスト

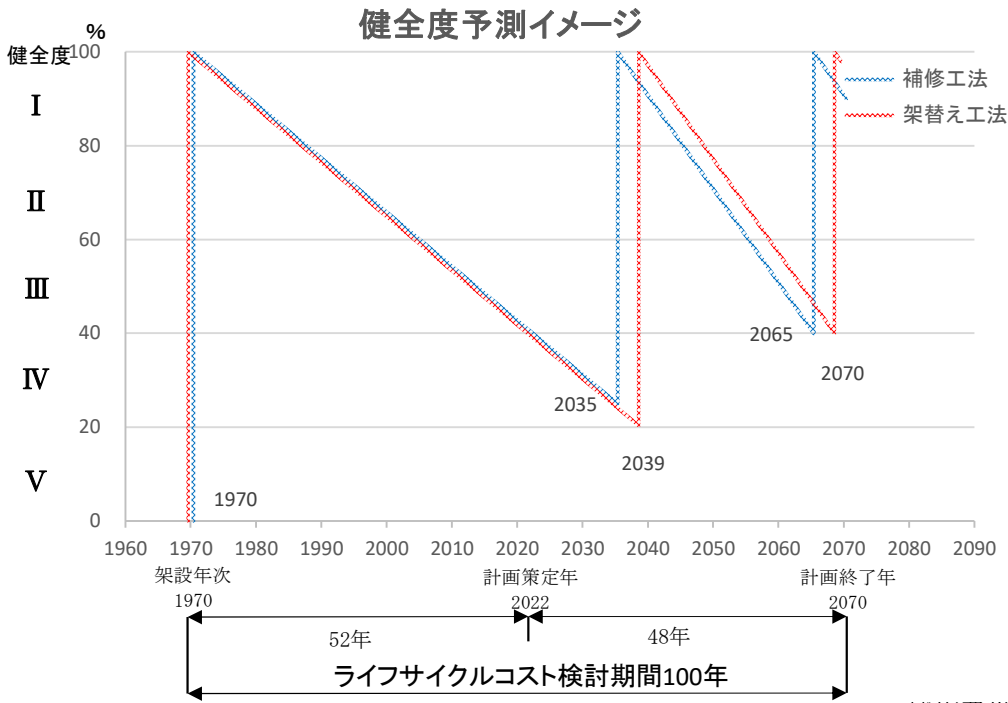
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度				計画終了年
						2022	2034	2064				2084
						数量	架替費	補修費				合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=7.7×8.3	50	200	m2	63.91	12,782					
111	橋台・橋脚	V=4×8.3×2×2	50	50	m3	133	6,650					
117	既設橋梁取壊し工	V=4×8.3×2×2		30	m3	133	3,990					
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	80	2,400					
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	14.6		1,022				
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	55		825				
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	55		495				
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000					
201	直接工事費	合計		1	式	1	27,822	2,342				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	73,000	7,000				80,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が 63% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	212
橋梁名称	七森4号橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B-
最厳劣化、必要対策概要	主桁錆汁含む遊離石灰
架設年次	1970
経過年数	52
橋長	5.5
幅員	4.0
径間数	1
路線名称	2283号線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間RCスラブ(床版)橋
橋材	RC橋
下部工	石積護岸
河川名	普通河川 七森沢



○補修工法ライフサイクルコスト

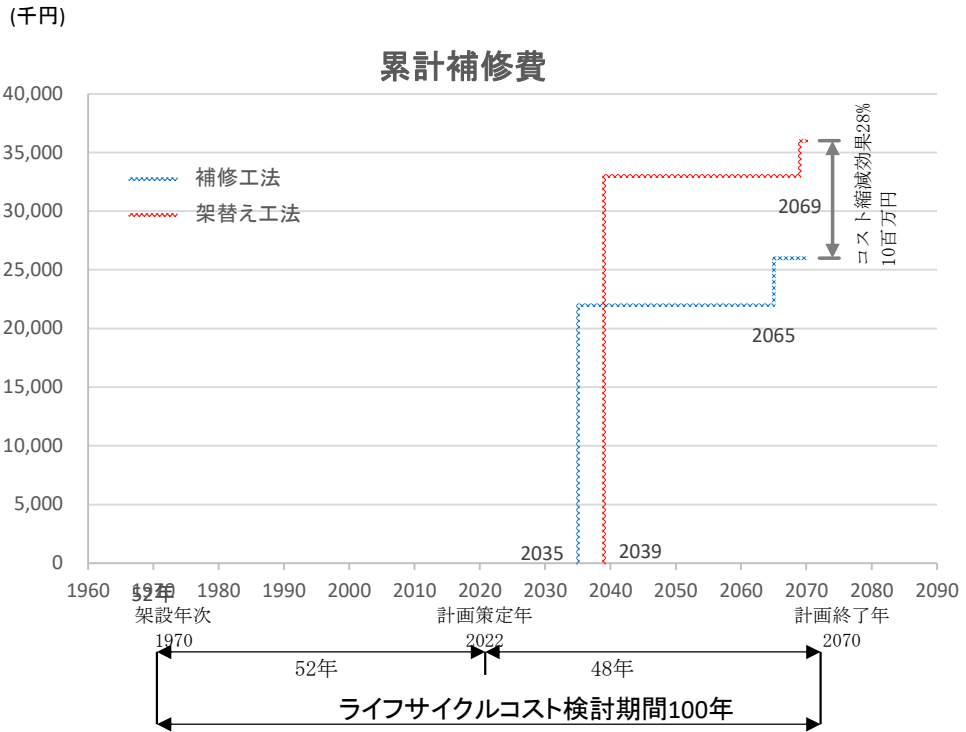
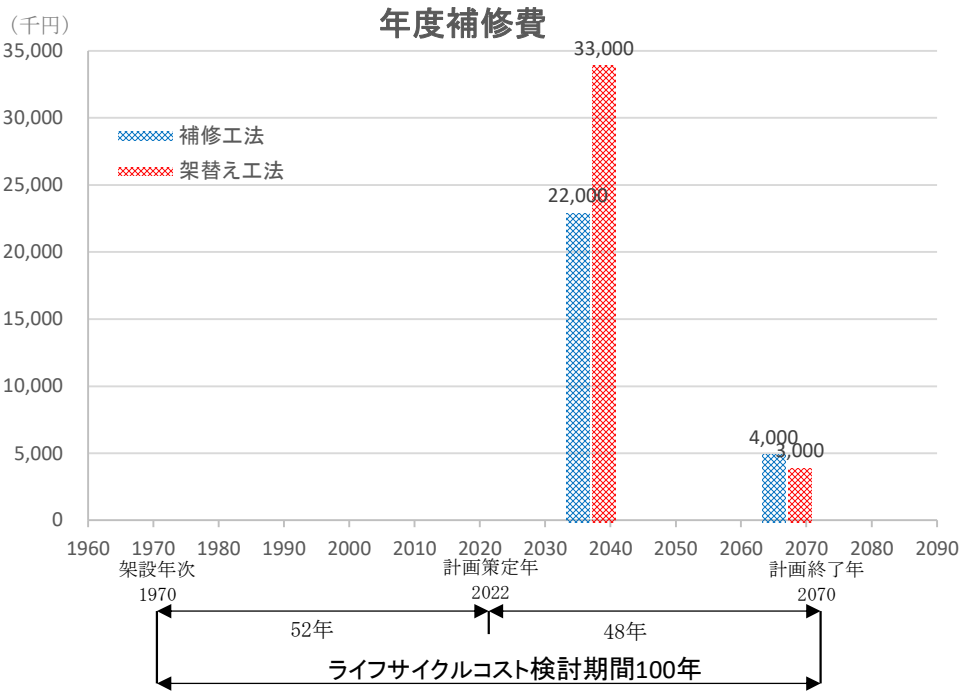
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2035	2065			2070
						数量	補修費	補修費			合 計
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	7.2	504	504			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	20	300	300			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	20	180	180			
17	地覆補修工	コンクリート打替え	50	40	m	11.1	444				
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	2,200	m3	2.2	4,840				
30	コンクリートはつり工	処理費含む		10	m2	22	220				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	22		154			
28	根継工	現場打ち	50	40	m3	12	480				
36	足場工	吊足場		11	m2	22	242	242			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	8,210	1,380			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	22,000	4,000			26,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

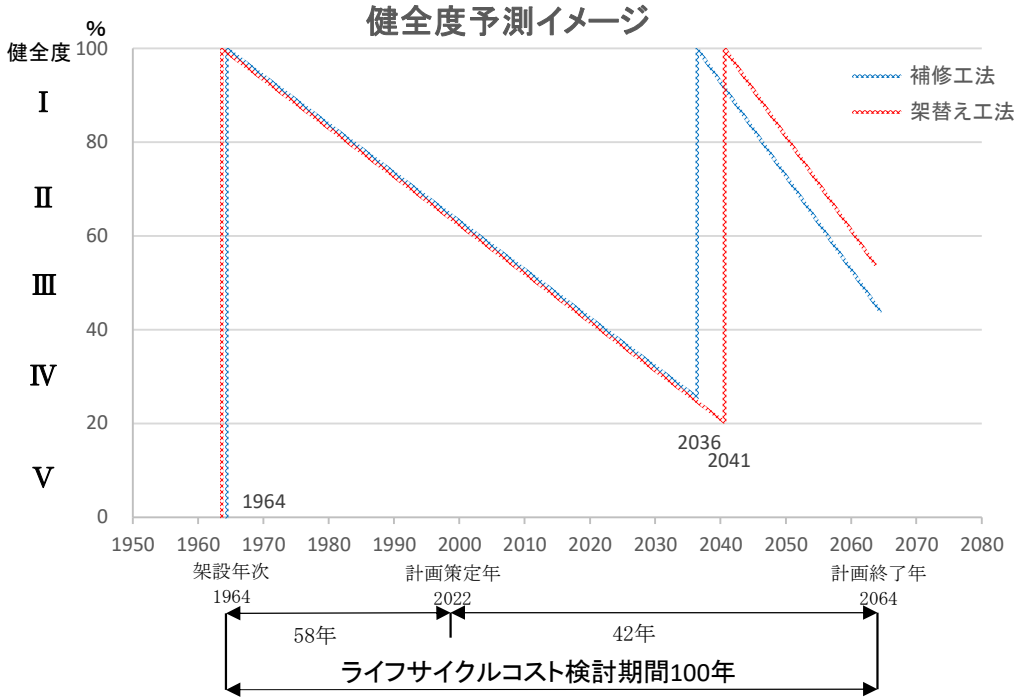
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2039	2069			2070
						数量	架替費	補修費			合 計
104	RC床板橋(L=4～6m)	A=5.5×4.0	50	130	m2	22	2,860				
111	橋台・橋脚	V=4×4.0×2×2	50	50	m3	64	3,200				
117	既設橋梁取壊し工	V=4×4.0×2×2		30	m3	64	1,920				
112	護岸復旧工	ブロック積護岸	50	30	m2	122	3,660				
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	7.2		504			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	20		300			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	20		180			
35	水替え工	沢河川		1,000	式	1	1,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	12,640	984			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	33,000	3,000			36,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 28% のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	608
橋梁名称	四工場橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B-
最厳劣化、必要対策概要	橋台保護工の洗掘、主桁ひびわれ、鉄筋露出
架設年次	1964
経過年数	58
橋長	12.1
幅員	4.2
径間数	1
路線名称	地蔵線
道路種別	その他村道
上部工構造形式	単径間RCT桁橋
橋材	RC橋
下部工	重力式橋台
河川名	一級河川 梓川



○補修工法ライフサイクルコスト

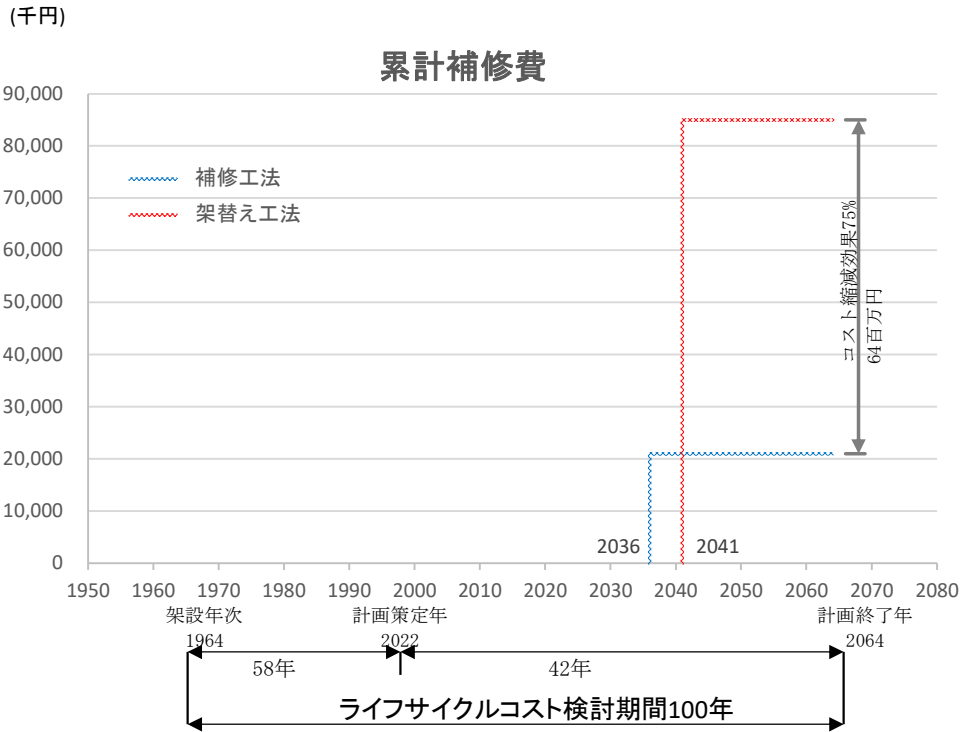
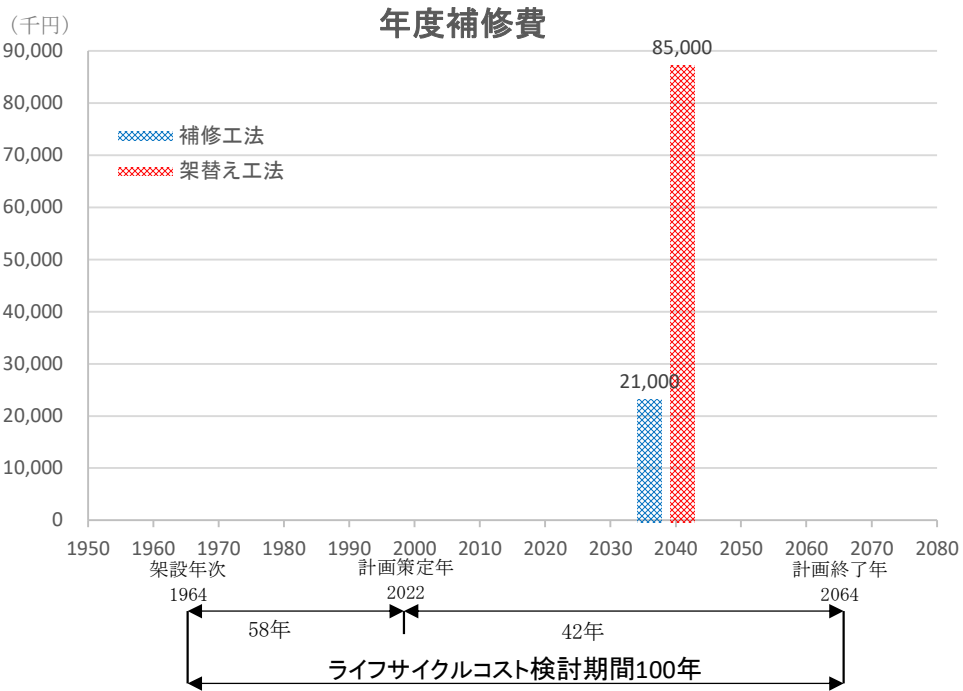
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2036				2064
						数量	補修費				合 計
2	伸縮装置取替工	埋設型	30	70	m	7.2	504				
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m ²	44	660				
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m ²	44	396				
6	塗装工	RC-3(ケレン込)	30	5	m ²	2.5	13				
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	1	150				
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m ³	0.2	800				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m ²	197	1,379				
7	ひび割れ注入工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	1	10				
8	ひび割れ充填工	エポキシ樹脂充填	40	8	m	4.2	34				
25	護床工	ブロック	50	40	m ²	30	1,200				
36	足場工	吊足場		11	m ²	51	561				
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	7,707				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	21,000				21,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

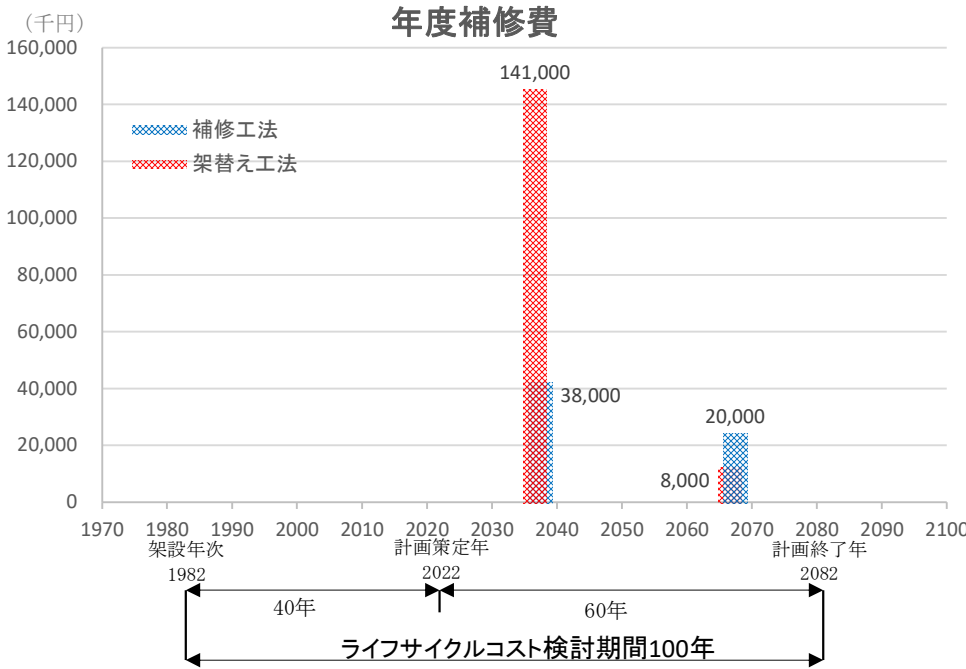
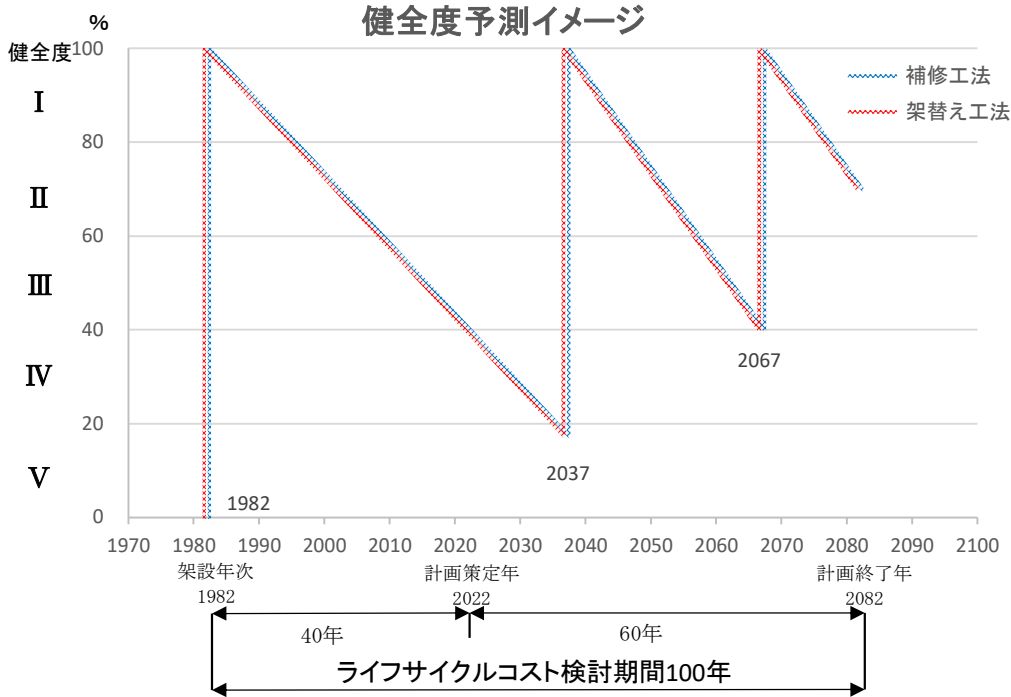
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度				計画終了年
						2022	2041					2064
						数量	架替費					合 計
101	PCﾌﾟﾚﾃﾝﾎｰﾚｰ桁(L=5～14m)	A=12.1×4.2	50	200	m ²	50.8	10,160					
111	橋台・橋脚	V=10×4.2×3×2	50	50	m ³	252	12,600					
117	既設橋梁取壊し工	V=10×4.2×3×2		30	m ³	252	7,560					
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000					
201	直接工事費	合計		1	式	1	32,320					
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	85,000					85,000



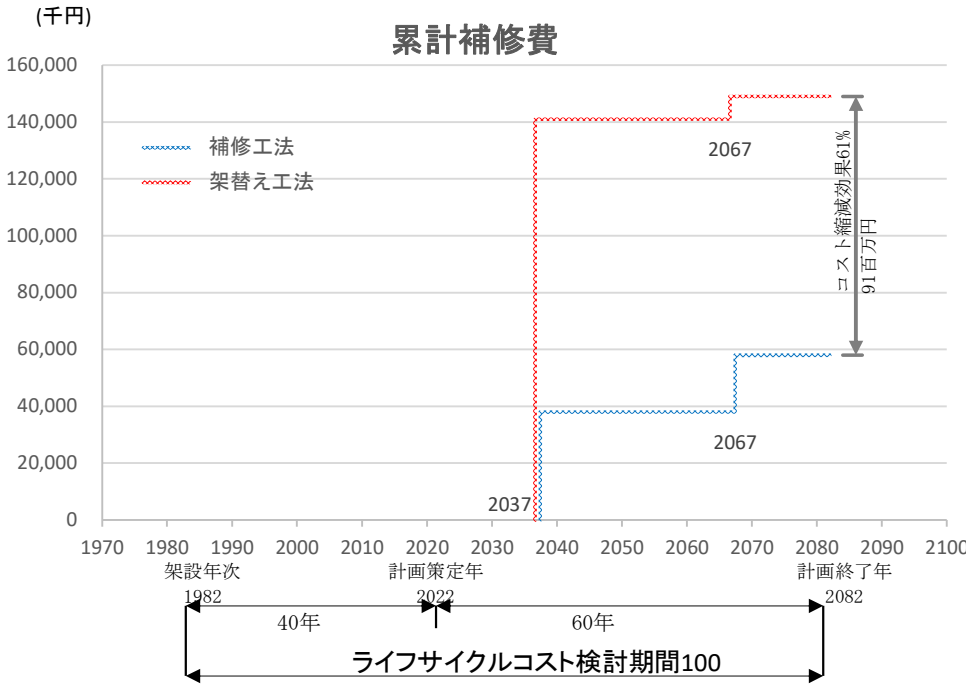
当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が85%のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	813
橋梁名称	二股橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B-
最厳劣化、必要対策概要	地覆剥離・欠損、橋台洗掘、床版ひびわれ(主桁再塗装済み)
架設年次	1982
経過年数	40
橋長	14.5
幅員	4.8
径間数	1
路線名称	秋山川端下線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	逆T式橋台
河川名	普通河川 西股川



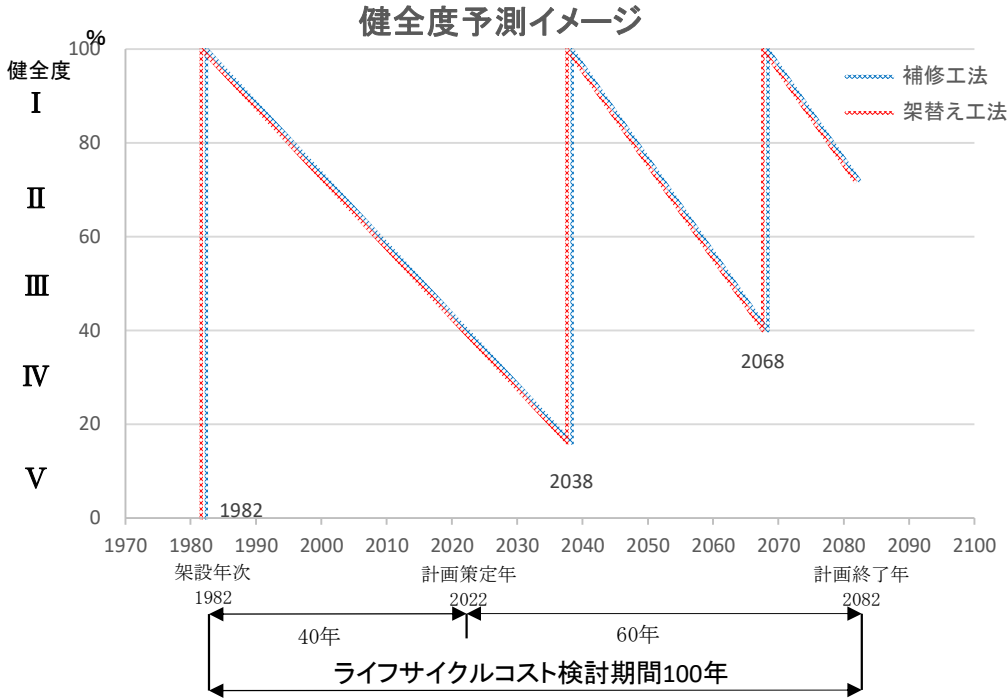
						補修費単位：千円				
	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度			
						2022	2037	2067		2082
						数量	補修費	補修費		合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	8	1,600	1,600		
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	58	870	870		
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	58	522	522		
17	地覆補修工	コンクリート打替え	50	40	m	29	1,160			
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	29	290			
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	70	490	490		
7	ひび割れ注入工	エポキシ樹脂注入	40	10	m	10	100			
8	ひび割れ充填工	エポキシ樹脂充填	40	8	m	4	32			
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600			
25	護床工	ブロック	50	40	m2	150	6,000			
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m2	73		1,460		
36	足場工	吊足場		11	m2	70	770	770		
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000			
39	環境対策費 (小)	RC-1防護対策		1,800	式	1		1,800		
201	直接工事費	合計		1	式	1	14,434	7,512		
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	38,000	20,000		58,000

						補修費単位：千円				
	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度		計画終了年
						2022	2037	2067		2082
						数量	架替費	補修費		合 計
102	PCプレテンロー桁(L=15～22m)	A=14.5×4.8	50	220	m2	69.6	15,312			
111	橋台・橋脚	V=8×4.8×3×2	50	50	m3	230	11,500			
117	既設橋梁取壊し工	V=8×4.8×3×2		30	m3	230	6,900			
111	橋台・橋脚	袖擁壁	50	50	m3	250	12,500			
25	護床工	ブロック	50	40	m2	150	6,000			
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	8		1,600		
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	58		870		
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	58		522		
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000			
201	直接工事費	合計		1	式	1	54,212	2,992		
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	141,000	8,000		149,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が約 61% のコスト縮減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	815
橋梁名称	東股橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	B-
最厳劣化、必要対策概要	橋台洗掘、伸縮装置欠損(主桁再塗装済み)
架設年次	1982
経過年数	40
橋長	18.5
幅員	4.7
径間数	1
路線名称	秋山川端下線
道路種別	1級村道
上部工構造形式	単径間鋼H桁橋
橋材	鋼橋
下部工	逆T式橋台
河川名	一級河川 金峰山川



○補修工法ライフサイクルコスト

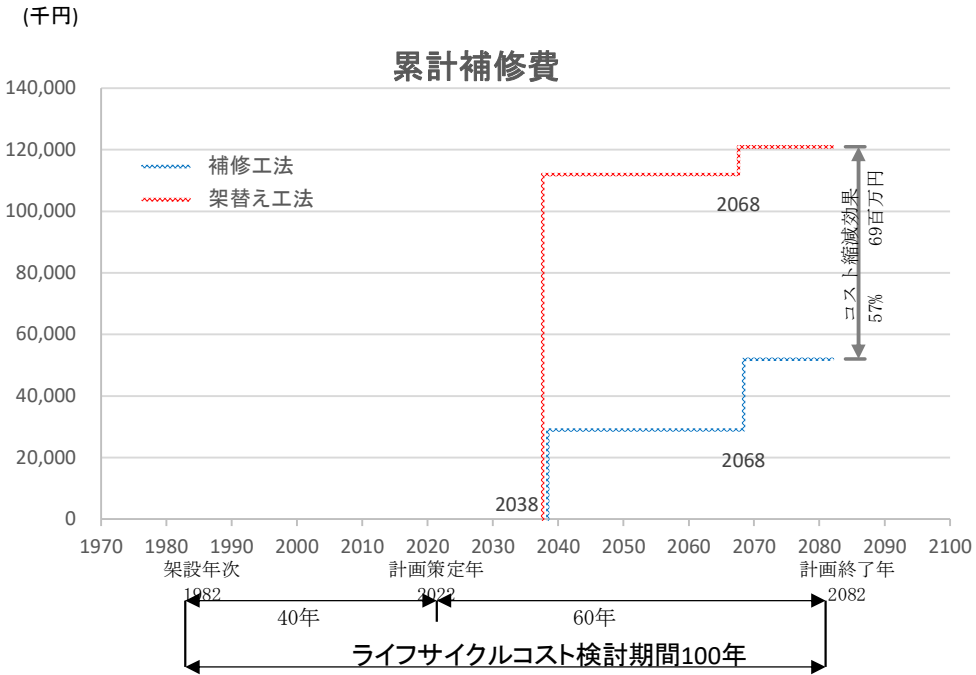
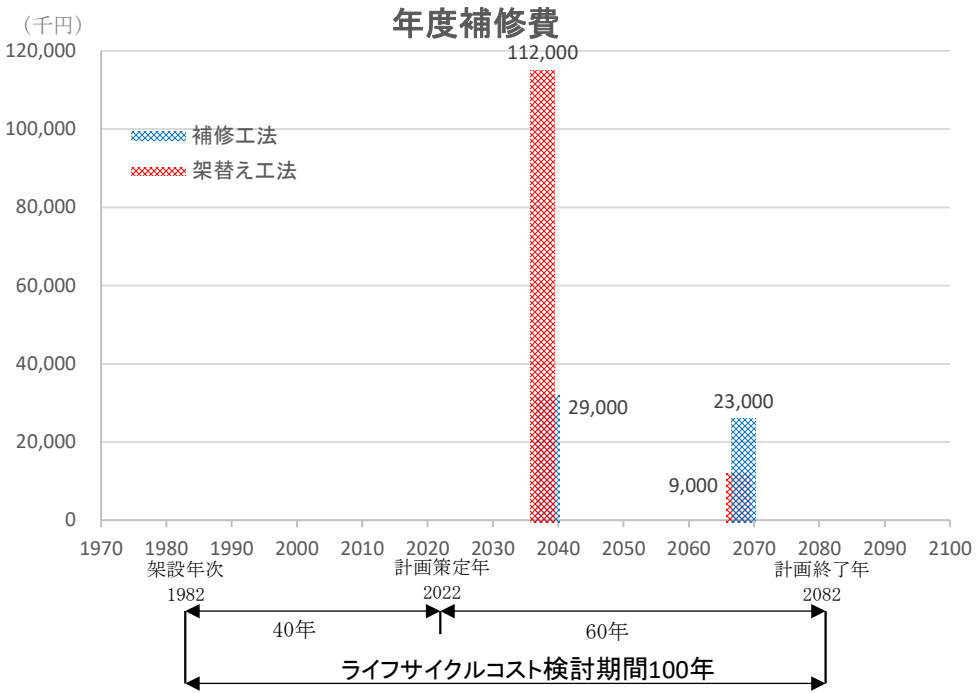
補修費単位：千円

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2038	2068			2082
						数量	補修費	補修費			合 計
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	8	1,600	1,600			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	74	1,110	1,110			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	74	666	666			
19	防護柵取替工	ガードレール	40	10	m	37	370				
12	断面修復工	ポリマーセメント	40	4,000	m3	0.1	400				
9	含浸材塗布工	ケイ酸塩系	30	7	m2	87		609			
25	護床工	ブロック	50	40	m2	110	4,400				
5	塗装工	RC-1(ケレン込)	30	20	m2	95		1,900			
39	環境対策費(小)	RC-1防護対策		1,800	式	1		1,800			
24	排水工	新設工(SUS)	100	150	箇所	4	600				
36	足場工	吊足場		11	m2	87		957			
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	11,146	8,642			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	29,000	23,000			52,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

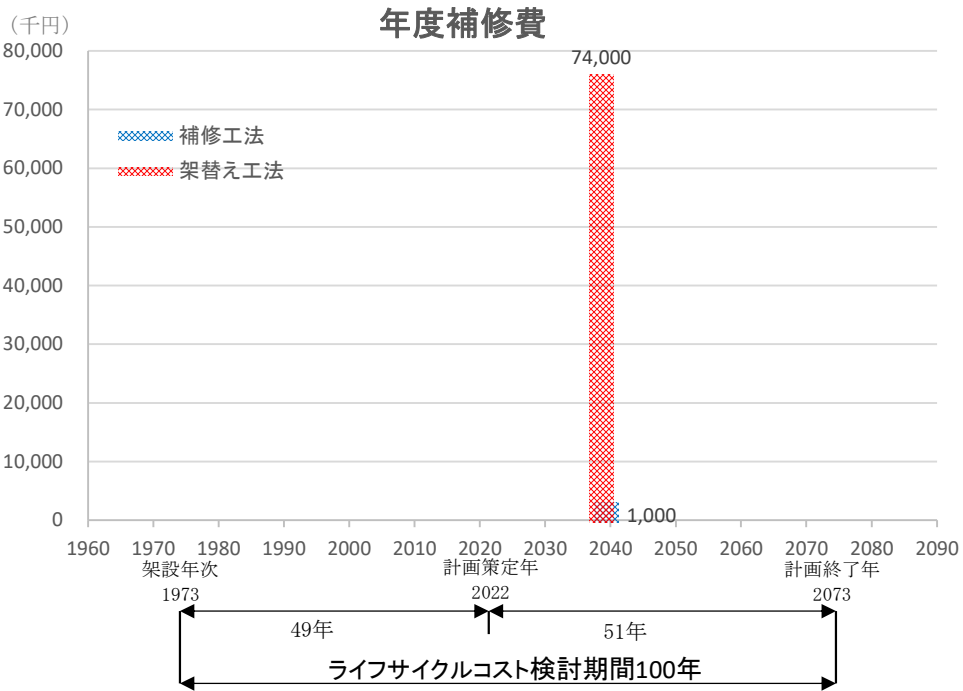
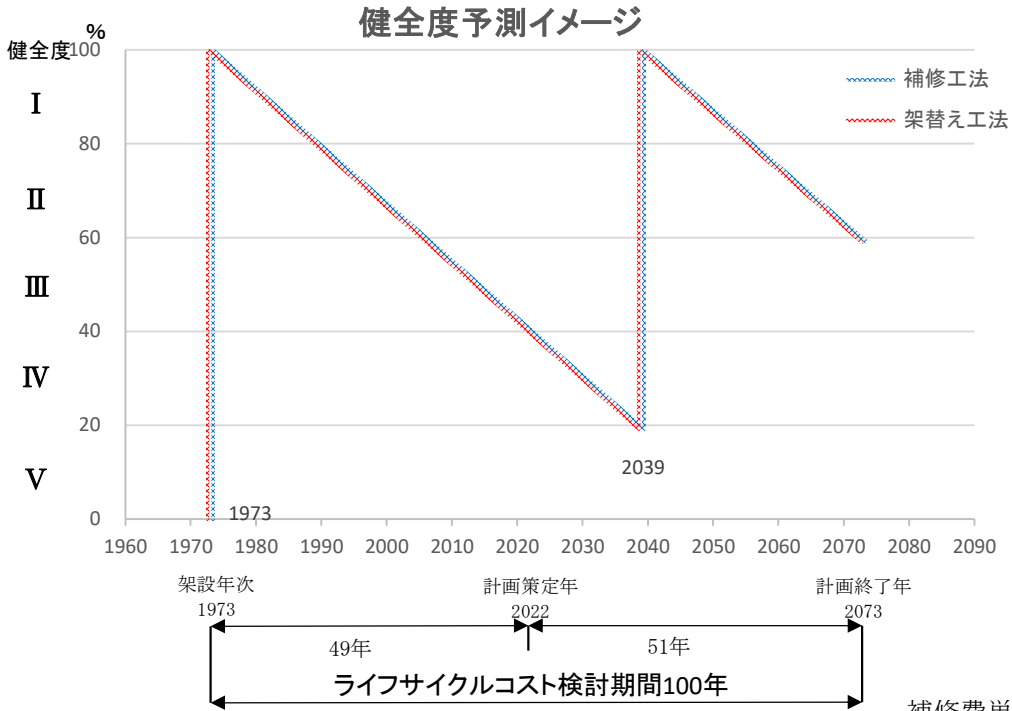
補修費単位：千円

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2038	2068			2082
						数量	架替費	補修費			合 計
102	PCﾌﾟﾚﾝﾎｰﾅｰ桁(L=15～22m)	A=18.5×4.7	50	220	m2	87.0	19,140				
111	橋台・橋脚	V=6×4.7×3×2	50	50	m3	170	8,500				
117	既設橋梁取壊し工	V=6×4.7×3×2		30	m3	170	5,100				
111	橋台・橋脚	袖擁壁	50	50	m3	75	3,750				
25	護床工	ブロック	50	40	m2	110	4,400				
1	伸縮装置取替工	撤去・新設	40	200	m	8		1,600			
3	床版防水工	複合防水・排水管設置	30	15	m2	74		1,110			
4	舗装打替え工	既設撤去・新設t=8cm	30	9	m2	74		666			
34	水替え工	小規模河川		2,000	式	1	2,000				
201	直接工事費	合計		1	式	1	42,890	3,376			
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	112,000	9,000			121,000



当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が57%のコスト削減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

橋梁番号	213
橋梁名称	東森橋
道路橋毎の健全性の診断	Ⅲ
優先度(A,+高～C-低)	C
最厳劣化、必要対策概要	主桁ボルトF11T交換
架設年次	1973
経過年数	49
橋長	16.0
幅員	4.9
径間数	1
路線名称	2-105号線
道路種別	2級村道
上部工構造形式	単径間鋼桁橋
橋材	鋼橋
下部工	重力式橋台
鉄道路線名	JR小海線(八ヶ岳高原線)

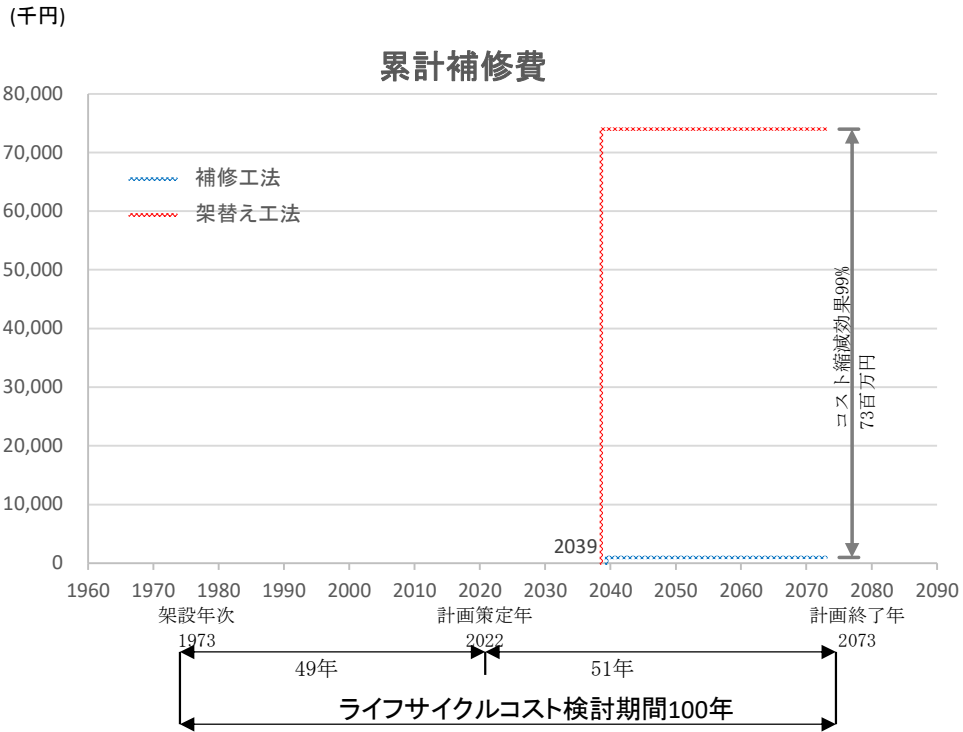


○補修工法ライフサイクルコスト

	補修項目	細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	補修年度				計画終了年
						2022	2039				2073
						数量	補修費				合 計
15	ボルト交換	F11T→F10T	50	150	100個	1.6	240				
201	直接工事費	合計		1	式	1	240				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	1,000				1,000

○架替え工法ライフサイクルコスト

	架替え工法	概算数量／細目	耐用年数	単価(千円)	/単位	計画策定年	架替年度	補修年度			計画終了年
						2022	2039				2073
						数量	架替費				合 計
102	PCプレテンボロー桁(L=15～22m)	A=16.0×4.9	50	220	m2	78.4	17,248				
111	橋台・橋脚	V=7×4.9×2×2	50	50	m3	138	6,900				
117	既設橋梁取壊し工	V=7×4.9×2×2		30	m3	138	4,140				
201	直接工事費	合計		1	式	1	28,288				
202	工事費(諸経費込)	消費税10%込		2.6	式	1	74,000				74,000

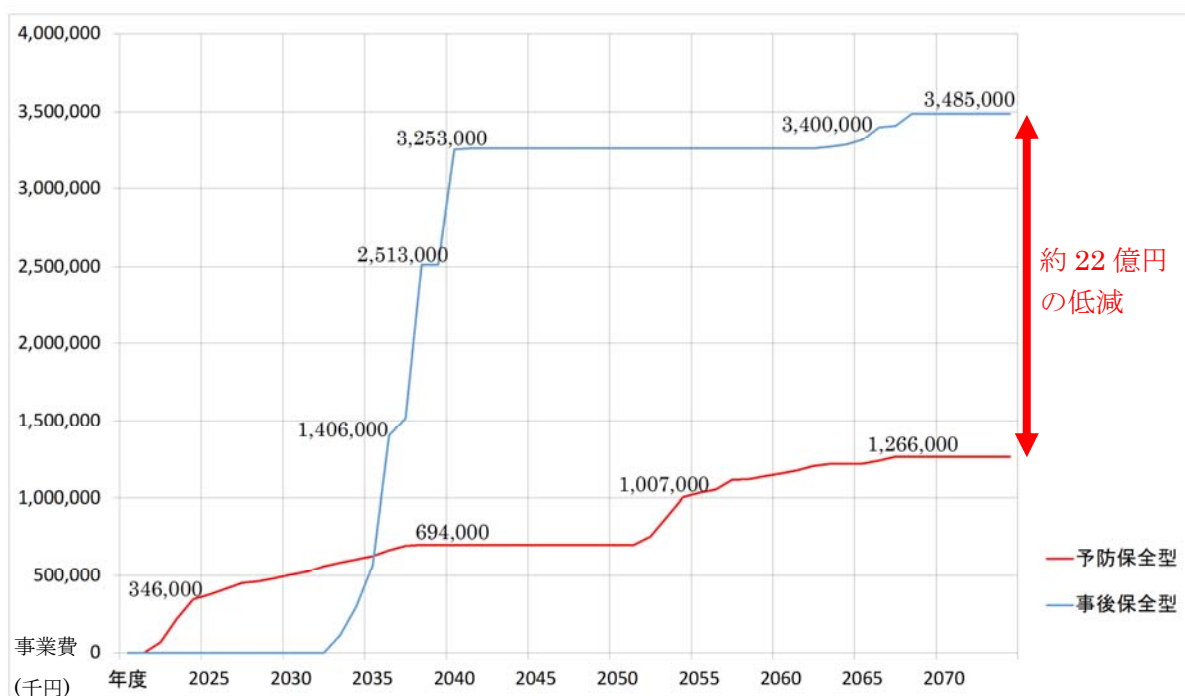


当橋梁は建設後100年間のLCCを比較した場合、架替工法と比べて、補修工法が99%のコスト縮減効果があることから、当橋梁は補修工法を採用するものとする。

5.2 長寿命化計画の効果

長寿命化修繕計画に基づき、計画的に予防保全対策（補修）を行うことにより橋梁の長寿命化を図ることができ、従来の事後保全対策（架け替え）と比べてライフサイクルコストの削減を図ることができる。

試算シミュレーションによれば、予防保全対策による各橋梁のコスト削減割合は概ね 12～76% となり、2023 年より 2071 年までの橋梁維持費において総額で約 22 億円（約 60%）のコスト削減が可能となる試算結果が得られた。



また、事後保全型の場合、2022 年に評価Ⅲとした橋梁が 2034 年～2042 年に集中して評価Ⅳとなり、架け替えの費用がこの期間で約 32 億円も必要となる。必要となる単年度予算は、2039 年に約 10 億円、2037 年に約 8 億円と高額となる。

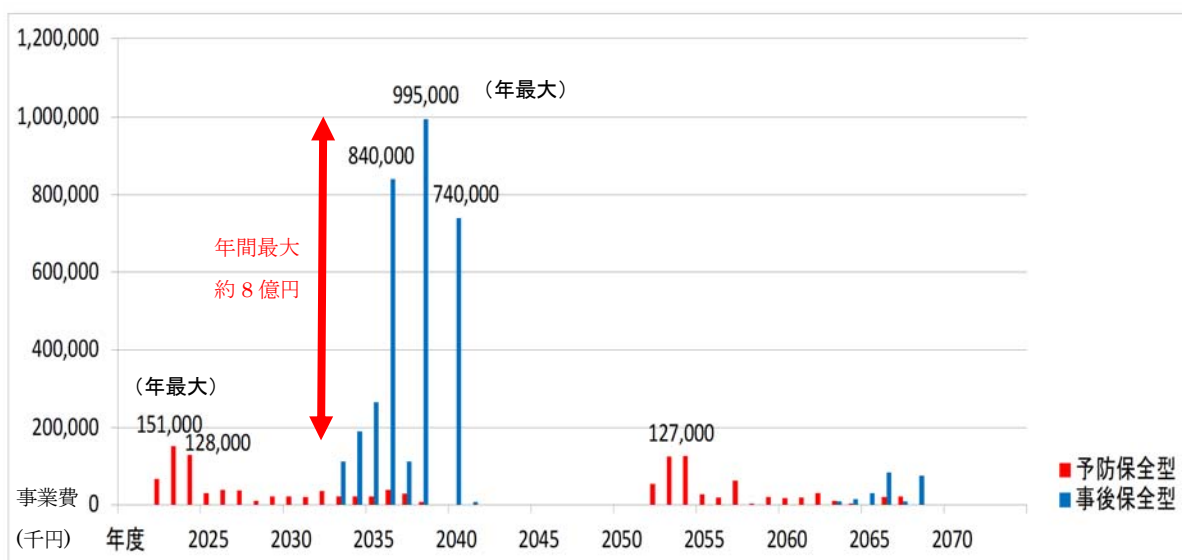
これに対して予防保全型は 22 橋の補修を 2023 年から計画的に行うことにより、2023 年～2039 年の 17 年間にかけて約 7 億円の費用で維持を行うことが可能となる。また、単年度の予算は 2024 年の約 1 億 5 千万円を最大とし、平均で年に約 4 千万円前後の費用となり、現実的な予算確保が可能と思われる。

これらの試算は架設年から評価年 2022 年までの劣化割合を直線とし、2022 年に評価Ⅲと判定された橋梁において、その劣化速度で劣化が進んだ場合を想定している、実際には劣化が判定Ⅲの加速期から判定Ⅳまでの劣化期が速いとされている。しかしながら、当試算では事後保全工法は判定Ⅳで架け替えという考え方としているため、現実的には判定Ⅳの状態でも供用している可能性が高い。それらの要素を勘案したとしても、現時点から予防保全型管理手法として補修工事を計画的に実施していかないと、今後 20 年のうちに補修することが難しくなる橋梁

が出てくることが予想される。そのため、現時点より計画的に予算を確保して補修を行うことが、長い目でみたライフサイクルコストを低減させることが必要と思われる。

今後の方針として定期点検の効率化や高度化、修繕等の措置の省力化や費用縮減などを図るために、NETIS(新技術情報提供システム)や点検支援技術性能カタログ等を参考として新技術等の導入を検討し、管理する 101 橋のうち約 5%の橋梁で新技術を活用した点検の実施を目標とする。なお、トンネルについては令和 5 年度以降の定期点検で NETIS(新技術情報提供システム)や点検支援技術性能カタログ等を参考として新技術等を活用することを目標とする。

また、社会経済情勢や施設の利用状況等の変更に応じた適正な配置のための、橋梁の集約化・撤去、機能縮小なども視野に入れて地元の意見を踏まえながら検討を行い、財政面や管理面での負担を軽減し、今後 10 年間で約 100 万円相当の費用の縮減を図ることも目標とする。なお、トンネルについては予防保全型管理を行うことで、今後 10 年間で約 50 万円相当の費用の縮減を図ることを目標とする。



※ 参考資料

参考資料として 2022 年時点での 3 巡目定期点検の予定一覧表を添付する。

- ・ 3 巡目点検予定一覧表 : R06(2024)～R08(2026)

川上村管理橋梁3巡目点検予定一覧表(2022時点)

2024年度(令和6年度)点検予定一覧表

番号	橋梁番号	橋梁名称	道路橋 毎の健全性の 診断	優先度 (A高～ C低)	架設年次		経過 年数 (2022)	橋長 幅員	径間 数	路線名称	路線 コード	(村道) 道路 種別	架設 条件	上部工構造形式	橋材	下部工
					西暦	和暦										
1	101	半分沢橋	Ⅱ	B	1985	昭和60	-	37	8.9	14.7	1-1	1級	河川	RCラーメン橋	RC橋	ラーメン式橋台
2	102	樋沢坂橋	Ⅱ	B	1987	昭和62	-	35	8.2	40.8	1-1	1級	河川	PCスラブ橋	PC橋	逆T式橋台、T型橋脚
3	103	樋沢橋(矢出川橋)	Ⅱ	B	1988	昭和63	-	34	50.5	9.0	1-1	1級	河川	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	逆T式橋台、T型橋脚
4	105	樋沢中原橋	Ⅱ	B	1975	昭和50	-	47	23.0	4.3	2-102	2級	河川	PCスラブ橋	PC橋	重力式橋台、壁式橋脚
5	106	樋山口橋	Ⅱ	B	1986	昭和61	-	36	22.7	11.0	1-5	1級	河川	RCT桁橋	RC橋	逆T式橋台
6	201	樋沢新田橋	Ⅱ	C	1981	昭和56	-	41	83.4	7.5	1-6	1級	河川	PCT桁	PC橋	逆T式橋台、T型橋脚
7	202	下り川橋	Ⅰ	C	1975	昭和50	-	47	2.5	4.3	2-110	2級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
8	203	本郷橋	Ⅲ	B	1971	昭和46	-	51	135.2	6.5	1-7	1級	河川	RCガルバー橋	RC橋	重力式橋台、T型橋脚
9	204	下坂橋	Ⅱ	B	1973	昭和48	-	49	30.5	5.0	2-109	2級	河川	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	重力式橋台、T型橋脚
10	205	坂下橋	Ⅱ	B	1975	昭和50	-	47	28.3	4.4	2-106	2級	河川	PCT桁橋	PC橋	重力式橋台
11	206	埋沢橋	Ⅱ	B	1988	昭和63	-	34	5.0	3.0	2-106	2級	河川	ボックスカルバート	PC橋	ボックスカルバート
12	207	丸畑橋	Ⅱ	B	1985	昭和60	-	37	21.8	6.2	2-107	2級	河川	RCT桁橋	RC橋	逆T式橋台
13	208	兵部橋	Ⅱ	C	1985	昭和60	-	37	5.7	4.8	2010	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	石積護岸
14	209	七森1号橋	Ⅰ	C	1991	平成3	-	31	6.5	3.5	2283	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
15	210	七森2号橋	Ⅱ	C	1982	昭和57	-	40	6.1	4.1	2283	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
16	211	七森3号橋	Ⅱ	C	1970	昭和45	-	52	6.2	4.0	2283	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	石積護岸
17	212	七森4号橋	Ⅲ	B	1970	昭和45	-	52	5.5	4.0	2283	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	石積護岸
18	214	西の腰橋	Ⅰ	C	1988	昭和63	不明	34	3.8	9.05	1-5	1級	河川	ボックスカルバート	PC橋	ボックスカルバート、重力式橋台
19	216	馬放場1号橋	Ⅱ	C	1985	昭和60	-	37	8.5	4.2	2-106	2級	河川	PCスラブ橋	PC橋	逆T式橋台
20	217	馬放場2号橋	Ⅰ	C	1988	昭和63	-	34	2.5	5.0	2257	その他	河川	ボックスカルバート	PC橋	ボックスカルバート
21	222	二ツ山橋	Ⅰ	C	1965	昭和40	-	57	2.5	4.9		私道	河川	ボックスカルバート	RC橋	ボックスカルバート
22	223	森の鼻橋	Ⅱ	C	1985	昭和60	-	37	2.1	5.0	2-105	2級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
23	224	森山1号橋	Ⅰ	C	1985	昭和60	-	37	4.1	6.0	2232	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
24	225	森山2号橋	Ⅰ	C	1985	昭和60	-	37	3.5	12.0	2207	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
25	226	黒沢橋	Ⅲ	B	1978	昭和53	-	44	31.8	9.5	1-23	1級	河川	RCT桁	RC橋	逆T式橋台、T型橋脚
26	227	黒沢川橋	Ⅲ	B	1992	平成4	-	30	28.6	9.75	1-24	1級	河川	PC箱桁橋	PC橋	逆T式橋台
27	228	埋沢大橋	Ⅲ	A	1989	平成元	-	33	180.0	9.3	1-24	1級	河川、埋沢	PC箱桁橋	PC橋	逆T式橋台、ラーメン式橋脚
28	301	西原沢橋	Ⅰ	C	1970	昭和45	-	52	4.3	3.8	4101	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
29	302	下出橋	Ⅱ	C	1982	昭和57	不明	40	4.4	8.4	1-7	1級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台・石積護岸
30	303	赤頭橋	Ⅱ	C	1974	昭和49	-	48	99.9	6.0	2-115	2級	河川	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	逆T式橋台、T型橋脚
31	304	前川二号橋	Ⅱ	C	1976	昭和51	-	46	15.7	4.0	2126	その他	河川	RC中空床版橋	RC橋	重力式橋台
32	305	原寺道橋	Ⅰ	C	1982	昭和57	-	40	5.65	4.14	3122	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	枕梁式橋台
33	306	上屋敷橋	Ⅱ	C	1982	昭和57	-	40	5.85	4.66	3162	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	枕梁式橋台
34	307	前川1号橋	Ⅱ	C	1982	昭和57	-	40	7.05	6.0	2-114	2級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
35	309	さぶい沢下橋	Ⅰ	C	1985	昭和60	-	37	2.0	7.1	2-117	2級	河川	ボックスカルバート	RC橋	ボックスカルバート
36	310	さぶい沢上橋	Ⅰ	C	1975	昭和50	-	47	2.0	5.0	2-117	2級	河川	ボックスカルバート	RC橋	ボックスカルバート
37	311	奥さぶい沢橋	Ⅲ	B	1970	昭和45	-	52	3.1	4.0	2-117	2級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
38	313	詰堀橋	Ⅲ	B	1960	昭和35	-	62	3.5	3.6	2-113	2級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	石積護岸
39	314	引木原橋	Ⅰ	C	1960	昭和35	-	62	5.5	4.7	2-118	2級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
40	315	中島1号橋	Ⅰ	C	1991	平成3	-	31	12.4	8.2	1-8	1級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
41	316	南沢1号橋	Ⅲ	B	1982	昭和57	-	40	12.4	4.1	3006	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
42	317	南沢2号橋	Ⅲ	B	1982	昭和57	-	40	12.0	4.1	3277	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
43	318	南沢3号橋	Ⅲ	B	1982	昭和57	-	40	11.0	4.1	3277	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
44	319	高登谷橋	Ⅰ	C	1988	昭和63	-	34	10.8	7.7	3305	その他	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
45	321	中島2号橋	Ⅰ	C	1992	平成4	-	30	9.0	8.2	1-8	1級	河川	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
46	322	二ツ橋	Ⅲ	B	1985	昭和60	-	37	8.3	4.1	3006	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
47	323	夕陽あたり橋	Ⅲ	B	1982	昭和57	-	40	5.9	4.0	3311	その他	河川	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
48	324	寒い沢橋	Ⅱ	C	1989	平成元	-	33	127.1	9.25	1-26	1級	河川、埋沢	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	逆T式橋台、T型橋脚

※227_黒沢川橋は県補修の228_埋沢大橋の通行制限に合わせで補修を行う。

※227_黒沢川橋、228_埋沢大橋については県の補修工事の完了時期により予定が前後する。

2025年度(令和7年度)点検予定一覧表

番号	橋梁番号	橋梁名称	道路橋毎の健全性の診断	優先度 (A高～C低)	架設年次		経過 年数 (2022)	橋長 幅員 数	路線名称	路線 コード	架設 条件 (村道) 道路 種別	上部工構造形式	橋材	下部工
					西暦	和暦								
1	320	高登谷湖橋	Ⅲ	C	1955	昭和30	67	2.75	2.5	1	川上村3306号線	石橋	枕梁式橋台	
2	401	横沢橋	Ⅲ	B	1974	昭和49	48	67.4	11.75	3	川上村水生線	鋼橋	逆T式橋台	
3	402	水生橋	Ⅲ	A	1970	昭和45	52	3.3	4.5	1	川上村水生線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台・石積護岸
4	403	金山橋	Ⅱ	C	1984	昭和59	38	69.0	5.2	2	川上村4227号線	PCT桁	PC橋	逆T式橋台、T型橋脚
5	501	滝ノ口沢橋	Ⅱ	C	1985	昭和60	37	4.7	2.9	1	川上村5126号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	ブロック積護岸
6	502	下木戸橋	Ⅲ	C	1963	昭和38	59	53.5	6.8	2	川上村1－13号線	PCT桁	PC橋	逆T式橋台、壁式橋脚
7	503	居倉橋	Ⅲ	B	1984	昭和59	38	54.3	7.5	2	川上村1－13号線	PCT桁	PC橋	逆T式橋台、T型橋脚
8	504	小坂上橋	I	C	2019	令和元	3	2.1	4.5	1	川上村5133号線	ボックスカルバート	RC橋	ボックスカルバート
9	505	小川沢橋	I	C	2019	令和元	3	5.55	6.0	1	川上村5253号線	ボックスカルバート	RC橋	ボックスカルバート
10	506	中小川沢橋	I	C	1982	昭和57	40	2.7	3.44	1	川上村5255号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	水路側壁
11	507	下小川沢橋	I	C	1982	昭和57	40	2.75	3.41	1	川上村5254号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	水路側壁
12	508	小川橋	Ⅱ	B	1976	昭和51	46	20.7	5.0	1	川上村2－121号線	RC中空床版橋	RC橋	重力式橋台
13	509	中原橋	Ⅱ	C	1985	昭和60	37	10.6	8.2	1	川上村1－12号線	RC中空床版橋	RC橋	重力式橋台
14	510	西馬越橋	I	C	1985	昭和60	37	9.2	4.7	1	川上村2－122号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
15	511	作小川橋	Ⅳ	A	1982	昭和57	40	8.0	3.1	1	川上村5005号線	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
16	601	西向橋	Ⅱ	C	1986	昭和61	36	24.4	4.5	2	川上村2－132号線	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台、壁式橋脚
17	602	室屋橋	Ⅱ	B	1983	昭和58	39	60.1	5.2	3	川上村6133号線	PCT桁橋	PC橋	逆T式橋台、T型橋脚
18	603	秋山1号橋	Ⅱ	C	1984	昭和59	38	41.8	6.0	2	川上村1－19号線	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	逆T式橋台、T型橋脚
19	604	秋山2号橋	Ⅱ	B	1974	昭和49	48	47.2	6.5	2	川上村1－19号線	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	重力式橋台、T型橋脚
20	605	秋山3号橋	Ⅱ	C	1981	昭和56	41	45.2	5.2	2	川上村6106号線	RC中空床版橋	RC橋	重力式橋台、T型橋脚
21	606	チロリン橋	Ⅱ	C	1981	昭和56	41	5.0	4.8	1	川上村6120号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
22	607	五郎山橋	Ⅲ	A	1964	昭和39	58	5.2	4.0	1	川上村6006号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
23	608	四工増橋	Ⅲ	B	1964	昭和39	58	12.1	4.2	1	川上村地蔵線	RCT桁橋	RC橋	重力式橋台
24	609	町田橋	Ⅱ	C	1970	昭和45	52	12.1	4.2	1	川上村地蔵線	RCT桁橋	RC橋	重力式橋台
25	610	梓2号橋	Ⅱ	C	1984	昭和59	38	18.5	4.8	1	川上村2－140号線	鋼H桁橋	鋼橋	逆T式橋台
26	611	地蔵橋	Ⅱ	C	1985	昭和60	37	13.0	4.4	2	川上村2－140号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台、壁式橋脚
27	614	駒倉沢橋	Ⅱ	C	1996	平成8	26	80.8	9.75	3	川上村2－131号線	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	逆T式橋台、T型橋脚
28	701	黒蔽橋	Ⅱ	C	1977	昭和52	45	25.8	6.2	1	川上村2－134号線	PCT桁	PC橋	逆T式橋台
29	702	黒谷沢橋	Ⅱ	C	1964	昭和39	58	9.1	4.6	1	川上村川上・秩父線	RCT桁橋	RC橋	逆T式橋台
30	703	日本基橋	Ⅲ	A	1954	昭和29	68	24.2	4.5	2	川上村川上・秩父線	RCT桁橋	RC橋	逆T式橋台、ラーメン式橋脚
31	704	蓮坂下橋	I	C	1981	昭和56	41	7.5	5.0	1	川上村毛馬場甲武信線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
32	706	蓮2号橋	Ⅱ	B	1984	昭和59	38	16.7	5.0	1	川上村毛馬場甲武信線	RC中空床版橋	RC橋	重力式橋台
33	707	千駄木橋	Ⅲ	B	1984	昭和59	38	7.7	8.3	1	川上村梓山十文字線	RCT桁橋	RC橋	石積護岸
34	801	新田橋	Ⅲ	B	1975	昭和50	47	36.4	9.9	2	川上村秋山川端下線	RC中空床版橋PCスラブ橋	RC・PC橋	逆T式橋台、壁式橋脚
35	803	境橋	Ⅲ	B	1970	昭和45	52	8.4	9.0	1	川上村秋山川端下線	RCT桁・RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
36	804	墓所平橋	Ⅱ	C	1976	昭和51	46	8.0	4.0	1	川上村8001号線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台
37	805	岩石橋	I	C	1975	昭和50	47	5.1	5.1	1	川上村宿新田線	RCスラブ(床版)橋	RC橋	重力式橋台・石積護岸
38	806	向橋	I	C	1983	昭和58	39	39.4	5.2	2	川上村8157号線	PCT桁	PC橋	逆T式橋台、T型橋脚
39	808	大日沢橋	Ⅲ	B	1963	昭和38	59	18.6	9.75	1	川上村秋山川端下線	PCT桁、RCT桁橋	逆T式橋台	
40	809	石安場橋	Ⅱ	C	1984	昭和59	38	18.8	4.9	1	川上村石安場十石線	RCT桁橋	RC橋	重力式橋台
41	810	十石橋	Ⅱ	C	1989	平成元	33	25.9	8.2	1	川上村秋山川端下線	鋼鈑桁橋(非合成)	鋼橋	重力式橋台
42	811	矢根岩橋	I	C	1989	平成元	33	11.4	4.0	1	川上村石安場十石線	PCスラブ橋	PC橋	逆T式橋台
43	812	小十石橋	Ⅲ	B	1976	昭和51	46	12.7	8.3	1	川上村秋山川端下線	PCスラブ・RC中空床版橋	RC・PC橋	逆T式橋台
44	813	二股橋	Ⅲ	B	1982	昭和57	40	14.5	4.8	1	川上村秋山川端下線	鋼H桁橋	鋼橋	逆T式橋台
45	815	東股橋	Ⅲ	B	1982	昭和57	40	18.5	4.7	1	川上村秋山川端下線	鋼H桁橋	鋼橋	逆T式橋台
46	816	わごの橋	Ⅱ	B	1988	昭和63	34	22.5	4.7	1	川上村秋山川端下線	鋼H桁橋	鋼橋	逆T式橋台
47	817	梓越橋	Ⅱ	C	1970	昭和45	52	8.5	4.7	1	川上村秋山川端下線	PCスラブ橋	PC橋	重力式橋台
48	818	魚留沢橋	Ⅱ	C	1982	昭和57	40	18.6	4.2	1	川上村秋山川端下線	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
49	819	大地橋	Ⅱ	C	1983	昭和58	39	10.5	4.4	1	川上村秋山川端下線	鋼H桁橋	鋼橋	重力式橋台
50	820	川上大橋	Ⅱ	C	2004	平成16	18	412.3	10.25	5	川上村ふるさと農道線	鋼トラス橋	鋼橋	逆T式橋台、壁式橋脚
51	821	無名橋	I	C	1998	平成10	24	4.5	5.0	1	川上村2－105号線	ボックスカルバート	PC橋	ボックスカルバート

2026年度(令和8年度)点検予定一覧表

番号	橋梁番号	橋梁名称	道路橋毎の健全性の診断	優先度 (A高～C低)	架設年次		経過 年数 (2022)	橋長 幅員 数	路線名称	路線 コード	架設 条件 (村道) 道路 種別	上部工構造形式	橋材	下部工
					西暦	和暦								
JR点検①	1	213 東森橋	Ⅲ	C	1973	昭和48	49	16.0	5.35	1	川上村村道2294号線	鋼鈑桁橋	鋼橋	重力式橋台
JR点検②	2	229 埋沢跨線橋	Ⅱ	C	1993	平成5	29	15.7	9.4	1	川上村藤塚・埋沢線	PCスラブ橋	PC橋	逆T式橋台

2023年度(令和5年度)以降点検予定一覧表 (※3巡目点検ではない)

番号	橋梁番号	橋梁名称	道路橋毎の健全性の診断	優先度 (A高～C低)	架設年次		経過 年数 (2022)	橋長 幅員 数	路線名称	路線 コード	架設 条件 (村道) 道路 種別	上部工構造形式	橋材	下部工
					西暦	和暦								
劣橋(R01)架設(R04)	1	705 蓮1号橋			1984	昭和59	38	33.3	5.0	2	川上村毛馬場甲武信線	RC中空床版橋	RC橋	重力式橋台
	2	新小川橋			2018	平成30	4	22.5	8.2	1		PC中空床版橋	PC橋	
		川上トンネル			2021	令和03	1	184.0	5.50					

※ 参考資料

参考資料として橋梁定期点検において準拠した以下の要領を添付する。

- ・「長野県道路橋定期点検要領（令和元年10月：長野県建設部道路管理課）」

長野県 道路橋定期点検要領

目次

1. 適用範囲	1
2. 定期点検の頻度	2
3. 定期点検の体制	2
4. 状態の把握	3
5. 健全性の診断	4
6. 記録	8
7. 措置	9
別紙 1 用語の説明	10
別紙 2 橋梁定期点検手順	11
別紙 3 点検項目（変状の種類）の標準（判定の単位）	12
別紙 4 部材番号図の作成	14
別紙 5 損傷図の作成	30
別紙 6 点検表記録様式	31
付録 1：橋梁点検シートの判断基準	
付録 2：補修・補強工法事例	

令和元年 10 月
長野県 建設部 道路管理課

1. 適用範囲

本要領は、道路法（昭和27年法律第180号）第2条第1項に規定する道路における橋長2.0m以上の橋、高架の道路等（以下「道路橋」という）の定期点検に適用する。

【法令運用上の留意事項】

本要領は、「道路橋」に対して省令及び告示（以下、「法令」という）に従う定期点検を行うにあたって、参考となる技術情報を主にとりまとめたものである。法令の要点を示した上で、各部材の状態の把握と措置の必要性の検討を適切に行い、また、将来の維持管理に有益となる記録を効率的・効果的に残すために留意することをまとめている。

道路統計年報では、道路の施設として橋長2.0m以上の橋を道路橋として分類していることからこの要領の適用の範囲もこれに併せている。また、道路本体として、何らかの障害物等を跨ぎ、活荷重を支持する構造体は、この要領でいうところの橋として扱うこととする。なお、橋長2.0m未満の橋であっても道路の安全や第三者被害に懸念を与える劣化や損傷が生じることがあることに留意が必要である。

なお、法令を満足する定期点検を行うにあたっての技術的留意事項や考え方については、「道路橋定期点検要領」（平成31年2月 国土交通省 道路局）の付録を参考にすることができる。

道路の下を横断する道路や水路等の空間を確保するために盛土あるいは地盤内に設けられる構造物で、橋長2.0m以上かつ土盛り1m未満の溝橋（ボックスカルバート）は道路橋として取り扱う。

【溝橋（ボックスカルバート）の概要】

■橋長2m以上の考え方



■土盛り1m未満の考え方



2. 定期点検の頻度

定期点検は、5年に1回の頻度で実施することを基本とする。

【法令運用上の留意事項】

定期点検では、次の定期点検までの期間に想定される道路橋の状態の変化も考慮して健全性の診断を行うことになる。

道路橋の架設状況と状態によっては5年より短い間隔でも状態が変化したり危険な状態になる場合も想定される。法令は、5年以内に定期点検することを妨げるものではない。

また、法令に規定されるとおり、施設の機能を良好に保つため、定期点検に加え、日常的な施設の状態の把握や、事故や災害等による施設の変状の把握等については適宜実施するものとする。

3. 定期点検の体制

道路橋の定期点検を適正に行うために必要な知識及び技能を有する者がこれを行う。

【法令運用上の留意事項】

道路橋は、様々な材料や構造が用いられ、また、様々な地盤条件、交通及びその他周辺条件におかれること、また、これらによって、変状が道路橋に与える影響、変状の原因や進行も異なることから、道路橋の状態と措置の必要性の関係を定量化し難い。また、記録に残す情報なども、想定される活用方法に応じて適宜取捨選択する必要がある。そこで、法令に規定されるとおり、必要な知識と技能を有する者（以下、定期点検を行う者という）が道路橋の定期点検を行うこととする。

当面は以下のいずれかの要件に該当する者が行うこととする。

- ・道路橋に関する相応の資格または相当の実務経験を有すること
- ・道路橋の設計、施工、管理に関する相当の専門知識を有すること
- ・道路橋の点検に関する相当の技術と実務経験を有すること

【補足】

長野県においては、管理者協議が不要で、高所作業車や橋梁点検車等を必要とせず梯子による点検が可能な道路橋も多数存在する。このような比較的容易に点検可能な小規模橋梁については、県土木技術職員が定期点検を行うことも可能である。

※小規模橋梁とは、例えば以下の条件を満たす道路橋などが挙げられる。

- ・橋長が10m未満、径間数が1径間、上部工材料種別がRC橋・PC橋などのコンクリート橋、溝橋（ボックスカルバート）、構造が単純な橋梁
- ・関係機関協議が不要；道路又は鉄道と交差していない橋梁
- ・梯子の利用により近接目視が可能；河川と交差していない橋梁

4. 状態の把握

健全性の診断の根拠となる状態の把握は、近接目視により行うことを基本とする。

【法令運用上の留意事項】

定期点検を行う者は、健全性の診断の根拠となる道路橋の現在の状態を、近接目視により把握するか、または、自らの近接目視によるときと同等の健全性の診断を行うことができる情報が得られると判断した方法により把握しなければならない。

道路橋の健全性の診断を適切に行うために、法令では、定期点検を行う者が、道路橋の外観性状を十分に把握できる距離まで近接し、目視することが基本とされている。これに限らず、道路橋の健全性の診断を適切に行うために、または、定期点検の目的に照らして必要があれば、打音や触診等の手段を併用することが求められる。

一方で、健全性の診断のために必要とされる近接の程度や打音や触診などのその他の方法を併用する必要性については、構造物の特性、周辺部材の状態、想定される変状の要因や現象、環境条件、周辺条件などによっても異なる。したがって、一概にこれを定めることはできず、定期点検を行う者が橋毎に判断することとなる。

5. 健全性の診断

定期点検では、部材単位の健全性の診断と道路橋毎の健全性の診断を行う。

(1) 部材単位の健全性の診断
(判定区分)

部材単位の健全性の診断は、表 5.1 の判定区分により行うことを基本とする。

表 5.1 判定区分

区分		状態
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く緊急に措置を講ずべき状態。

【補足】

点検時に、うき・はく離や腐食片・塗膜片等があった場合は、道路利用者及び第三者被害予防の観点から応急的に措置を実施した上で上記 I ～IV の判定を行うこととする。

調査を行わなければならない、I ～IV の判定が適切に行えない状態と判断された場合には、その旨を記録するとともに、速やかに調査を行い、その結果を踏まえて I ～IV の判定を行うこととなる。（その場合、記録表には、要調査の場合の措置の基本的な考え方は以下のとおりとする。）

判定区分の I ～IV に分類する場合の措置の基本的な考え方は以下のとおりとする。

- I：監視や対策を行う必要のない状態をいう
- II：状況に応じて、監視や対策を行うことが望ましい状態をいう
- III：早期に監視や対策を行う必要がある状態をいう
- IV：緊急に対策を行う必要がある状態をいう

溝橋（ボックスカルバート）のうち、内空において人が侵入する恐れを通常考慮する必要がある、内空側へのコンクリート片の剥落等による第三者被害防止の観点からについては措置が不要とできるのは以下のとおりとする。

- ・鉄筋コンクリートからなる剛体ボックス構造で、かつ、ボックス構造内に支承や継手がない、かつ、全面が土に囲われているという構造の特性を有する。
- ・第三者がその内空に入る恐れがないとみなせる供用環境を有する（供用の条件例）
 - ・内空が水路等に活用されているなど、人が侵入する恐れが極めて小さい状況である。
 - ・立入防止柵やゲート等により、内空への立ち入りが物理的に規制されている状況である。

(判定の単位)

部材単位の健全性の診断は、少なくとも表 5.2 に示す評価単位毎に区別して行う。

表 5.2 判定の評価単位の標準

部位	部材
路面・路上	舗装
	伸縮装置
	高欄・防護柵
	地覆・中央分離帯
上部構造	排水装置
	主桁
	横桁
	縦桁
	床版
	対傾構
	横構
	PC定着部
	橋脚
	橋台
下部構造	基礎
	支承本体
支承部	査座モルタル
	補修・補強材
	落橋防止装置
	遮音施設
その他	照明、標識装置
	点検施設
	添架物
	袖擁壁

【補足】

道路橋は機能や役割の異なる多くの部材が複雑に組み合わされた構造体であり、部材の変状や機能障害が道路橋全体の性能に及ぼす影響は、橋梁形式等によって大きく異なる。また、一般的には補修・補強等の措置は必要な機能を回復するために部材単位で行われるため、健全性の診断を部材単位で行うこととした。(別紙3 点検項目(変状の種類)の標準(判定の単位)参照)

なお、表 5.2 に示す部材が複数ある場合、それぞれの部材について橋全体への影響を考慮して「表 5.1 判定区分」に従って判定を行う。

表 5.2 でその他に分類される部材について、直轄国道において適用される「橋梁定期点検要領」(平成 31 年 3 月 国土交通省道路局国道・技術課)、また、附属物については、「附属物(標識、照明施設等)点検要領」(平成 31 年 3 月 国土交通省道路局国道・技術課)を参考にすることができる。

(変状の種類)

部材単位の健全性の診断は、少なくとも表 5.3 に示す変状の種類毎に行う。

表 5.3 変状の種類の種類

材料の種類	変状の種類
鋼部材	腐食、亀裂、ゆるみ・脱着、破断、その他
コンクリート部材	ひびわれ、剥離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰、抜け落ち、床版ひびわれ、うき、その他
その他	遊間の異常、路面の凹凸、舗装の異常、支承部の機能障害、その他
共通	補修、補強材の損傷、定着部の異常、漏水・滲水、異常な音・振動、異常なたわみ、変形・欠損、土砂詰まり、沈下・移動・傾斜、洗掘

【補足】

定期点検の結果を受けて実施する措置の内容は、原因や特性の違う変状の種類に応じて異なってくるのが一般的である。同じ部材に複数の変状がある場合には、それぞれの変状の種類毎に判定を行う。(別紙3 点検項目(変状の種類)の標準(判定の単位)参照)

なお、その他や共通の変状について、直轄国道において適用される「橋梁定期点検要領」(平成 31 年 3 月 国土交通省道路局国道・技術課)を参考にすることができる。

(2) 道路橋毎の健全性の診断

道路橋毎の健全性の診断は表 5.4 の判定区分により行うことを基本とする。

表 5.4 判定区分

区分		状態
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く緊急に措置を講ずべき状態。

【法令運用上の留意事項】

定期点検を行う者が、道路橋の健全性の診断の一連として、道路橋の状態の把握と次回定期点検までの間の措置の必要性について総合的な診断を行う。そして、診断の内容を、法令で求められる 4 つの区分に分類する。

「道路橋毎の健全性の診断」の単位は以下を基本とする。

(「道路施設現況調査要項(国土交通省道路局企画課)」を参考にすることができる。)

- ①道路橋種別毎に 1 橋単位とする。
- ②道路橋が 1 箇所において上下線等分離している場合は、分離している道路橋毎に 1 橋として取り扱う。
- ③行政境界に架設されている場合で、当該道路橋の道路管理者が行政境界で各々異なる場合も管理者毎ではなく、1 つの道路橋として 1 橋と取り扱う（高架橋も同じ）。

道路橋毎の健全性の診断にあたっては、以下の点に注意する。

- ・部材等の変状が道路橋全体の健全性に及ぼす影響は、構造特性、変状の原因並びに変状の進行性、架橋条件などによっても異なること。
- ・複数の部材の複数の変状を総合的に評価するのがよいこと。
- ・健全性の診断では、変状の原因の推定に努め、措置の範囲や方法の検討に必要な所見を残すとよいこと。一方で、この健全性の診断は、定期点検で得られた範囲の情報に基づく対策の必要性に関する所見であり、具体的な措置方法について検討することはこの要領の定期点検の範囲では想定していないこと。（「7. 措置」を参照のこと）

【補足】

部材単位で健全性の診断を行っているとき、橋の健全性の診断において、構造物の安全性や定期点検の目的に照らして橋の性能に直接的に影響を与える部材（以下、主要な部材という）に着目して、最も厳しい健全性の診断結果で代表することもできる。ただし、それが橋の健全性の区分として代表し得るものかどうかを適切に判断する必要がある。主要な部材になり得る部材として主桁、横桁、床版、下部構造、支承などが例としてあげられるが、たとえば、支承については、橋の性能に与える影響は、橋や支承の構造、支承に期待する機能によっても異なる。その他の部材についても、たとえばそれに含まれる周辺地盤の安定が大きく橋の安定に影響を及ぼすこともある。したがって、定期点検を行う者が橋毎に主要な部材を判断することになり、画一的に部材種別を当てはめないことが必要である。

6. 記録

定期点検の結果を記録し、当該道路橋が利用されている期間中は、これを保存する。

【法令運用上の留意事項】

定期点検の結果は、維持・修繕等の計画を立案する上で参考とする基礎的な情報であり、適切な方法で記録し、蓄積しておくかなければならない。

なお、維持管理に係わる法令（道路法施行規則第 4 条の 5 の 6）に規定されているとおり、措置を講じたときはその内容を記録しなければならない。措置の結果も、維持・修繕等の計画を立案する上で参考となる基礎的な情報であり、措置の内容や結果も適切な方法で記録し、蓄積しておくかなければならない。

(別紙 4 部材番号図の作成、別紙 5 損傷図の作成、別紙 6 点検表記録様式 参照)

7. 措置

道路の効果的な維持及び修繕が図られるよう、必要な措置を講ずる。

【法令運用上の留意事項】

措置には、補修や補強などの道路橋の機能や耐久性等を維持又は回復するための対策のほか、撤去、定期的あるいは常時の監視、緊急に措置を講じることができない場合などの対応として、通行規制・通行止めがある。

措置にあたっては、最適な方法を道路橋の道路管理者が総合的に検討する。定期点検は近接目視を基本とした限定された情報で健全性の診断を行っていることに留意が必要である。たとえば、対策方法の検討のために追加で実施した調査の結果を踏まえれば、橋の措置方針が変わることも想定される。その場合には、橋の健全性の診断区分も適切に見直すことができる。

監視は、対策を実施するまでの期間、その適切性を確認した上で、変状の挙動を追跡的に把握し、以て道路橋の管理に反映するために行われるものであり、これも措置の一つであると位置づけられる。たとえば道路橋の機能や耐久性を維持するなどの対策と監視を組み合わせた措置を行うことも考えられ、監視を行うときも道路管理者は適切な措置となるように検討する必要がある。

主な対策の例

変状の種類	措置 (例)
腐食	グラインダー処理
亀裂	ストッパホール
破断	溶接板補強
その他	等
ひびわれ	ひび割れ補修工法
床版ひびわれ	断面修復工法
その他	鋼板接着工法
	床版増厚工法
	等

※上記は例であり、実際の対策に際しては状況に応じて適切な措置を行うこと。

- 本点検要領の著作権は長野県が有しています。「私的使用のための複製」や「引用」など、著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。

➤ 長野県内の市町村が本点検要領を利用することを承認します。

別紙 1 用語の説明

(1) 定期点検

定期点検は、定期点検を行う者が、近接目視を基本として状態の把握（点検※1）を行い、かつ、道路橋毎での健全性※2を診断することの一連を言い、予め定める頻度で、道路橋の最新の状態を把握するとともに、次の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行うものである。

※1 点検

道路橋の変状、道路橋にある附属物の変状や取付状態の異常について近接目視を基本として状態の把握を行うことをいう。必要に応じて実施する、近接目視に加えた打音、触診、その他の非破壊検査等による状態の把握や、応急措置※3を含む。

※2 健全性の診断

次回定期点検までの措置の必要性についての所見を示す。また、点検または調査結果により把握された変状・異常の程度を判定区分に応じて分類し、定期点検では、部材単位の健全性の診断と、道路橋毎の健全性の診断を行うことをいう。

※3 応急措置

道路橋の状態の把握を行うときに、第三者被害の可能性のあるき・剥離部や腐食片などを除去したり、附属物の取付状態の改善等を行うことをいう。

(2) 措置

定期点検結果や必要に応じて措置の検討のために追加で実施する各種の調査結果に基づいて、道路管理者が、道路橋の機能や耐久性等の維持や回復を目的に、監視、対策を行うことをいう。具体的には、定期的あるいは常時の監視、対策（補修・補強）、撤去などが例として挙げられる。また、緊急に対策を講じることができない場合などの対応として、通行規制・通行止めなどがある。

(3) 監視

監視は、対策を実施するまでの期間、道路橋の管理への活用を予定し、予め決めた箇所の挙動等を追跡的に把握することをいう。

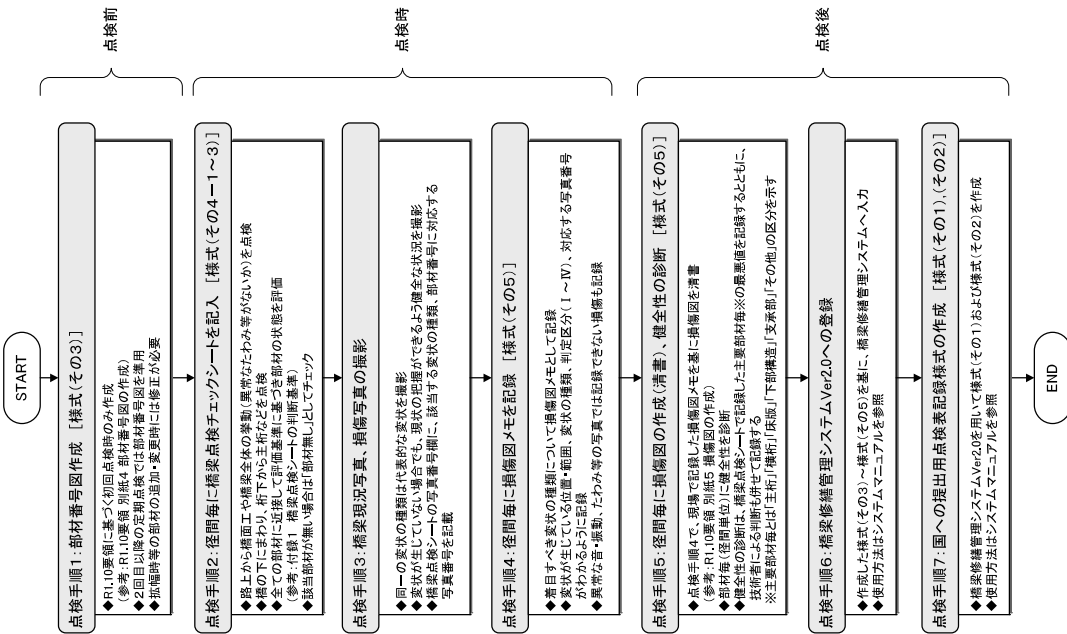
(4) 記録

定期点検、措置の検討などのために追加で行った各種調査の結果、措置の結果について、以後の維持管理のために記録することをいう。

別紙2 橋梁定期点検手順

別紙3 点検項目（変状の種類）の標準（判定の単位）

道路橋の定期点検における標準的な手順を以下に示す。



付図-1 道路橋定期点検における手順

付表-1 点検項目（変状の種類）の標準（上部構造、下部構造）

部位	部材	鋼	コンクリート	その他
上部構造	主桁	腐食 亀裂 ゆるみ・脱落 破断	ひびわれ 剥離・鉄筋露出 漏水・遊離石灰	—
	横桁			
	縦桁			
	床版		剥離・鉄筋露出 漏水・遊離石灰 振け落ち 床版ひびわれ	
	対傾構		—	
	横構			
下部構造	P C定着部	定着部の異常	定着部の異常	
	橋脚	腐食 亀裂 ゆるみ・脱落 破断	ひびわれ 剥離・鉄筋露出 漏水・遊離石灰	—
	橋台	—	沈下・移動・傾斜 洗掘	
	基礎			—

付表-2 点検項目（変状の種類）の標準（支承部、路面・路上、全体）

部位	部材	鋼	コンクリート	その他
支承部	支承本体	支承部の機能障害 漏水・滲水	—	支承部の機能障害 漏水・滲水
	沓座モルタル	—	変形・欠損 漏水・滲水	—
	鋪装	—	鋪装の異常	鋪装の異常
路面・路上	伸縮装置	遊間の異常 路面の凹凸	—	遊間の異常 路面の凹凸
	高欄・防護柵	腐食 変形・欠損	変形・欠損	—
	地覆・中央分離帯	腐食 変形・欠損	変形・欠損	—
	排水装置	土砂詰まり	—	土砂詰まり
	全体	異常な音・振動 異常なたわみ	異常な音・振動 異常なたわみ	異常な音・振動 異常なたわみ

別紙 4 部材番号図の作成

付表-3 点検項目（変状の種類）の標準（その他）				
部位	部材	鋼	コンクリート	その他
その他	補修・補強材	補修・補強材の損傷	補修・補強材の損傷	補修・補強材の損傷
	落橋防止装置	腐食 亀裂 ゆるみ・脱落 破断 逆間の異常 異常な音・振動 異常なたわみ 変形・欠損	ひびわれ 剥離・鉄筋露出 漏水・遊離石灰 うき 逆間の異常 変形・欠損 土砂詰まり	—
		遮音施設	—	ゆるみ・脱落 変形・欠損
		照明・標識装置	—	—
	点検施設	腐食 亀裂 ゆるみ・脱落 破断	—	腐食 亀裂 ゆるみ・脱落 破断 異常な音・振動 異常なたわみ 変形・欠損
		添架物	—	—
その他	袖擁壁	—	ひびわれ 剥離・鉄筋露出 漏水・遊離石灰 変形・欠損 沈下・移動・傾斜	—

部材番号図は、記録の下地となる部材番号を設定し、径間毎に作成する。また、部材番号図は、原則として橋梁を真上から見た図※として作成し、図の左側を起点側、右側を終点側とした上で、それぞれの起終点に方面を記載する。

部材番号は、表 5.2 に示す部材毎に 2 桁（支承部や落橋防止施設等、一部の部材は 4 桁）の番号をつけるものであり、各部材の名称を組み合わせることで部材を特定することができる。部材番号の 2 桁の数字は、主桁等各 1 本単位で評価する部材および、橋台等の下部構造にある場合は、橋軸方向の並び（行）または、橋軸直角方向の並び（列）を示す。

数字は図の左側（＝起点側）から右側（＝終点側）または、上側から下側に向けて順に増加するようにふりつける。また、箱桁内部の点検を行った場合は、部材番号 2 桁の数字のうち、左端の桁を 9 の値とする。

なお、部材番号図は判定区分の経年変化を知るために、初期入力されたものを更新してはならない。

補強、拡張等により、部材の追加、変更が生じた場合は、既存の部材番号図の振り直しは行わず、新規の番号を追加するものとする。

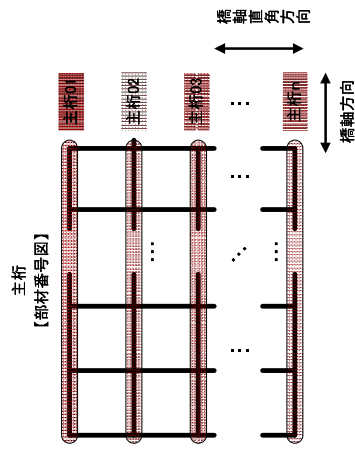
次頁以降に部位・部材単位における部材番号の付け方を示す。

※ トラス橋、アーチ橋、ラーメン橋、斜張橋等については、対象部材に応じて側面から見た図を作成する

① 主桁、縦桁

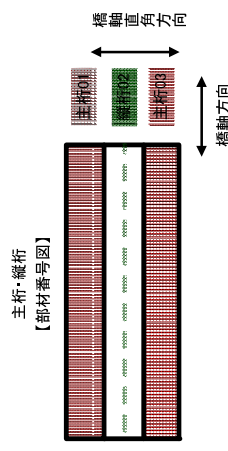
原則として、主桁1本ごとに区分する。

A. 鋼鈑桁橋、コンクリートT桁橋等



付図-2 鋼鈑桁橋、コンクリートT桁橋等の部材番号

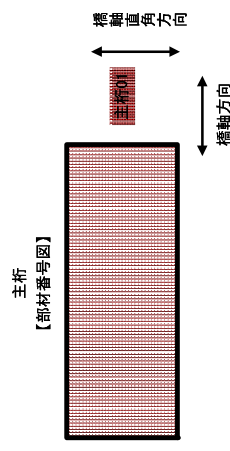
B. 箱桁橋等



付図-3 箱桁橋等の部材番号

C. 床版橋等

床版橋等で1主桁ごとに区分ができないものは、全体で「主桁01」として評価する。

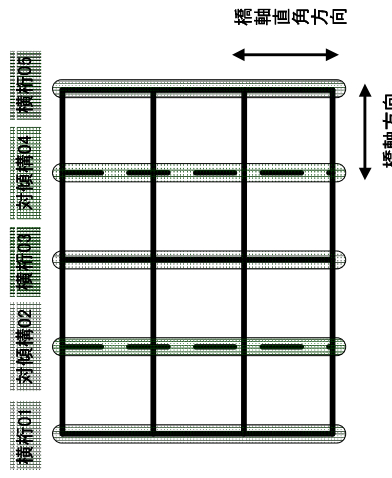


付図-4 床版橋等の部材番号

② 横桁、対傾構

外桁同士を結ぶ部材1本ごとに区分する。

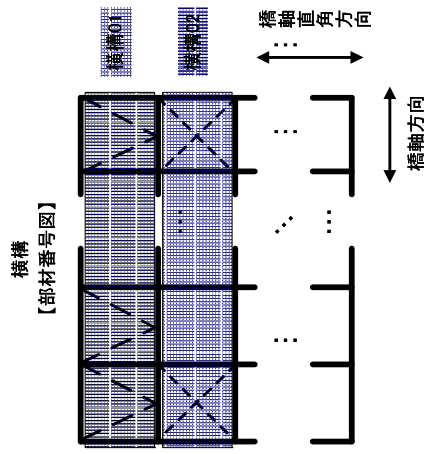
横桁・対傾構
【部材番号図】



付図-5 横桁、対傾構の部材番号

③ 横構

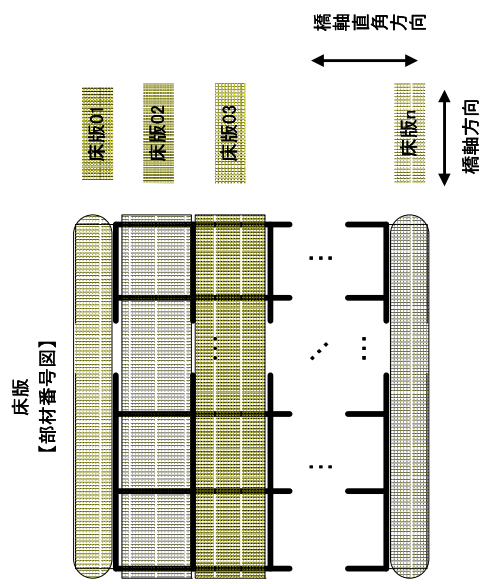
主桁によって区切られた部材ごとに区分する。



付図-6 横構の部材番号

④ 床版

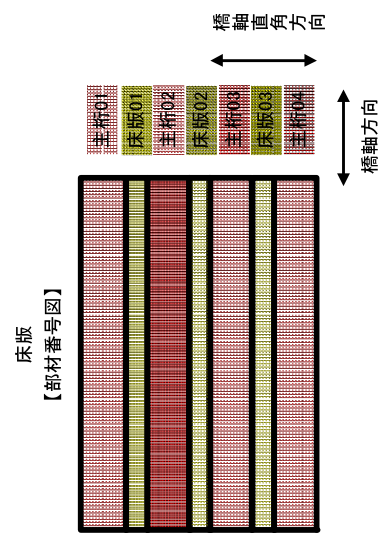
主桁によって区切られた部材ごとに区分する。



付図-7 床版の部材番号

PCプレキャスト桁等については、間詰め部を床版として評価する。

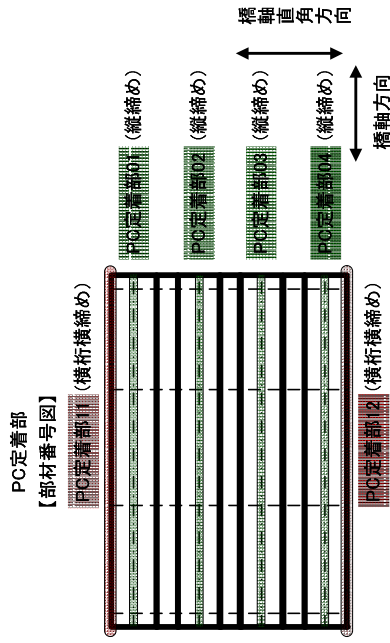
床版橋等で1主桁ごとに区分ができないものは、全体で「主桁01」として評価する（付図-4参照）。



付図-8 PCプレキャスト桁等の部材番号

⑤ PC定着部

PC定着部は、縦縮め、横桁横縮め、床版横縮めの順で付与する。
部材位置が異なる場合の部材番号は10番単位で切り上げる。



※さらに床版横縮めがある場合は「PC定着部21.22」を作成する

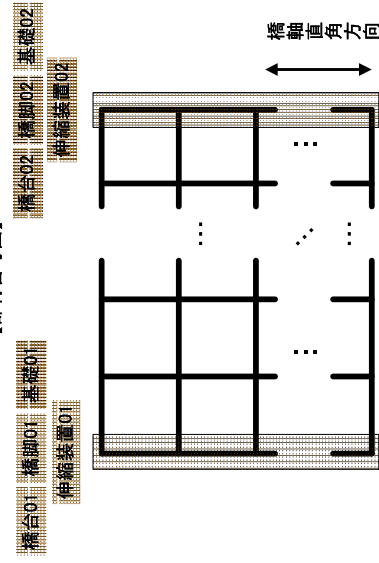
付図-9 PC定着部の部材番号

⑥ 下部構造（橋台、橋脚、基礎、伸縮装置

それぞれ1基ごとに区分する。

下部構造（橋台、橋脚、基礎、伸縮装置

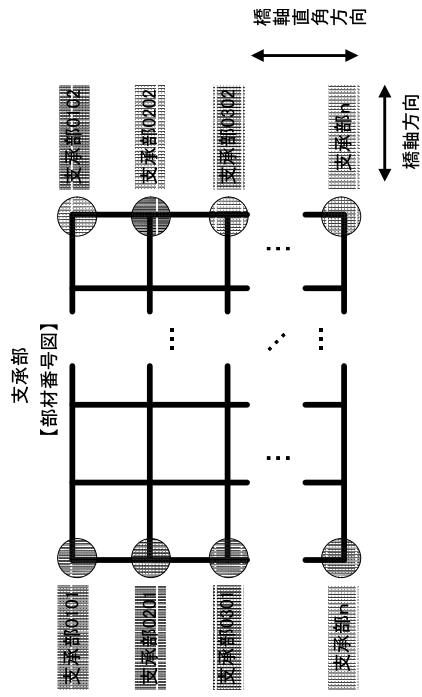
【部材番号図】



付図-10 下部構造（橋台、橋脚、基礎、伸縮装置）の部材番号

⑦ 支承部

それぞれ1基ごとに区分する。



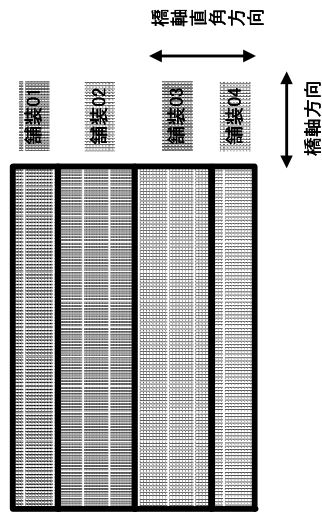
付図-11 支承部の部材番号

⑧ 舗装

歩車道別、上下線別に区分する。

舗装

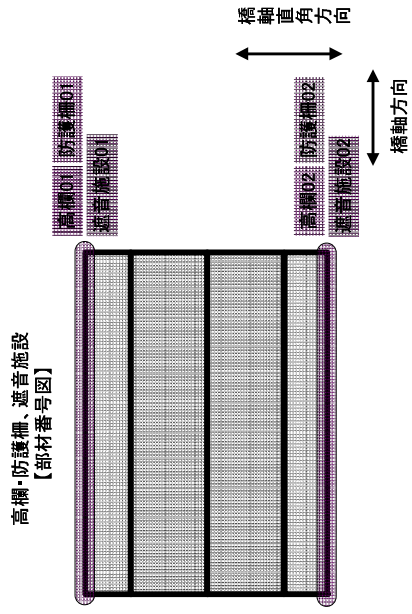
【部材番号図】



付図-12 舗装の部材番号

⑨ 高欄・防護柵、遮音施設

桁端同士を結ぶ部材ごとに区分する。



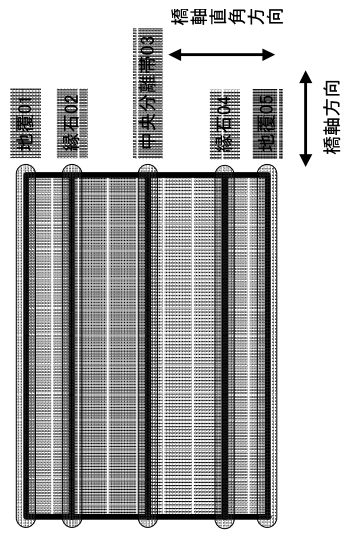
付図-13 高欄・防護柵、遮音施設の部材番号

⑩ 地覆・中央分離帯

桁端同士を結ぶ部材ごとに区分する。

地覆・中央分離帯

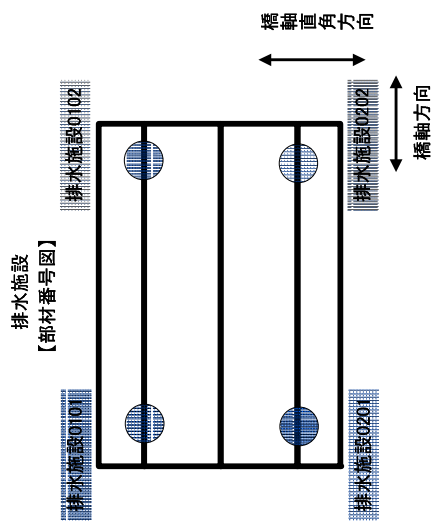
【部材番号図】



付図-14 地覆・中央分離帯の部材番号

⑪ 排水装置

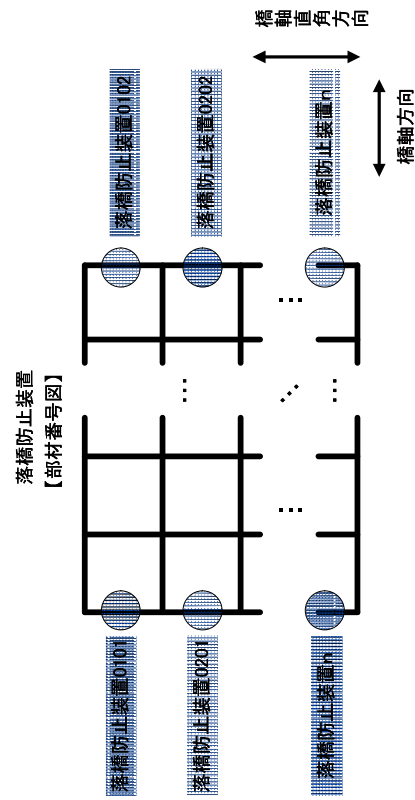
それぞれ1箇所ごとに区分する。



付図-15 排水施設の部材番号

⑫ 落橋防止装置

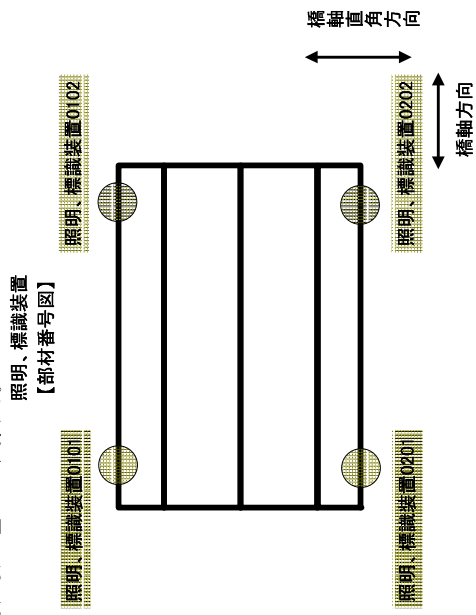
それぞれ1箇所ごとに区分する。



付図-16 落橋防止装置の部材番号

⑬ 照明、標識装置

それぞれ1箇所ごとに区分する。



付図-17 照明、標識装置の部材番号